

千原台ニュータウン7

— 草刈 1 号墳 —

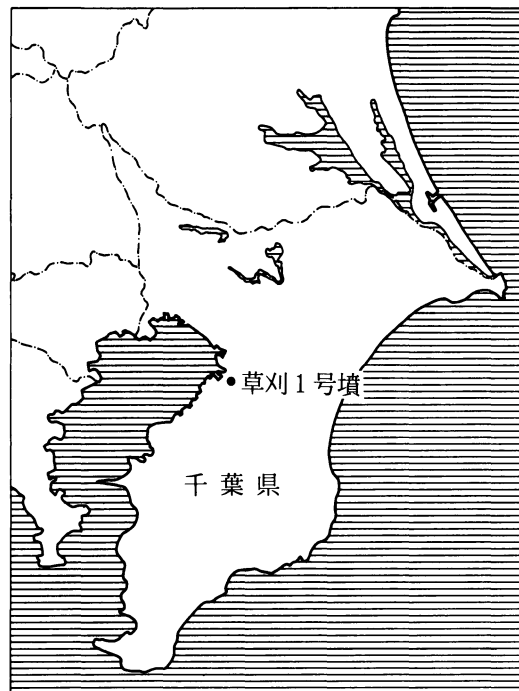
平成9年3月

住宅・都市整備公団

財団法人 千葉県文化財センター

ち はら だい
千原台ニュータウン7

— 草刈 1 号墳 —





草刈1号墳全景（東から）



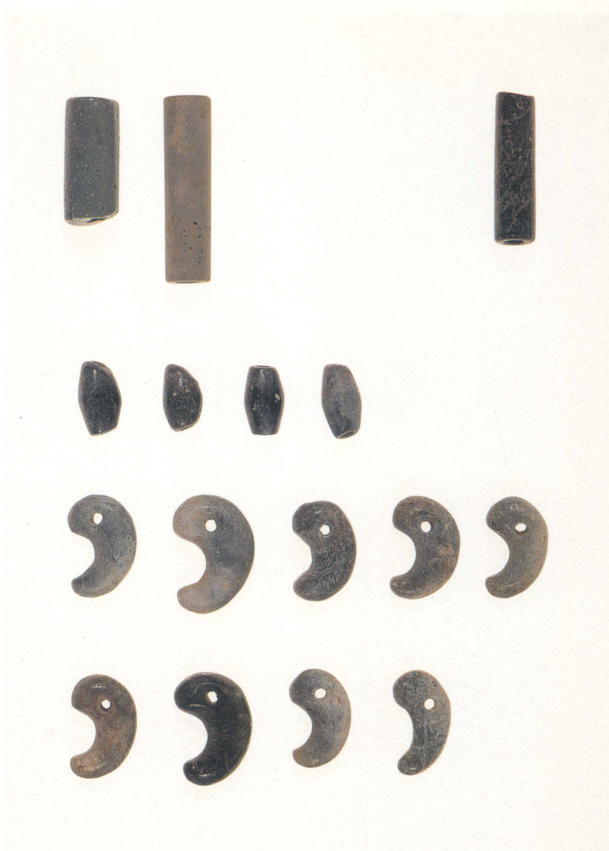
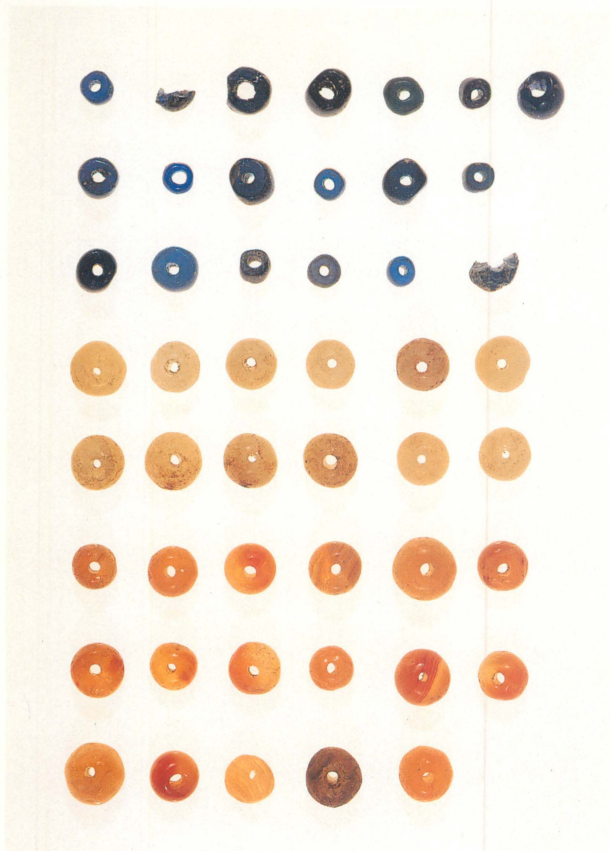
第1主体部出土遺物



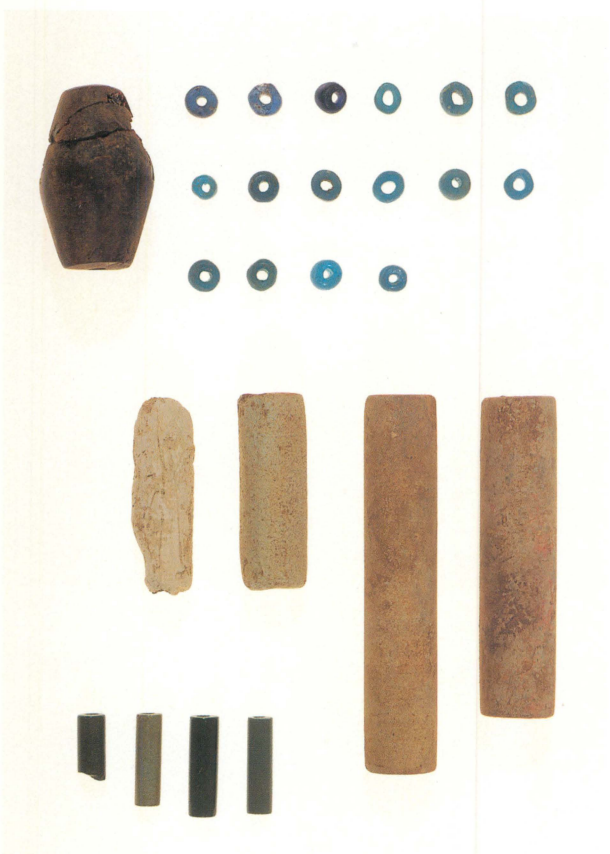
第 2 主体部出土遺物



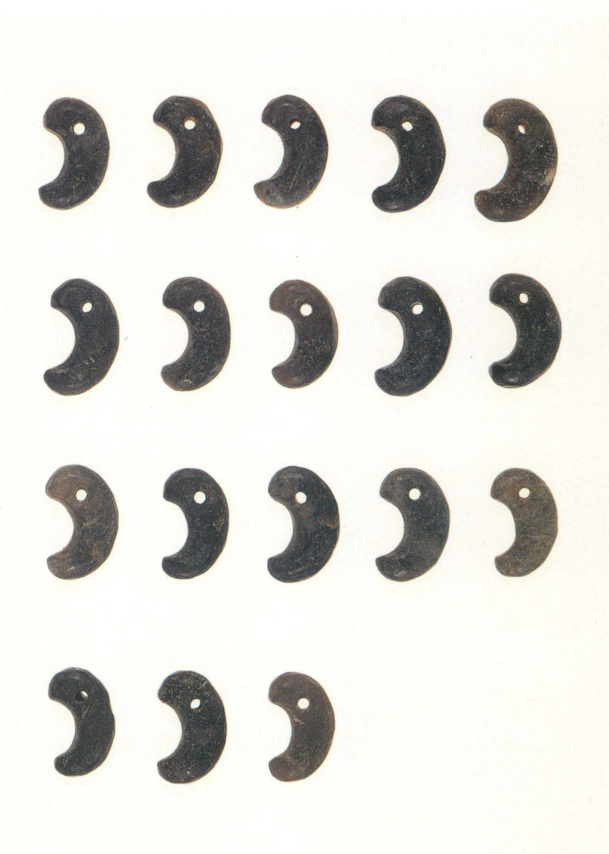
第 3 主体部出土遺物



第1 主体部の玉類



第2 主体部の玉類



第3 主体部の玉類

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第295集として、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部の千原台地区土地区画整理事業に伴って実施した市原市草刈1号墳の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、県内2例目となる鉄鋌を初め、多種多様な鉄製農具・武器類を出土するなど、村田川下流地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が、学術資料として、また文化財の啓発普及資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成9年3月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長 中村 好成

凡 例

- 1 本書は、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部による千原台地区におけるニュータウン建設計画（土地区画整理事業）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県市原市草刈字天神台1070ほかに所在する草刈1号墳（草刈遺跡F区所在、遺跡コード219-028）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査は、調査部長 鈴木道之助、班長 古内茂（昭和59年度）、阪田正一（昭和60年度）の指導のもと、調査研究員 榊原弘二、海老原充が昭和59年4月1日から昭和61年3月31日まで実施した。
整理作業は以下のように行った。なお、整理作業は台地西端部分(16,000㎡)を含めた草刈遺跡F区全体を対象として平成4年度（遺物の水洗・注記）から開始した。草刈1号墳以外のF区については現在も整理作業が継続中である。
平成5年度 調査研究部長 高木博彦、千葉調査事務所所長 深澤克友
整理担当者 高田博
平成6年度 調査研究部長 西山太郎、千葉調査事務所所長 田坂浩
整理担当者 技師 田井知二
平成7年度 調査研究部長 西山太郎、千葉調査事務所所長 矢戸三男
整理担当者 技師 田井知二
平成8年度 調査部長 西山太郎、中央調査事務所所長 藤崎芳樹
- 5 本書の執筆は、技師 田井知二が担当した。
- 6 巻頭図版の遺物写真は堀越知道氏の撮影によるものである。また、図版のX線写真は永嶋正春氏によるものである。
- 7 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、住宅・都市整備公団、市原市教育委員会、永嶋正春氏、西本豊弘氏、大久保奈奈氏の御指導、御協力を得た。
- 8 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第3図 国土地理院発行 1/25,000地形図「蘇我」(N1-54-19-15-2)
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 本書では出土した遺物について、原則として各主体部ごとの通し番号を新たに付けた。挿図中で通し番号の下にある（ ）内の数字は、発掘時に付けた遺物番号である。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の方法	1
第2節 遺跡の位置と環境	1
1. 草刈1号墳の位置	1
2. 周辺の遺跡	5
第2章 墳丘と埋葬施設	8
第1節 墳丘の形態と規模	8
1. 形態と規模	8
2. 墳丘の構築と埋葬施設の設置	11
3. 墳丘内と周溝内の遺物出土状況	13
第2節 埋葬施設	19
1. 第1主体部	19
2. 第2主体部	23
3. 第3主体部	30
第3節 出土遺物	35
1. 第1主体部の副葬品	35
2. 第2主体部の副葬品	47
3. 第3主体部の副葬品	61
4. その他の出土遺物	69
第3章 まとめ	72
第1節 草刈1号墳の構築年代	72
1. 墳丘と主体部	72
2. 副葬品	72
第2節 草刈1号墳の位置付け	76
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 東京湾東岸・ 上総北西部周辺の主な古墳	2	第5図 草刈遺跡の調査区設定	6
第2図 村田川下流域の主な古墳	3	第6図 草刈1号墳と周辺の遺構	7
第3図 千原台・東南部地区の遺跡	4	第7図 草刈1号墳の立地	8
第4図 千原台地区の古墳	5	第8図 調査開始前の1号墳と調査区の設定	9
		第9図 表土除去後の1号墳	10

第10図	1号墳墳丘下の遺構	11	第32図	第1主体部出土遺物(2)	39
第11図	墳丘・周溝形態復元	12	第33図	第1主体部出土遺物(3)	40
第12図	埋葬施設の配置	14	第34図	第1主体部出土遺物(4)	44
第13図	墳丘断面	15	第35図	第1主体部出土遺物(5)	44
第14図	墳丘・周溝内遺物出土状況	17	第36図	第1主体部出土遺物(6)	45
第15図	第1主体部	18	第37図	第1主体部出土遺物(7)	46
第16図	第1主体部遺物出土状況	19	第38図	第2主体部出土遺物(1)	48
第17図	第1主体部(西部分)遺物出土状況	20	第39図	第2主体部出土遺物(2)	49
第18図	第1主体部(中央部分) 遺物出土状況	21	第40図	第2主体部出土遺物(3)	50
第19図	第1主体部(東部分)遺物出土状況	22	第41図	第2主体部出土遺物(4)	54
第20図	第2主体部	24	第42図	第2主体部出土遺物(5)	56
第21図	第2主体部遺物出土状況	25	第43図	第2主体部出土遺物(6)	57
第22図	第2主体部(西部分)遺物出土状況	26	第44図	第2主体部出土遺物(7)	59
第23図	第2主体部(中央部分) 遺物出土状況	27	第45図	第3主体部出土遺物(1)	61
第24図	第2主体部(東部分)遺物出土状況	28	第46図	第3主体部出土遺物(2)	63
第25図	第3主体部(1)	29	第47図	第3主体部出土遺物(3)	64
第26図	第3主体部(2)	30	第48図	第3主体部出土遺物(4)	68
第27図	第3主体部遺物出土状況	31	第49図	主体部出土土器、 墳丘・周溝出土遺物(1)	70
第28図	第3主体部(西部分)遺物出土状況	32	第50図	墳丘・周溝出土遺物(2)	71
第29図	第3主体部(中央部分) 遺物出土状況	33	第51図	草刈1号墳の副葬品	73
第30図	第3主体部(東部分)遺物出土状況	34	第52図	鉄鋌復元模式図	75
第31図	第1主体部出土遺物(1)	36	第53図	草刈3号墳と七廻塚古墳	77
			第54図	上赤塚1号墳	78
			第55図	菊間新皇塚古墳と大厩浅間様古墳	79

表 目 次

第1表	墳丘・周溝規模(復元値)一覧	12	第9表	第2主体部出土ガラス玉計測値	48
第2表	埋葬施設の規模	13	第10表	第2主体部出土琥珀玉・管玉計測値	50
第3表	埋葬施設出土遺物一覧	35	第11表	第2主体部出土滑石製臼玉計測値	51
第4表	第1主体部出土ガラス玉計測値	37	第12表	第2主体部出土鉄剣計測値	56
第5表	第1主体部出土メノウ製丸玉計測値	37	第13表	第2主体部出土鉄鏃計測値	58
第6表	第1主体部出土滑石製勾玉計測値	38	第14表	第3主体部出土滑石製勾玉計測値	62
第7表	第1主体部出土棗玉・管玉計測値	38	第15表	第3主体部出土滑石製臼玉計測値	62
第8表	第1主体部出土滑石製臼玉計測値	39	第16表	第3主体部出土鉄剣計測値	68

図版目次

巻頭図版 1	草刈 1 号墳全景		
	第 1 主体部出土遺物		
巻頭図版 2	第 2 主体部出土遺物		
	第 3 主体部出土遺物		
巻頭図版 3	第 1 主体部の玉類		
	第 2 主体部の玉類		
	第 3 主体部の玉類		
図版 1	1 村田川の川べりからみた草刈 1 号墳 の立地	3	第 2 主体部 遺物出土状況 集中 6
	2 調査前近景		
	3 表土除去後近景		
図版 2	1 第 1 主体部 粘土範囲検出状況		
	2 第 1 主体部 発掘状況		
	3 第 1 主体部 発掘状況		
図版 3	1 第 1 主体部 遺物出土状況 全景		
	2 第 1 主体部 遺物出土状況 集中 1		
	3 第 1 主体部 遺物出土状況 集中 3		
図版 4	1 第 1 主体部 遺物出土状況 集中 3 ～集中 5		
	2 第 1 主体部 遺物出土状況 集中 5		
	3 第 1 主体部 遺物出土状況 集中 5		
図版 5	1 第 1 主体部 遺物出土状況 集中 6		
	2 第 1 主体部 埋葬施設の構造		
	3 第 1 主体部 埋葬施設の構造		
図版 6	1 第 1 主体部 埋葬施設の構造 北西 部分		
	2 第 1 主体部 埋葬施設の構造		
	3 第 1 主体部 埋葬施設の構造		
図版 7	1 第 2 主体部 発掘状況		
	2 第 2 主体部 遺物出土状況 全景		
	3 第 2 主体部 遺物出土状況 集中 1		
図版 8	1 第 2 主体部 遺物出土状況 集中 3 ～集中 5		
	2 第 2 主体部 遺物出土状況 集中 5		
図版 9	1 第 2 主体部 遺物出土状況 集中 8、 集中 9		
	2 第 2 主体部 遺物出土状況 集中 8、 集中 9		
	3 第 2 主体部 遺物出土状況 集中 7 ～集中 9		
図版 10	1 第 3 主体部 発掘状況		
	2 第 3 主体部 発掘状況 東部分		
	3 第 3 主体部 遺物出土状況 集中 3 ～集中 5		
図版 11	1 第 3 主体部 遺物出土状況 集中 5		
	2 第 3 主体部 遺物出土状況 全景		
	3 第 3 主体部 遺物出土状況 全景		
図版 12	1 埋葬施設の配置 手前から第 3・1・ 2 主体部		
	2 第 2 主体部 埋葬施設の構造		
	3 第 3 主体部 埋葬施設の構造		
図版 13	1 発掘調査後 全景		
	2 発掘調査後 全景		
	3 周溝 北東部分		
図版 14	1 周溝 北部分		
	2 周溝 南東部分		
	3 周溝		
図版 15	1 周溝 東西土層断面 東部分		
	2 周溝 南西－北東土層断面 北東部 分		

- 3 墳丘盛土 土層断面
- 図版16 1 墳丘盛土 東西土層断面 東部分
2 墳丘盛土 南北土層断面
3 墳丘盛土 南北土層断面 中央部分
- 図版17 1 墳丘盛土 北西－南東土層断面 北
西部分
2 墳丘盛土 南西－北東土層断面 北
東部分
3 墳丘盛土 北西－南東土層断面 南
東部分
- 図版18 1 墳丘盛土 南北土層断面 南部分
2 墳丘盛土 南北土層断面 北部分
3 墳丘盛土 南西－北東土層断面 南
西部分
- 図版19 1 墳丘盛土 東西土層断面 西部分
2 墳丘下層の遺構
3 墳丘下層の遺構
- 図版20 第1主体部出土遺物（鎌・刀子・銅釧・
鉄釧・軽石）
- 図版21 第1主体部出土鉄製品（鉄鋌・斧・刀子・
劍）
第2主体部出土鉄矛
- 図版22 第2主体部出土鉄製品（鋌・鎌・斧）
- 図版23 第2主体部出土鉄製品（鋸・蕨手刀子・
刀子・鑿・きさげ状鉄器）
- 図版24 第2主体部出土鉄劍
- 図版25 第3主体部出土鉄劍
- 図版26 遺物の付着物等の拡大写真
- 図版27 滑石製白玉
墳丘盛土内出土遺物（土製模造品・鋌先）
- 図版28 玉類のX線写真
- 図版29 第1主体部出土鉄製品のX線写真（鉄鋌・
斧・刀子・劍・鎌）
- 図版30 第2主体部出土鉄製品のX線写真（鋸・
矛・蕨手刀子・刀子・鑿・きさげ状鉄器）
- 図版31 第2主体部出土鉄鋌のX線写真
- 図版32 鉄製品のX線写真 第2主体部（劍の茎）
墳丘（鋌先）
- 図版33 鉄製品のX線写真 第3主体部（劍の茎）
第1主体部（釧）
第2主体部（斧）

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1. 調査に至る経緯

財団法人千葉県文化財センターは、千原台地区土地区画整理事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもとに、住宅・都市整備公団の委託により、昭和53年度から計画的かつ継続的に発掘調査を実施している。これらの発掘調査成果の一部は既に報告書として刊行されている。

今回報告する草刈1号墳は、千葉県教育委員会が住宅・都市整備公団と遺跡の取扱いについて協議した結果、記録保存の措置がとられることになったもので、当センターが昭和59・60年度に発掘調査を実施した草刈遺跡F区内に所在した古墳である。

2. 調査の方法

発掘調査に先立って墳丘測量を実施した。測量における等高線は25cm間隔である。

次に墳頂と墳丘の周囲に基準杭（No.1～No.5）を打ち、これを基に南北、東西に2本の直交する土層観察用ベルトを設定した。これに加え45°方向を変えたベルトを4本設定し、さらに細かい部分の把握を心がけた。墳丘の表土除去と併行して周溝の検出作業を行い、表土除去と周溝の検出が完了したところで、再び墳丘測量を実施した。

その後墳丘の調査に入ったが、表土除去後まもなく埋葬施設を検出したので、埋葬施設を中心にした面的な調査に移行した。なお、基本となる2本のベルトにおいては、図面上で、表土から通して土層の断面が観察できるようにした。

検出した埋葬施設はいずれも長軸が北西－南東の方向にあったので、はじめ墳丘に設定した東西南北を基準にした調査区とは別の50cm方眼のグリッドを設定して調査を進めることにした。

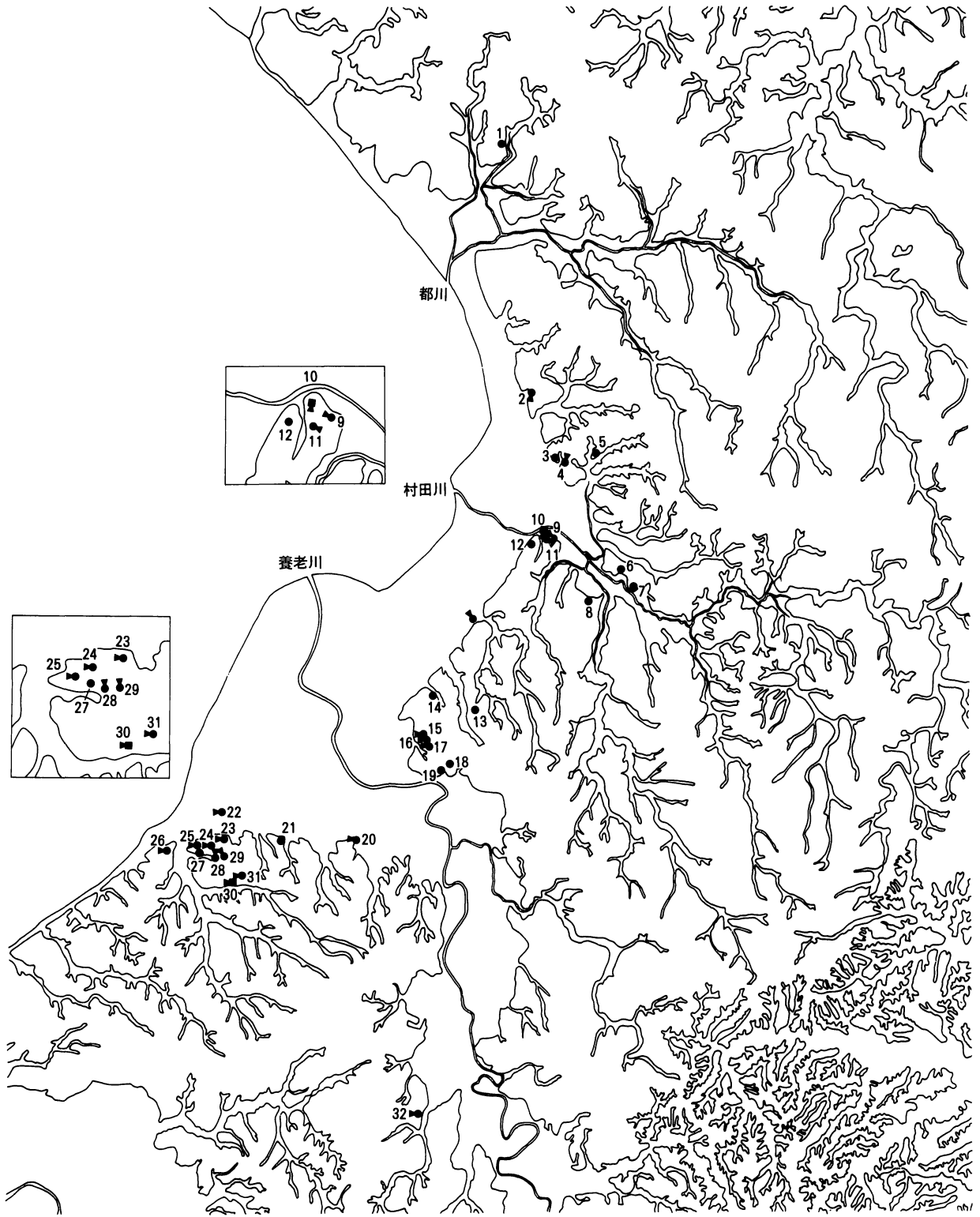
埋葬施設の調査終了後、ベルトは残したままで順次、墳丘を下げ、墳丘内の遺構、遺物の検出に努めた。墳丘下の旧表土面に調査が及んだ段階で、旧表土の残存範囲と検出面の高さを記録した。さらに墳丘の土層断面図を作成して、発掘調査は終了した。

第2節 遺跡の位置と環境

1. 草刈1号墳の位置（第1～6図）

1号墳は千葉市の中心からおよそ7km南で東京湾にそそぐ村田川の北側に位置している。東南東ないしは南東に向かって村田川を遡ると、現在の河口から3kmほどで下総台地の西端にたどり着く。

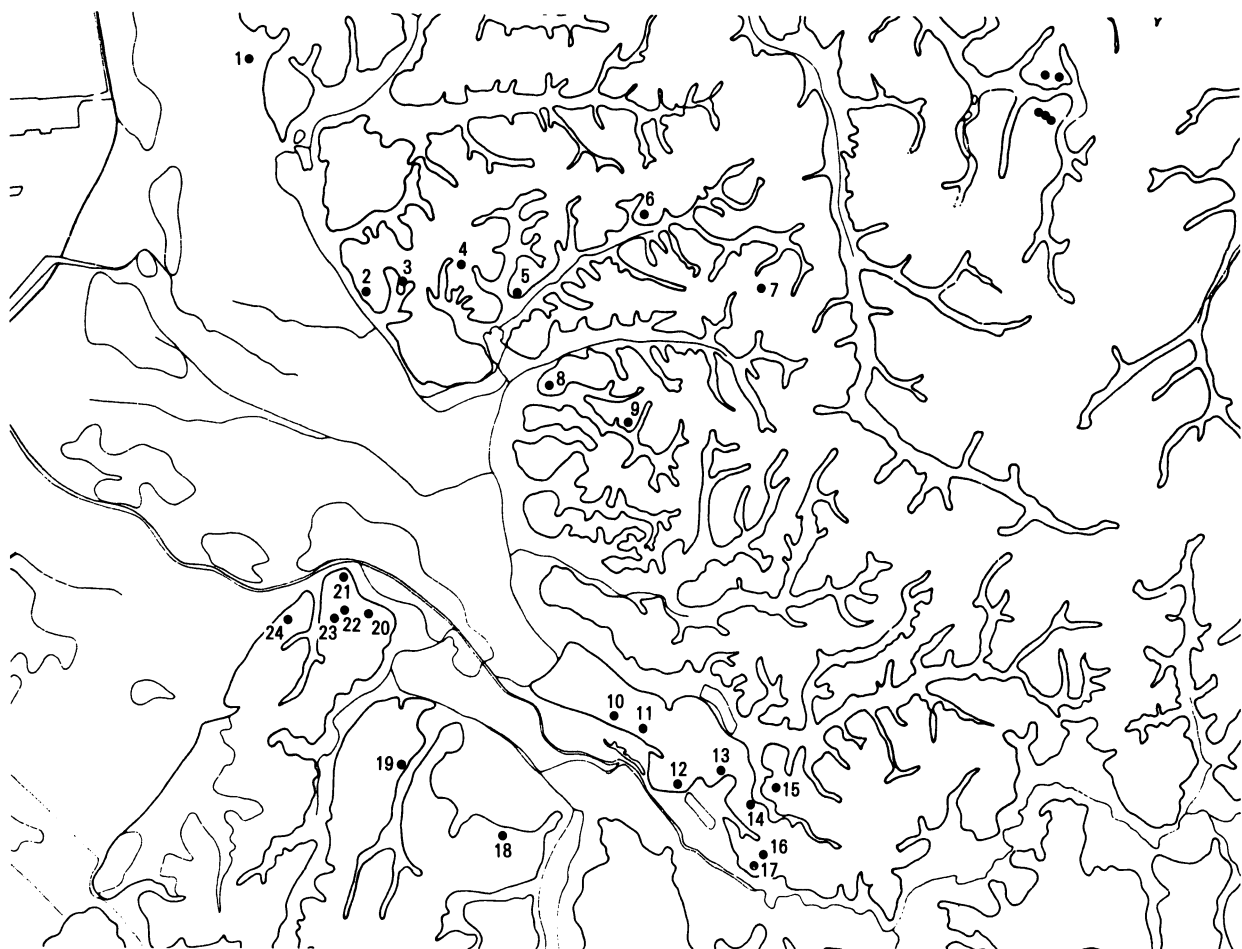
この台地左岸には新皇塚古墳を含む菊間古墳群が位置しており、さらに2kmほど上流の右岸に草刈1号墳を含む草刈遺跡が所在する台地が展開する。台地は村田川の流れに沿うようにして北西－南東の方向へ広がっている。台地は、幅150m～400m、長さ1,500m、標高は最も低い西端部で27m、最も高い東端部で40mほどで総面積は約30haを測る。また、「草刈六之台遺跡」として先に報告書が刊行された台地中央の突出部、「草刈古墳群」として調査を行った台地南東端部分も広い意味で草刈遺跡の一部をなしている。



(縮尺 1 / 150,000)

- | | | |
|--------------------|--------------------|---------------------|
| 1 石神 2 号墳 (円墳) | 12 菊間天神山古墳 (円墳) | 23 天神山古墳 (前方後円墳) |
| 2 狐塚古墳 (前方後円墳) | 13 稻荷台 1 号墳 (円墳) | 24 釈迦山古墳 (前方後円墳) |
| 3 七廻塚古墳 (円墳) | 14 南向原 4 号墳 (円墳) | 25 山王山古墳 (前方後円墳) |
| 4 大覚寺山古墳 (前方後円墳) | 15 神門 3 号墳 (前方後円墳) | 26 外郭古墳 (前方後円墳) |
| 5 上赤塚 1 号墳 (円墳) | 16 神門 4 号墳 (前方後円墳) | 27 富士見塚古墳 (円墳) |
| 6 草刈 1 号墳 (円墳) | 17 神門 5 号墳 (前方後円墳) | 28 鶴窪古墳 (前方後円墳) |
| 7 草刈 3 号墳 (円墳) | 18 東間部多 1 号墳 (円墳) | 29 原 1 号墳 (前方後円墳) |
| 8 大厩浅間様古墳 (円墳) | 19 持塚 1 号墳 (円墳) | 30 六孫王原古墳 (前方後方) |
| 9 姫宮古墳 (前方後円墳) | 20 今富塚山古墳 (前方後円墳) | 31 堰頭古墳 (前方後円墳) |
| 10 新皇塚古墳 (前方後方? 墳) | 21 海保大塚古墳 (円墳) | 32 報恩寺 1 号墳 (前方後円墳) |
| 11 権現山古墳 (前方後円墳) | 22 二子塚古墳 (前方後円墳) | |

第 1 図 東京湾東岸・上総北西部周辺の主な古墳



(縮尺 1 / 50,000)

- | | | |
|--------------------|------------------|--------------------|
| 下流域北岸 (北西部) | | 13 草刈11号墳 (前方後円墳) |
| 1 狐塚古墳 (前方後円墳) | 2 七廻塚古墳 (円墳) | 14 草刈24号墳 (円墳) |
| 3 大覚寺山古墳 (前方後円墳) | 4 八人塚古墳群 (円墳) | 15 草刈29号墳 (円墳) |
| 5 上赤塚1号墳 (円墳) | 6 南二重堀遺跡 (集落) | 16 草刈32号墳 (前方後円墳) |
| 7 高沢古墳群 (前方後円墳) | 8 椎名崎古墳群 (前方後円墳) | 17 草刈33号墳 (前方後円墳) |
| 9 人形塚古墳 (前方後円墳) | | |
| 下流域北岸 (南東部) | | 下流域南岸 |
| 10 草刈1号墳 (円墳) | 11 草刈2号墳 (方墳) | 18 大厩浅間様古墳 (円墳) |
| | | 19 大厩二子塚古墳 (前方後円墳) |
| | | 20 姫宮古墳 (前方後円墳) |
| | | 21 新皇塚古墳 (前方後方?墳) |
| | | 22 北野天神山古墳 (前方後円墳) |
| | | 23 東関山古墳 (前方後円墳) |
| | | 24 菊間天神山古墳 (円墳) |

第2図 村田川下流域の主な古墳

と考えられる。台地は西端が海食崖、南西側は崖、北東側は北西～南東方向に延びる谷津によって区切られている。

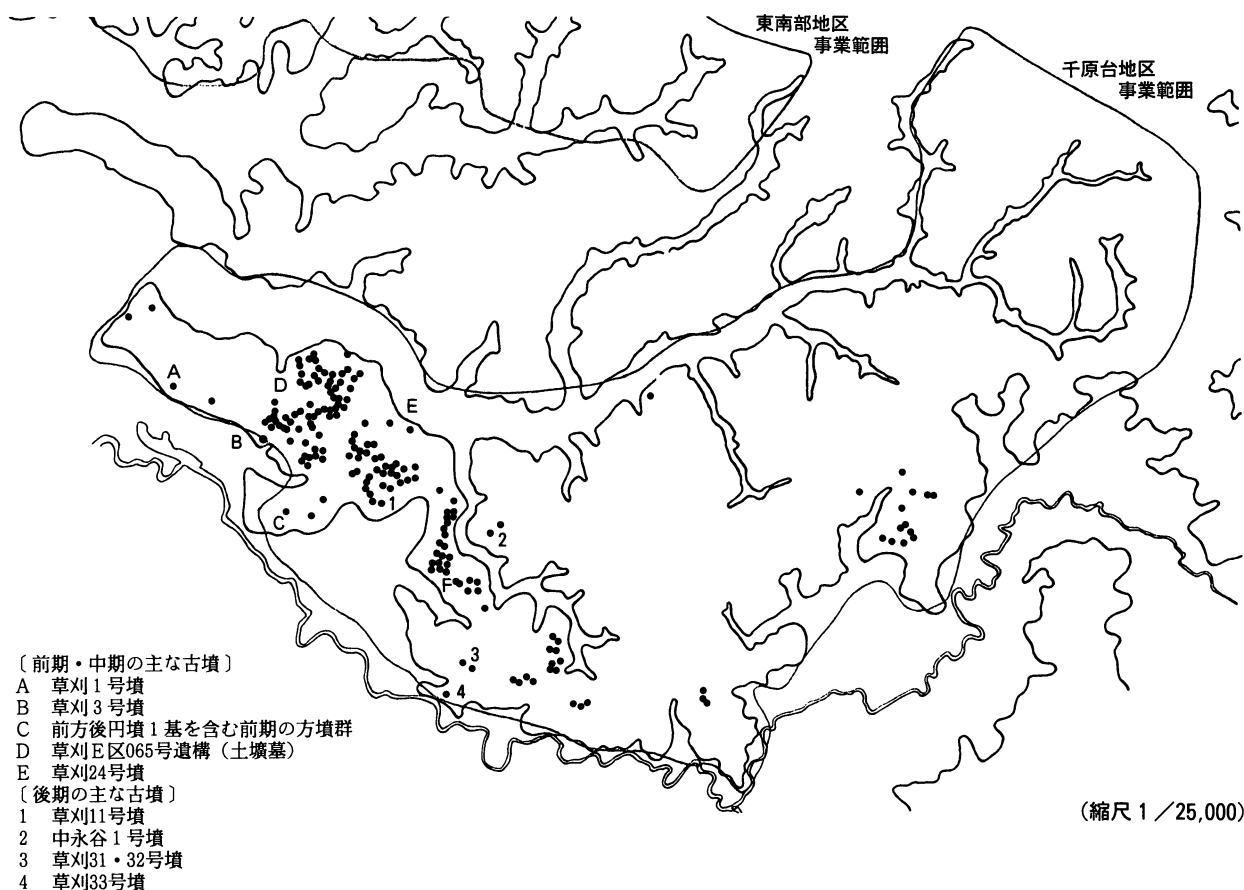
草刈1号墳の位置する台地西部の南側は、かなり急な崖状の斜面になっている。しかし、周溝や墳丘下の遺構分布状況を見ると往時はさらに南側に台地が続いていたと思われる。明治15年7月測図による地形図では、1号墳は既に台地南端に位置しており、台地は南西端の一部を除いて近代以前に削られていたことが確認できる。



(縮尺 1/25,000)

- | | | | | |
|----------|--------------|-----------|----------|--------------|
| 1 草刈 | 13 ナキノ台 | 25 小金沢古墳群 | 37 有吉南 | 49 椎名崎古墳群C支群 |
| 2 草刈六之台 | 14 押沼影之谷 | 26 六通金山 | 38 有古城跡 | 50 伯父名台 |
| 3 草刈古墳群 | 15 押沼林谷 | 27 ムコアラク | 39 白鳥台 | 51 今台 |
| 4 中永谷 | 16 押沼大六天 | 28 小金沢貝塚 | 40 高沢古墳群 | 52 富岡古墳群 |
| 5 川焼台 | 17 押沼第1 | 29 六通 | 41 神明社裏 | 53 鎌取場台 |
| 6 草刈33号墳 | 18 押沼第2 | 30 御塚台 | 42 鎌取 | 54 大膽野南貝塚 |
| 7 川焼台瓦窯跡 | 19 椎名崎古墳群A支群 | 31 高沢 | 43 六通神社南 | 55 上赤塚貝塚 |
| 8 鶴牧 | 20 木戸作 | 32 南二重堀 | 44 有吉南貝塚 | |
| 9 鶴牧古墳群 | 21 有吉 | 33 バクチ穴 | 45 有吉北貝塚 | |
| 10 ばあ山 | 22 生浜古墳群 | 34 馬の口 | 46 六通貝塚 | |
| 11 野馬堀 | 23 椎名崎古墳群B支群 | 35 上赤塚古墳群 | 47 城ノ台 | |
| 12 人形塚 | 24 椎名崎 | 36 大膽野北 | 48 太田法師 | |

第3図 千原台・東南部地区の遺跡



第4図 千原台地区の古墳

2. 周辺の遺跡（第1～4図）

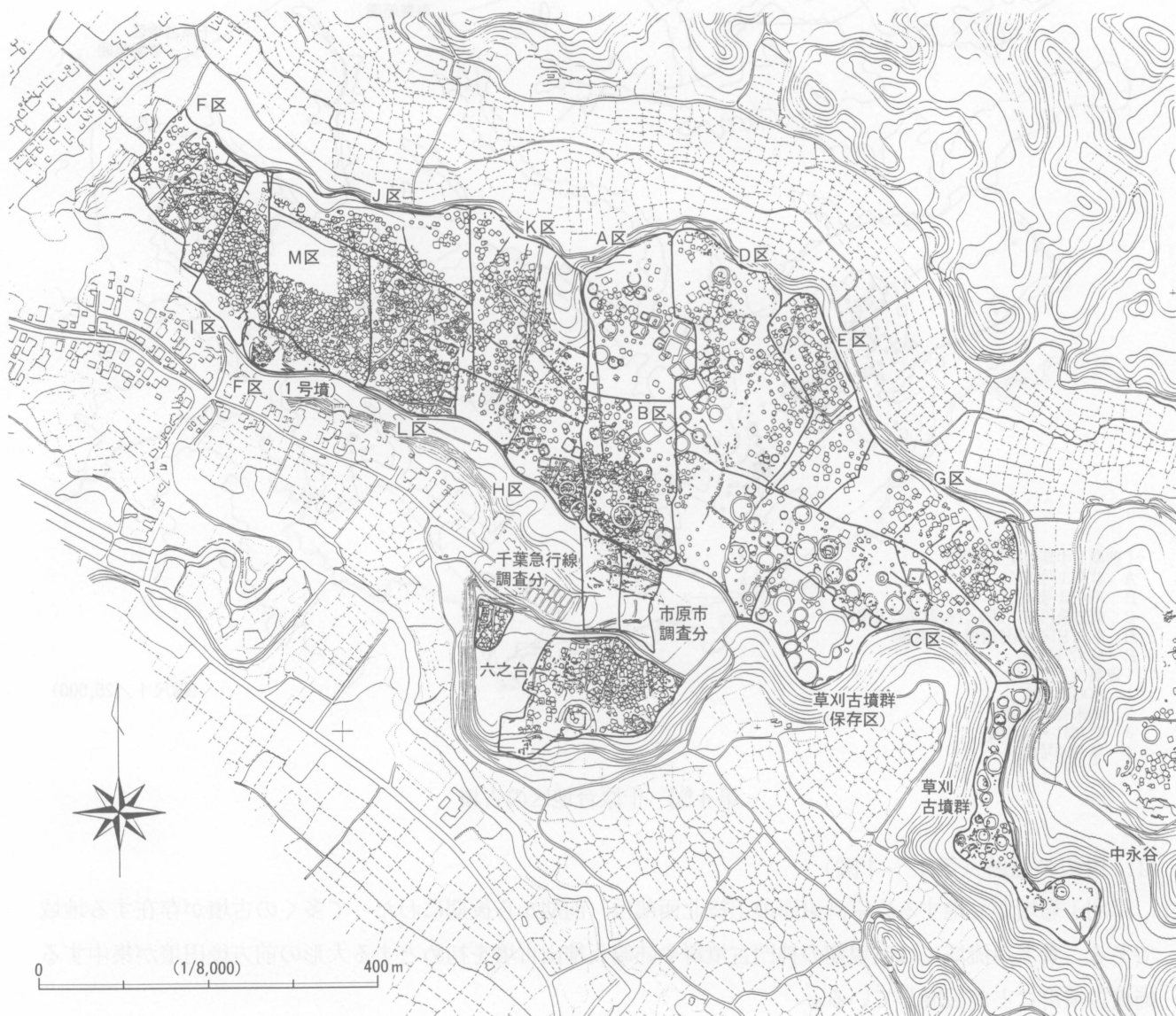
草刈1号墳が立地する東京湾東岸の上総北西部は、前期から後期にわたって多くの古墳が存在する地域である。養老川流域には出現期の神門古墳群や姉崎天神山古墳を初めとする大形の前方後円墳が集中する姉崎古墳群などが展開している。

村田川の南岸には、前期の前方後方墳あるいは方墳と考えられる新皇塚古墳、周溝から埴輪を出土した5世紀後半と考えられる菊間天神山古墳、前方後円墳の北野天神山古墳、姫宮古墳、東関山古墳などで構成される菊間古墳群や、川をはさんで草刈1号墳に向き合う形で立地する大厩浅間様古墳を初めとした大厩古墳群がある。

村田川北岸に目を移すと北方には大覚寺山古墳や石枕を出土した上赤塚1号墳、七廻塚古墳、古墳築造の際の企画線が見つかった人形塚古墳などが存在している。

千原台地区に目を転じれば、最も古いと考えられる古墳は、草刈A区の前方後方墳（99号跡）を中心とする方墳群で、総数は40基近くが確認されている。これらに後続する古墳は、1号墳の南東約600mに位置する草刈3号墳（大形円墳）が考えられる。なお、草刈3号墳からも滑石製の大型腕飾り片や小形勾玉などを発見しており、この時期に3号墳が再利用されたことを窺わせている。1号墳と時期的に近い古墳としては、草刈2号墳（方墳）、草刈24号墳（円墳）と草刈E区の土壙墓（65号跡）をあげることができる。

後期になると古墳が集中するのは草刈遺跡の東寄りの地区に移り、草刈33号墳、草刈11号墳、中永谷1

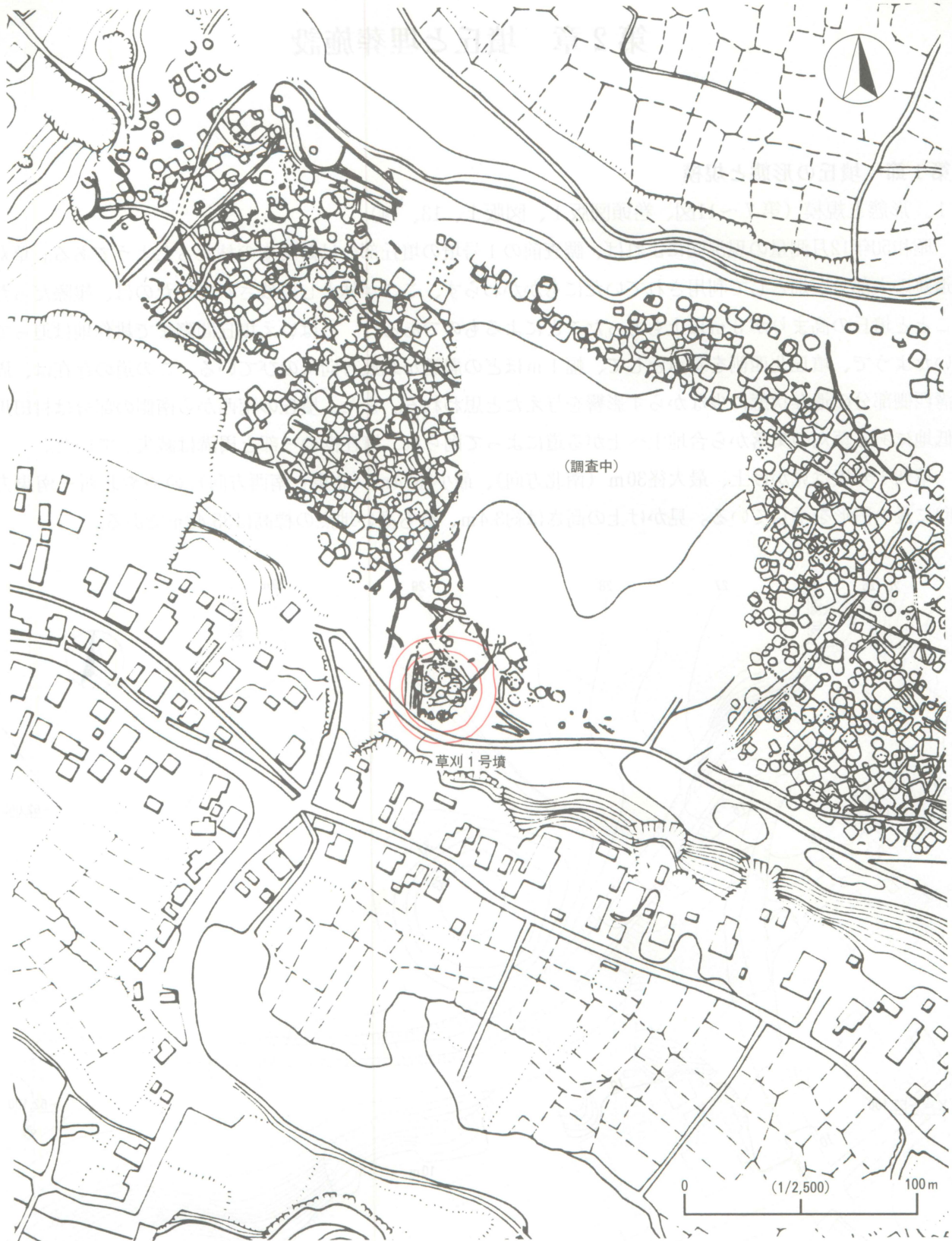


第5図 草刈遺跡の調査区設定

号墳、草刈31・32号墳などの前方後円墳と多くの円墳が展開している。

草刈遺跡は、旧石器時代に始まり縄文時代から平安時代へ連綿とつながる大規模な遺跡であるが、調査途中でもあり、その全容は明らかにはなっていない。しかし、弥生時代の後半から古墳時代を通じて遺跡の全域にわたって集落が広がっていたことはほぼ間違いのないところである。

草刈遺跡のすぐ東には古墳時代後期を中心とした中永谷遺跡があり、その南には小銅鐸を出土した弥生時代後期から古墳時代後期にわたる川焼台遺跡が、さらに川焼台遺跡の南東には古墳時代後期の集落を中心とした鶴牧遺跡が展開している。



第6図 草刈1号墳と周辺の遺構

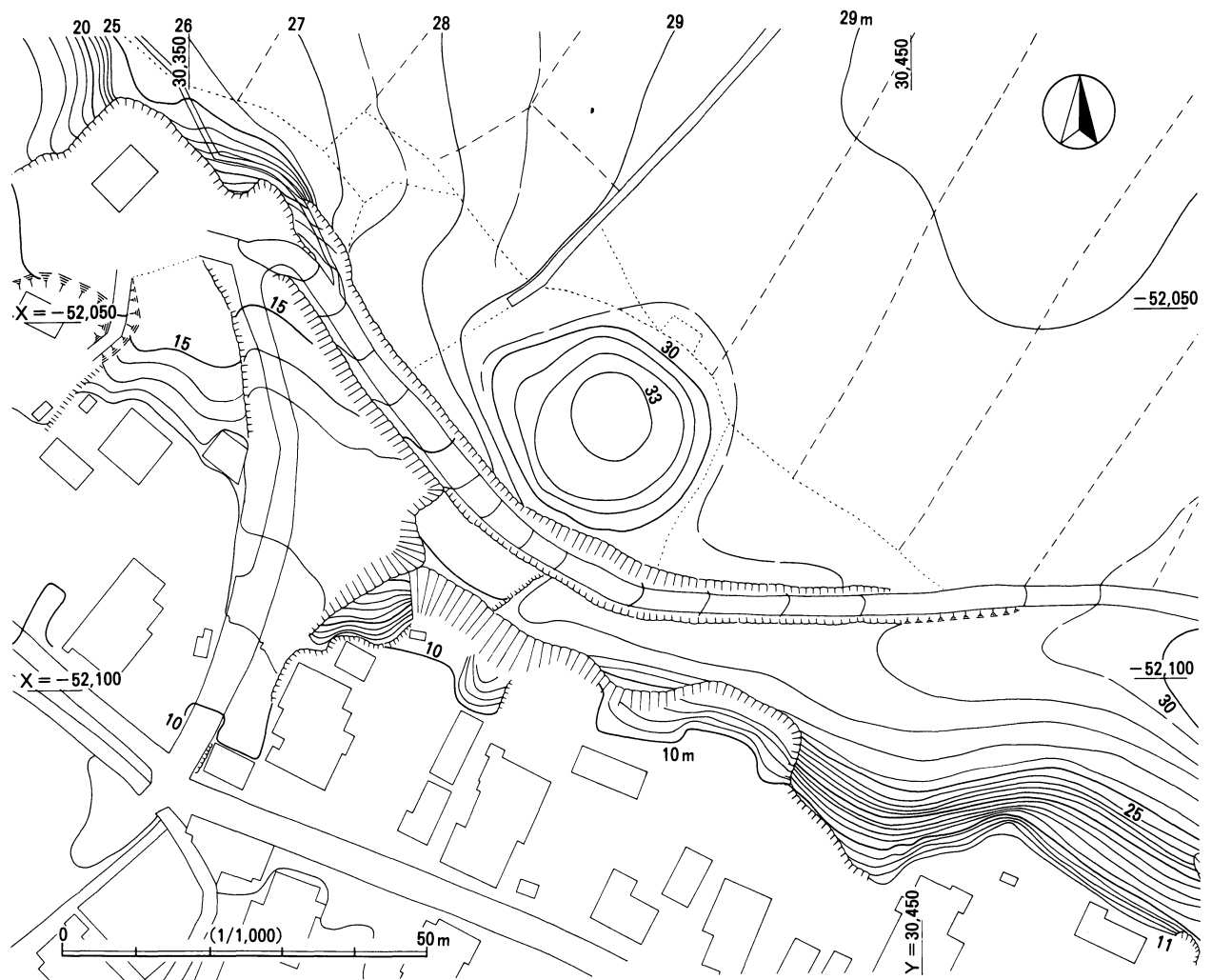
第2章 墳丘と埋葬施設

第1節 墳丘の形態と規模

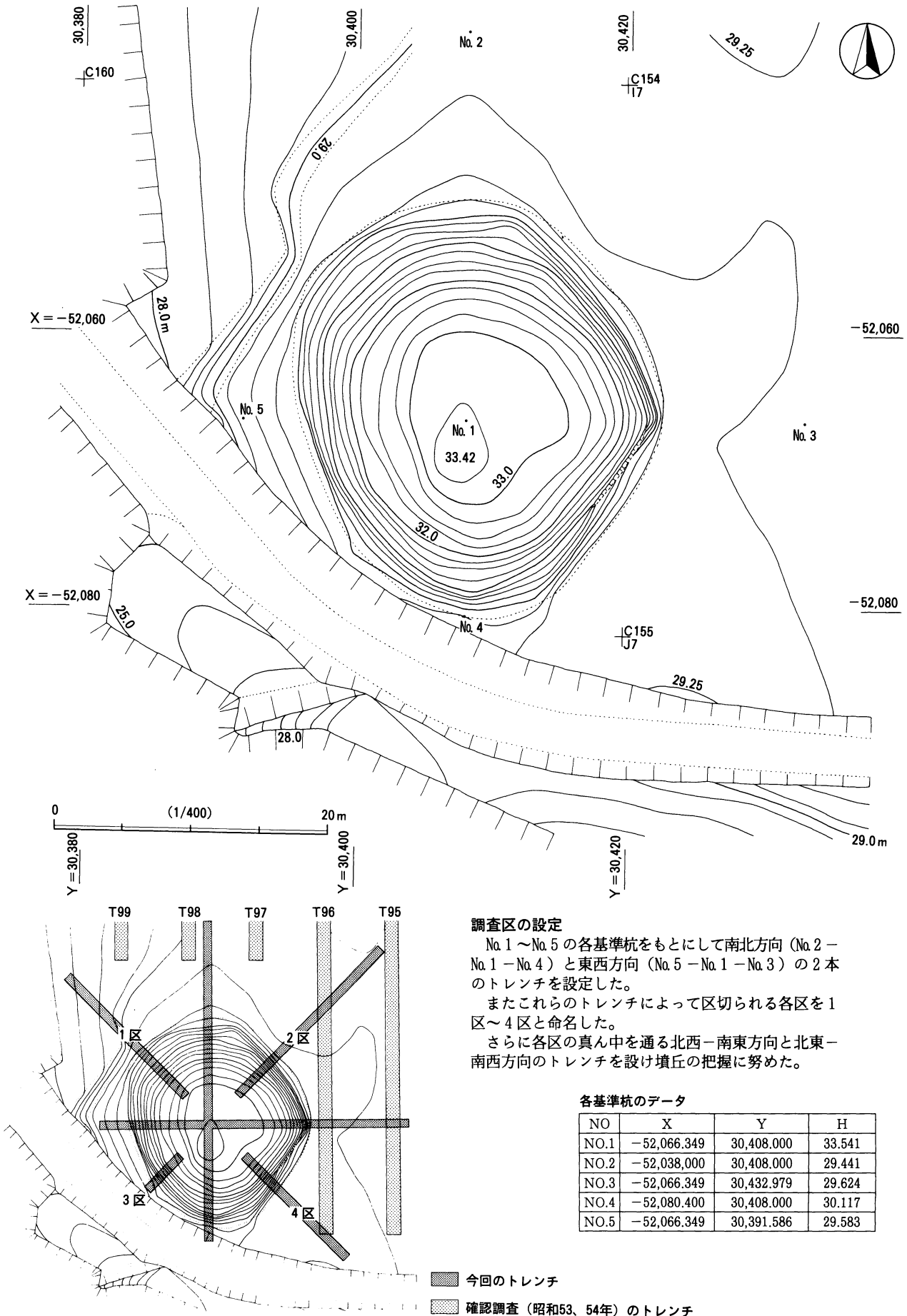
1. 形態と規模（第7～11図、巻頭図版1、図版1、13、14）

昭和50年12月測量の現況図によれば、調査前の1号墳の墳丘部分は針葉樹の林だったようである。草刈遺跡の大部分が畑として利用されていたにもかかわらず、ここが林として残されていたのは、崖際だったことと墳丘の高まりが3 m以上もあったことによるものであろう。とはいえ墳丘間際まで耕作地は迫っていたようで、墳丘北西側を基点として、幅1 mほどの農道が北東方向にのびている。この道の存在は、周溝西側部分の遺存状態に少なからず影響を与えたと思われる。また、墳丘の南西から南側の部分は村田川低地にある草刈の集落から台地上へ上がる道によって削られ、墳丘裾の一部と周溝は滅失していた。

草刈1号墳は見かけ上、最大径30m（南北方向）、最小径24m（北東－南西方向）のやや北西－南東方向に長い円形を示している。見かけ上の高さは約3.4m、最も高い地点の標高は33.42mである。



第7図 草刈1号墳の立地



調査区の設定

No. 1～No. 5 の各基準杭をもとにして南北方向 (No. 2 - No. 1 - No. 4) と東西方向 (No. 5 - No. 1 - No. 3) の 2本のトレンチを設定した。

またこれらのトレンチによって区切られる各区を 1区～4区と命名した。

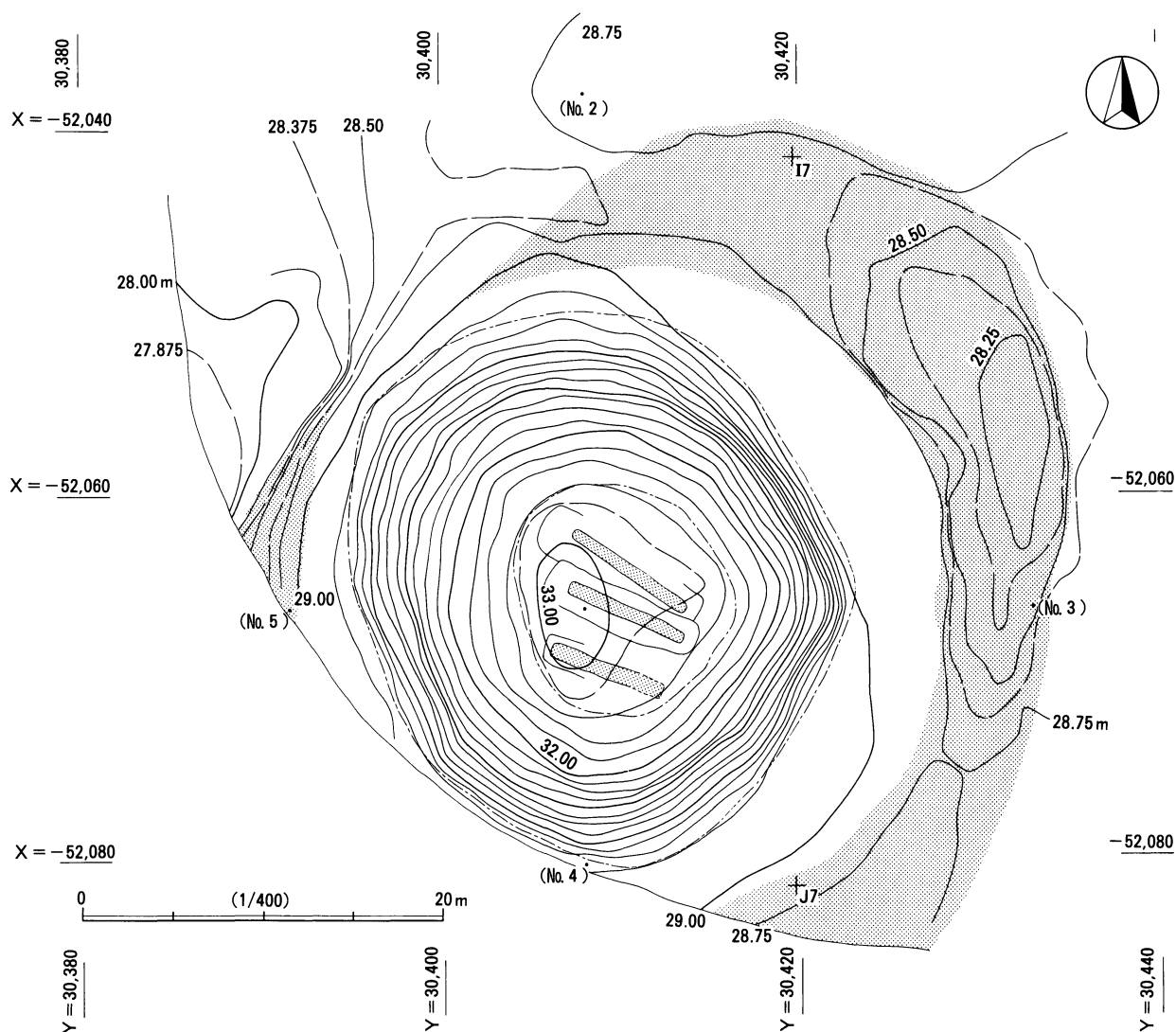
さらに各区の真ん中を通る北西-南東方向と北東-南西方向のトレンチを設け墳丘の把握に努めた。

各基準杭のデータ

NO	X	Y	H
NO.1	-52,066.349	30,408.000	33.541
NO.2	-52,038.000	30,408.000	29.441
NO.3	-52,066.349	30,432.979	29.624
NO.4	-52,080.400	30,408.000	30.117
NO.5	-52,066.349	30,391.586	29.583

■ 今回のトレンチ
 ■ 確認調査 (昭和53、54年) のトレンチ

第8図 調査開始前の1号墳と調査区の設定

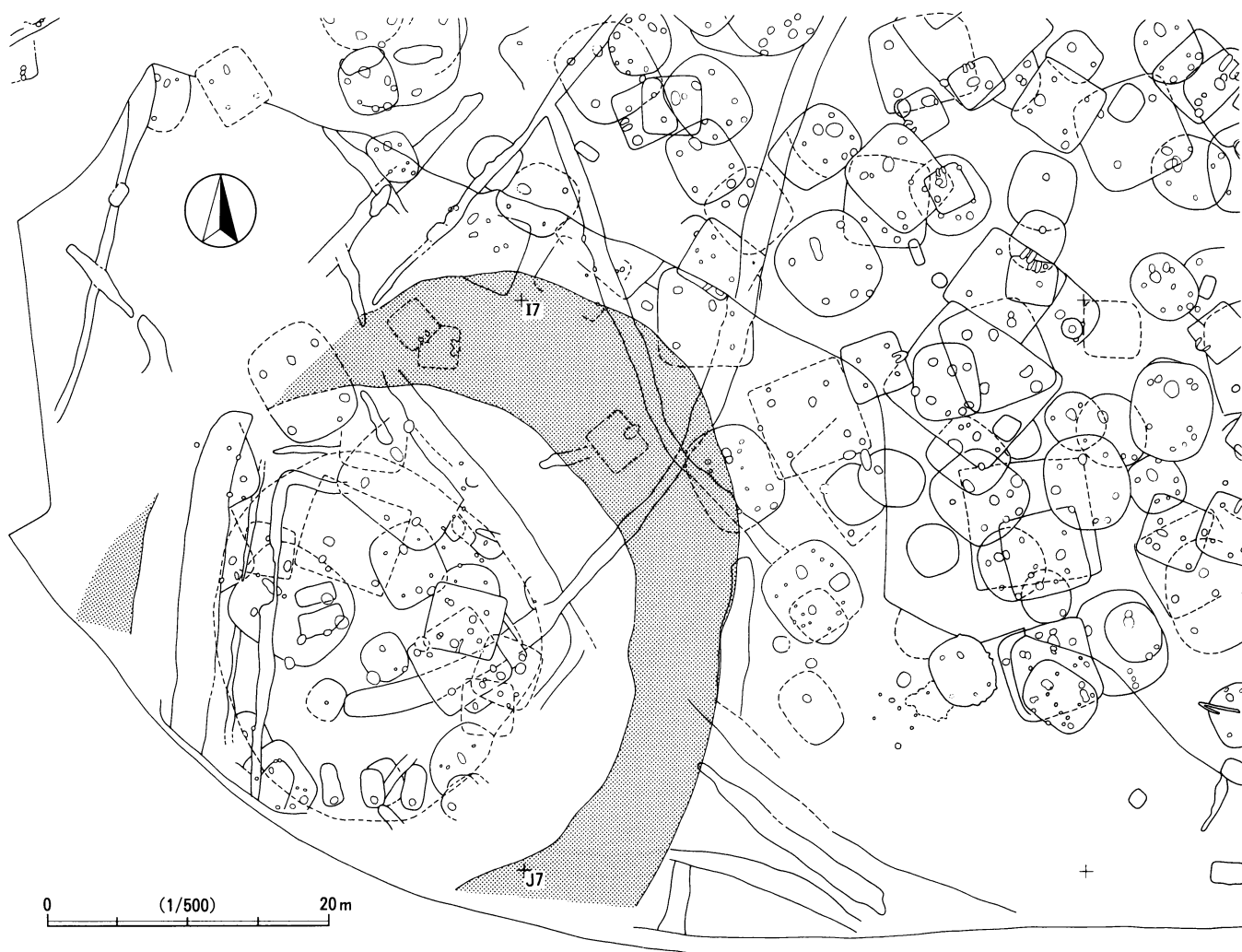


第9図 表土除去後の1号墳

当初、道によって切られた南側以外は比較的残りの良い古墳であろうとみられていたが、実際にはそれ以外にもいくつかの削平があり、失われた部分も少なくない。墳丘の東側では土層断面と周溝との距離からみて、周溝の内側から墳丘中央に向かい、最大8m近く墳裾が削平されていることがわかる。また、北西部分でも道により周溝の西側が滅失している。

この古墳の周溝は、墳丘の北側から南東側にわたっての約半周と西側の約8mが確認された。それ以外の部分の周溝は未確認であるが、南西から南東にかけては前述のように台地上へ通じる道によって削平を受け、また、西側と北側については後世の道跡（F区203号跡、240号跡）により滅失したものと考えられることから、本来周溝は古墳を全周していたと思われる。確認された周溝をみると平面形はかなり不整な円形で、最も幅の広い北東側が12m、最も狭い東側では5.5mを測る。

調査で得られたデータを基に復元すると、墳丘径35m、墳頂部平坦面径13m、周溝外径48m、周溝上端幅6.5m、周溝下端幅4mの大形円墳となる。ただし、これは周溝北東側のふくらみ部を考慮しない数値である。



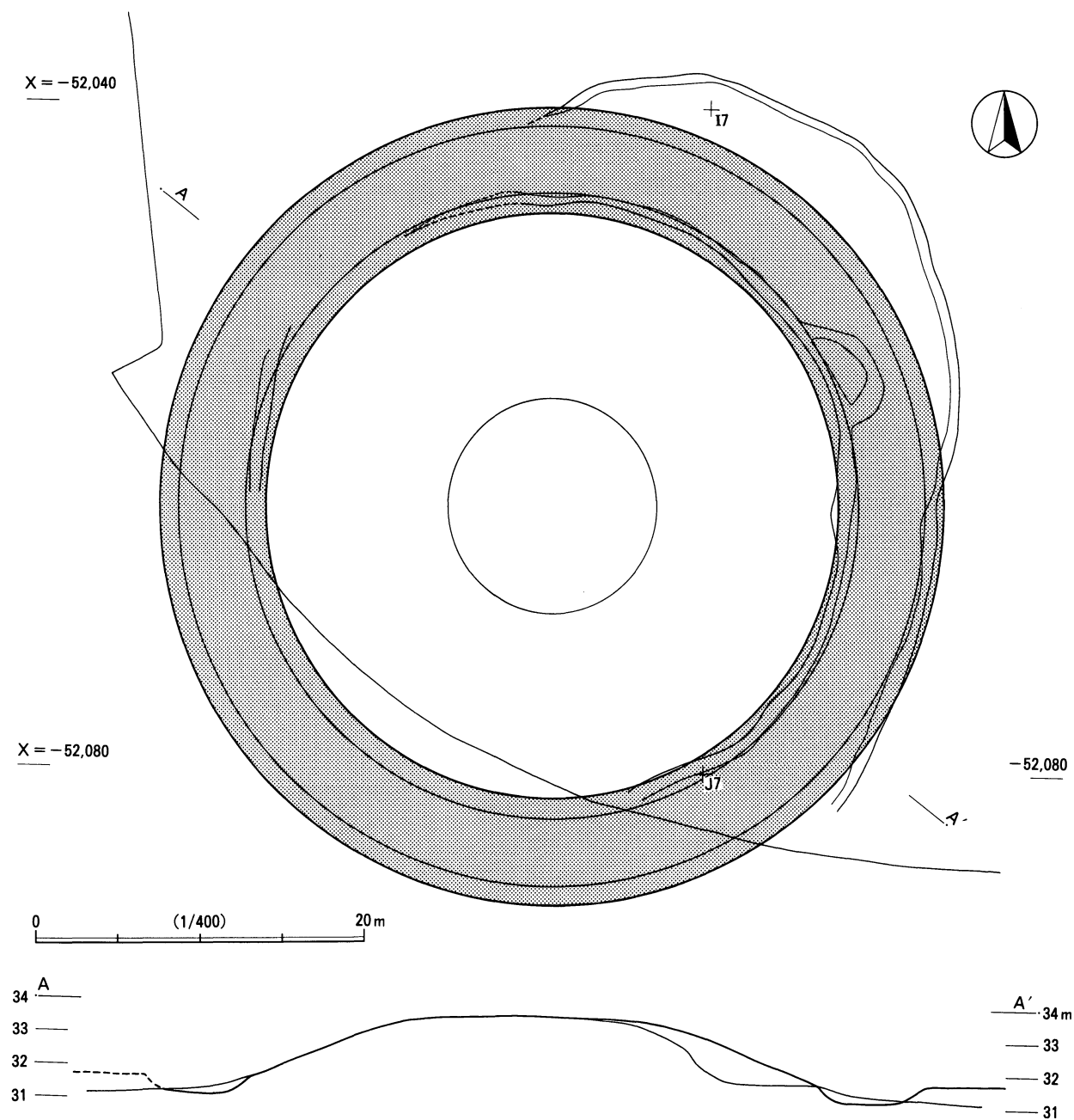
第10図 1号墳墳丘下の遺構

2. 墳丘の構築と埋葬施設の設置

墳丘の構築 (第13図、図版15～19、第1表)

土層断面を観察すると、次のような墳丘の構築方法がわかる。南北の土層断面を例にとれば、まずHとIの部分にドーナツ状に盛る。これにはテフラ等を多く含む褐色土や暗褐色土が主体となっている。次に、中央のくぼみにCからGの部分を順次盛り上げていく。各層は10cm～40cmほどの厚さであるが、平均的には20cm前後である。各ブロックは主体となる土の種類によって区分した。一つのブロックは埋土の固さやロームブロック、ローム粒子の混入率で数枚から十数枚に細分できた。また、各層には焼土、炭化物、粘土の混入が認められるものがある。さらに旧表土の残っている範囲が墳丘の下だけに限られていることからみて、周囲の旧表土面を掘り下げて墳丘部を構築したと推定できる。

墳頂部には12m×10mほどの不整形をした比較的広い平坦面が作られている。ブロックC、D、Eの状態からみて、一度盛った土を削りながら平坦面を整えたようである。これにより墳丘の大まかな形ができる。平坦面に埋葬施設を設置した後、ブロックA、Bによって埋め戻しを行い古墳を完成させたと考えられる。ブロックA、Bは暗褐色土を主体とした土で、色調・混入物なども墳丘の構築に用いられた土と違いは認められない。



第11図 墳丘・周溝形態復元

第1表 墳丘・周溝規模（復元値）一覧

墳丘径	35m	旧表面上から現存する墳丘頂部までの高さ	3m
周溝内側下底間径	37.5m	現存する盛土の高さ	2.8m
周溝外径	48m	旧表上面から周溝底面までの深さ	1.5m前後
周溝上端幅	6.5m		
周溝下端幅	4m	〈標高〉 墳頂部	33.42m（表土上面）
周溝北東張り出し部	30m	旧表上面	30.48m～30.12m
周溝北東張り出し部最大幅	10m	周溝底	28.75m～28.25m前後
墳丘東北東張り出し部	7×3.2m		

埋葬施設（第12図、図版12、第2表）

草刈1号墳からは墳頂平坦部から3基の主体部を検出した。主体部の主軸はいずれも北から60°前後、西へ振れている。主体部は検出した順に、北から第3主体部、第1主体部、第2主体部と呼称した。掘り方や埋土の状況からすべて木棺直葬と考えられる。棺は断面から見る限り、いずれも掘り方の最下面に直接置かれたようである。

第1主体部からは棺部を覆った粘土を確認したが、ほかの主体部では検出されていない。主体部は盗掘など後世の攪乱を受けた可能性は低く、遺物は極めて豊富である。特に鉄製品と玉類を中心にした組合せは、村田川下流域のこの時期の古墳の標準的な資料となるものである。

なお、第1主体部と第3主体部の掘り方には重複関係があり、第3主体部の方が古い時期の埋設であることが判明した。

第2表 埋葬施設の規模

〈数字は（ ）の推定値を除いて現存値、単位は主軸方向以外はすべてメートル〉

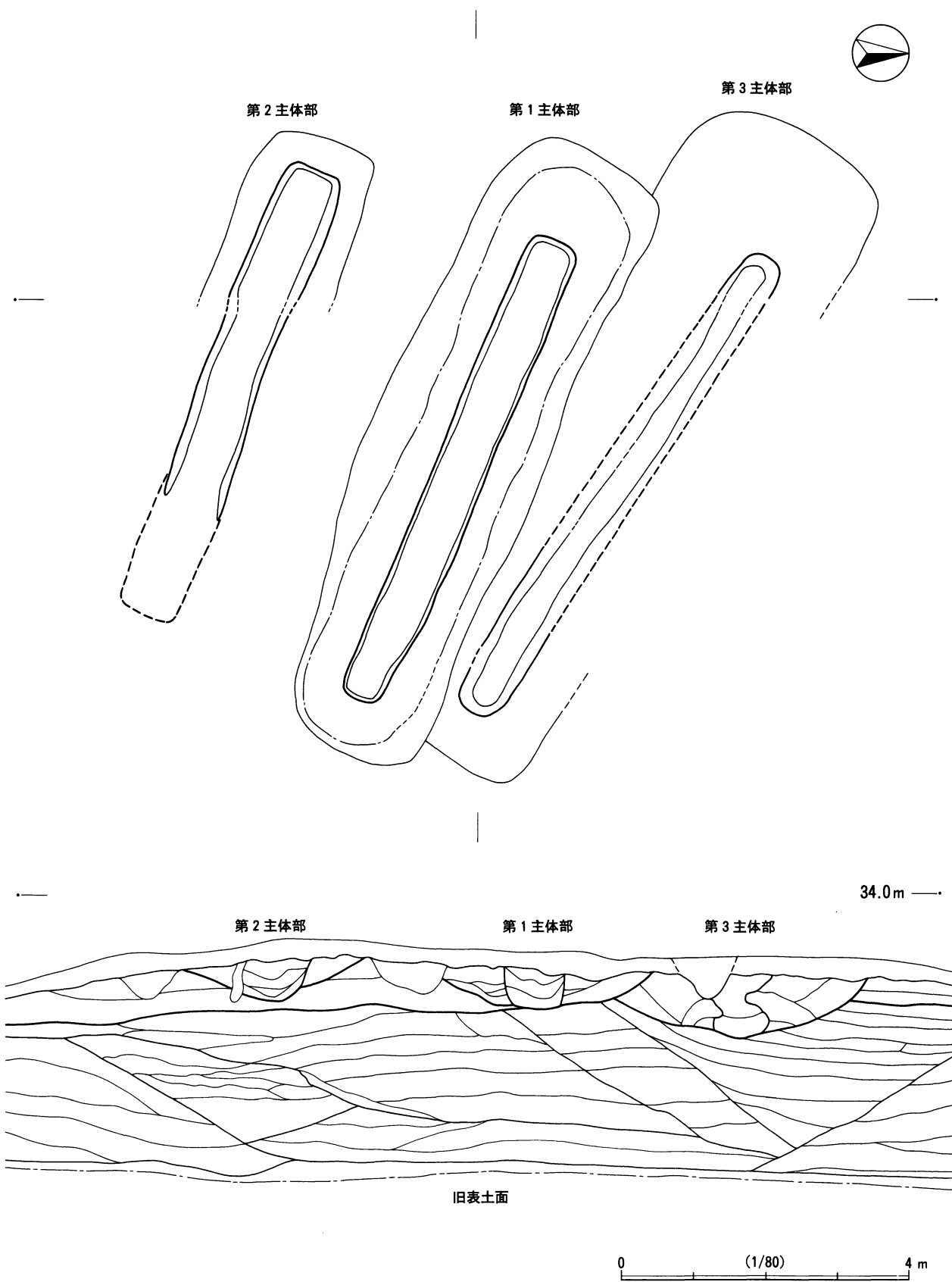
名 称	計 測 場 所	第2主体部	第1主体部	第3主体部
確認面の高さ	主体部を確認した標高 レベリングを基に算出	～31.10	32.71～32.80	33.56～33.65
主軸方向	棺の長軸の方向 棺底面の中央を基に算出	N- 69°-W	N- 65°-W	N- 56°-W
棺長1	確認面上端で計測	(6.55)	6.90	7.50
棺長2	棺底面で計測	(6.35)	6.75	7.25
棺幅1	確認面上端で計測	0.85～0.90	0.57～0.78	0.70～0.75
棺幅2	棺底面で計測	0.60～0.65	0.46～0.64	0.32～0.60
棺底の高さ	棺底部の標高 レベリングを基に算出	33.71～33.81	32.45～32.57	32.00～32.20
掘り方全長	確認面上端で計測	不明	9.00	9.95
掘り方幅	確認面上端で計測	1.63～1.70	2.00～2.50	2.00～2.85
棺端と掘り方の幅	確認面上端で計測	0.35～0.48	0.60～1.36	0.65～1.50

3. 墳丘内と周溝内の遺物出土状況（第14図、図版13、14）

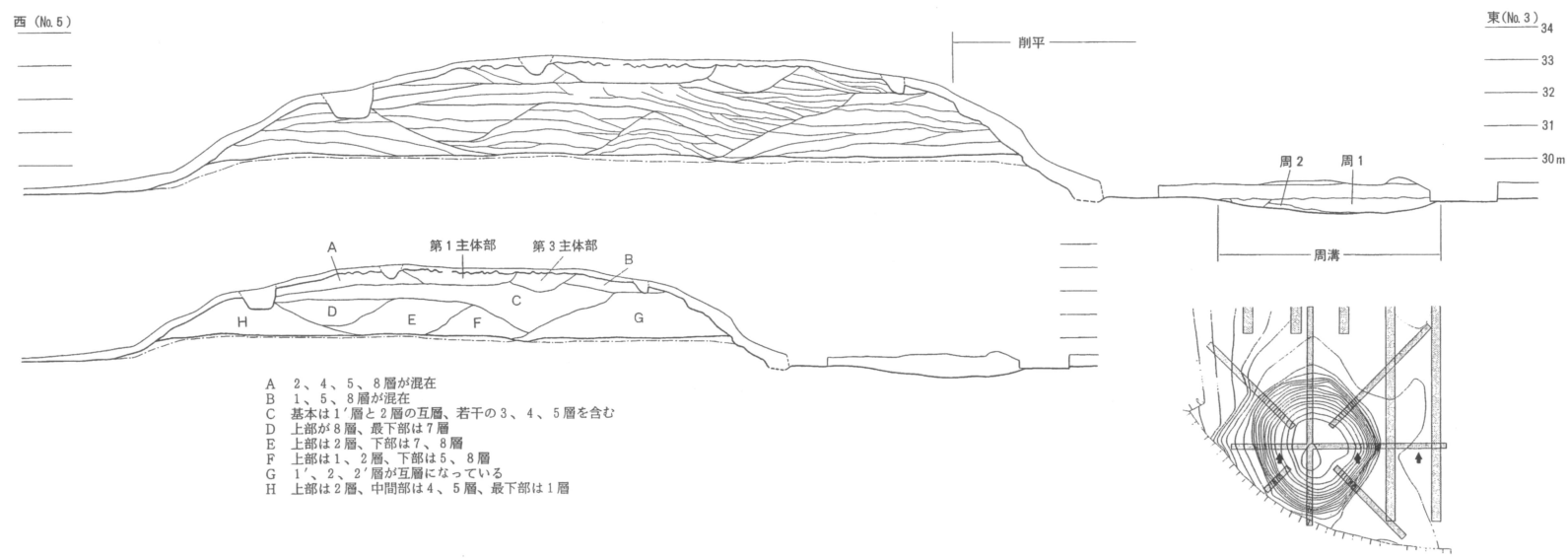
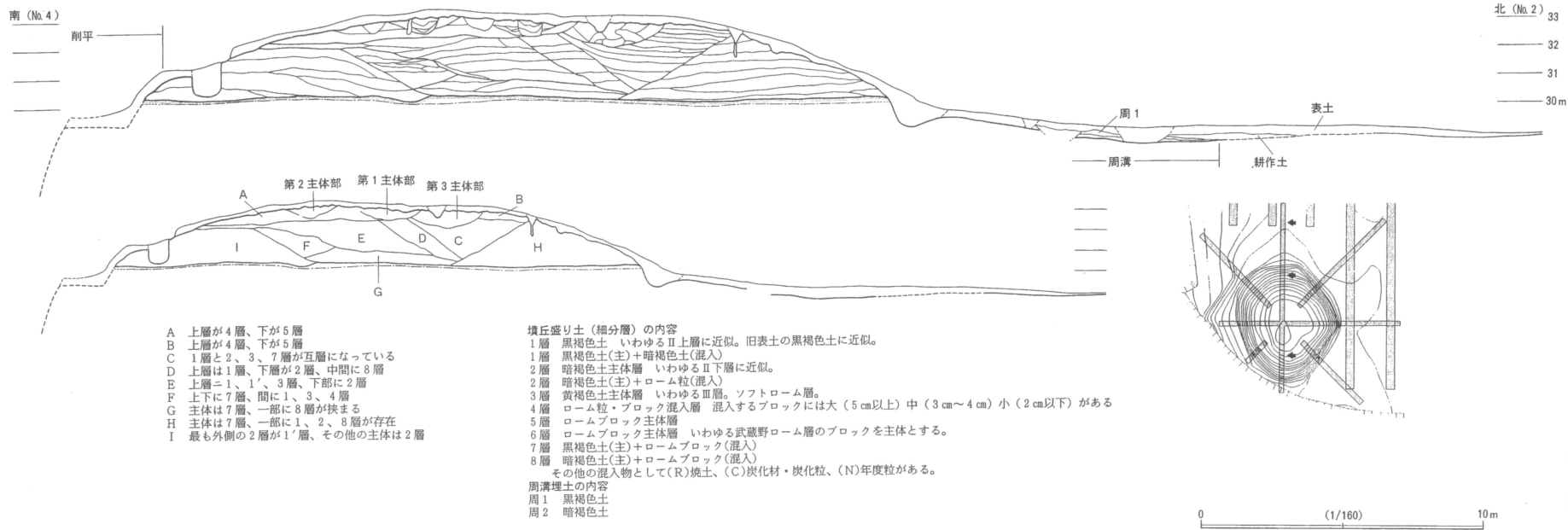
墳丘と周溝からはかなり多くの遺物が検出された。

周溝内から検出した遺物は土器を主体に玉類（管玉・土玉）が若干含まれているが、周溝内の埋葬施設が確認されておらず、本古墳に伴う可能性はほとんどないと考えられる。一方、盛土内の遺物も多いが、主体となる土器はいずれも本古墳より古い時期であり、墳丘築造の際に混入した可能性が高い。

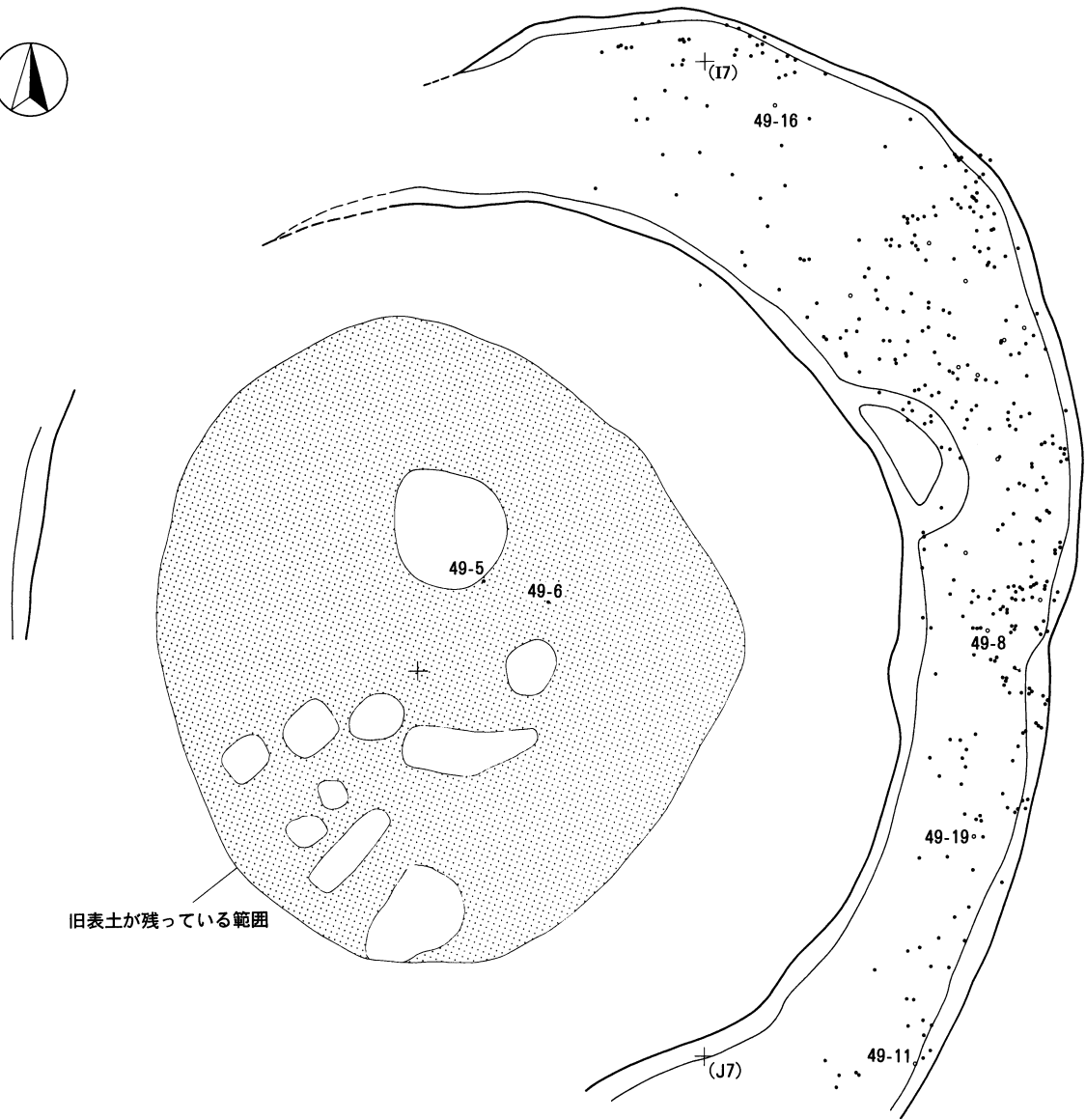
ただ、墳頂部の埋葬施設を設ける平坦面よりやや下位の同一レベルで出土した鉄製の鍬先（第49図-5）と、2点の土製模造品（第49図-6、7）は、盛土の最終段階で行われた祭祀行為に伴う可能性がある。



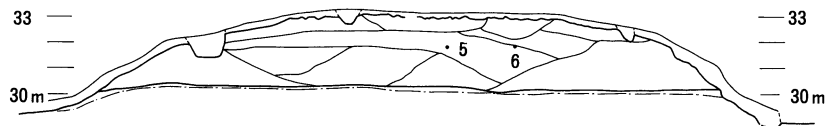
第12図 埋葬施設の配置



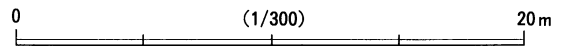
第13図 墳丘断面



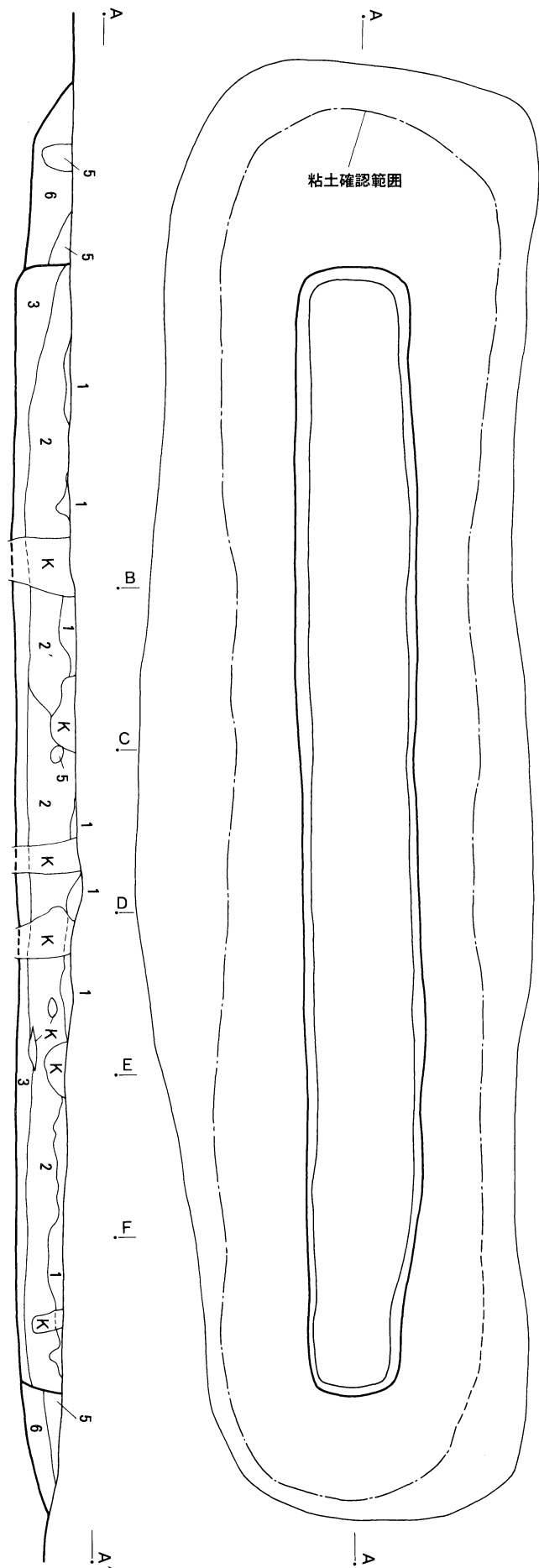
旧表土が残っている範囲



- 遺物の番号は第49図に対応している
- 断面は遺物の出土レベルを東西方向のセクションに投影した



第14図 墳丘・周溝内遺物出土状況



棺部埋土

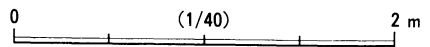
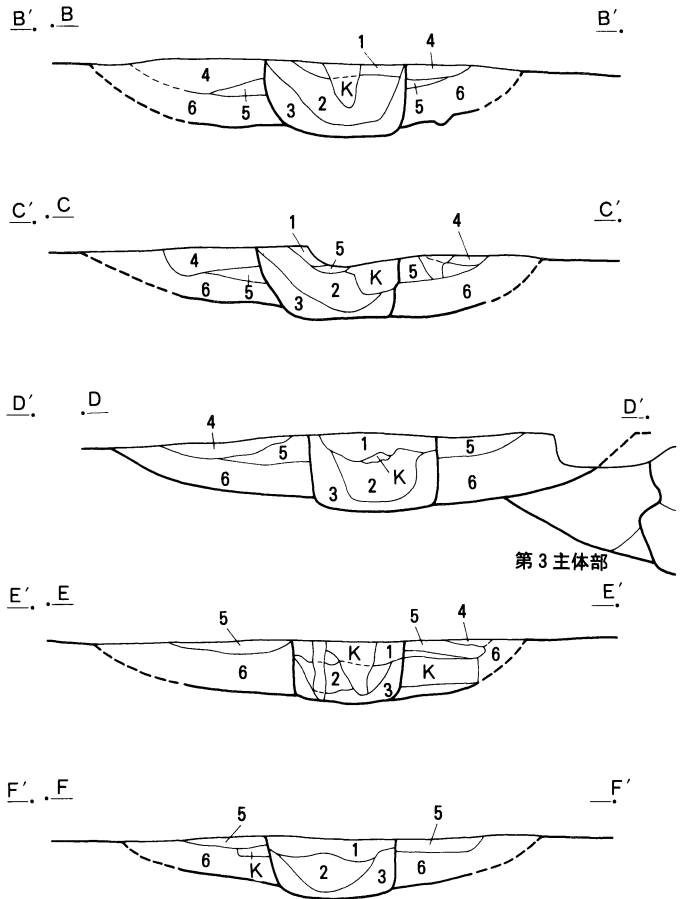
- 1. 暗褐色土 ローム粒を若干含む。ロームブロックやや多い木根による攪乱が多い。
- 2. 暗褐色土 ローム粒若干。テフラ層に近似。やわらかい。
- 3. 暗褐色土 2層よりやや黒色味をおびる。

掘り方埋土

- 4. 黄褐色土 ローム粒、ロームブロック（径1~2cm）主体。白色粘土でなく茶褐色の粘土。下末吉ローム層の下層から産出するものに類似する。
- 5. 粘土 テフラ粒多。ローム粒、ロームブロック（1~2cm）を少量混入する。
- 6. 褐色土

Kは攪乱

水系高はすべて33.0m



第15図 第1主体部

第2節 埋葬施設

1. 第1主体部

埋葬施設 (第12、15図、図版2、5、6)

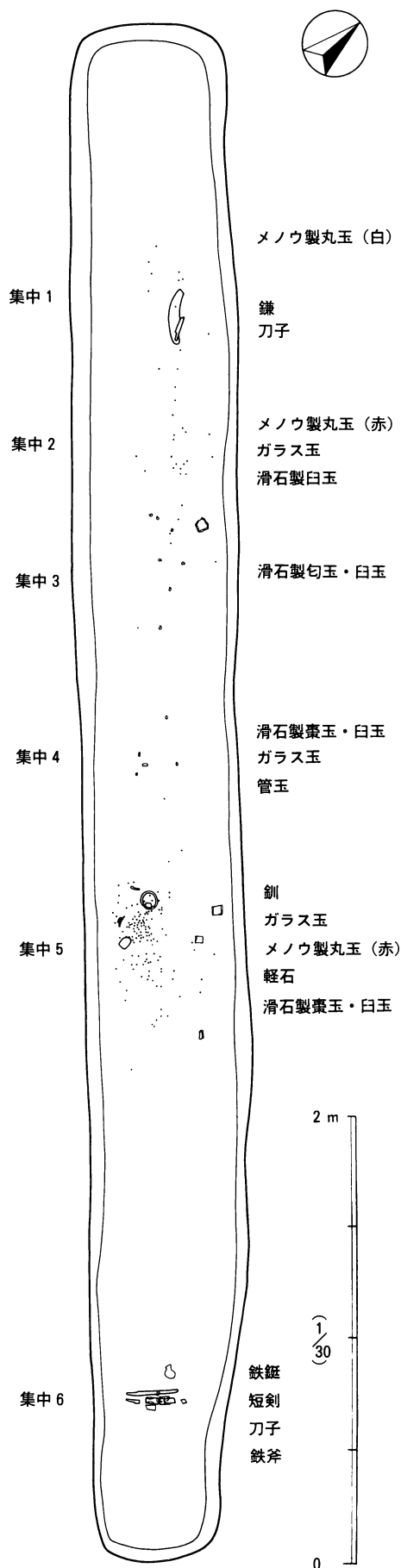
20cm～30cmにわたって堆積した表土を除去した後、主体部の南東側に当たる部分で粘土を検出したため、全容の把握につとめた結果、棺長6.9m、全長9mに及ぶ第1主体部が検出された。主体部を確認した高さは西端部から東端部に向かって若干傾斜していて、最も高い西側で32.8m、最も低かった東側で32.71mと最大で10cm近くの差がある。これは主体部の位置が墳丘の平坦面中央からやや南東にずれているため、墳丘の肩に近い方が低くなっている。また、東側の部分に攪乱が多く、主体部の遺存状態が悪いのも同じ理由によるものと思われる。

棺部は全長6.9m、幅60cm～80cm、棺底までの深さ20cm～50cm (いずれも確認面上での数字)、棺底部では全長6.75m、幅46cm～64cmの寸法を示す。棺部の断面形は、土層断面D、Fに代表されるように直線的に立ち上がる部分が多く、底面からやや丸みをもって立ち上がる部分 (土層断面B) はごくわずかである。

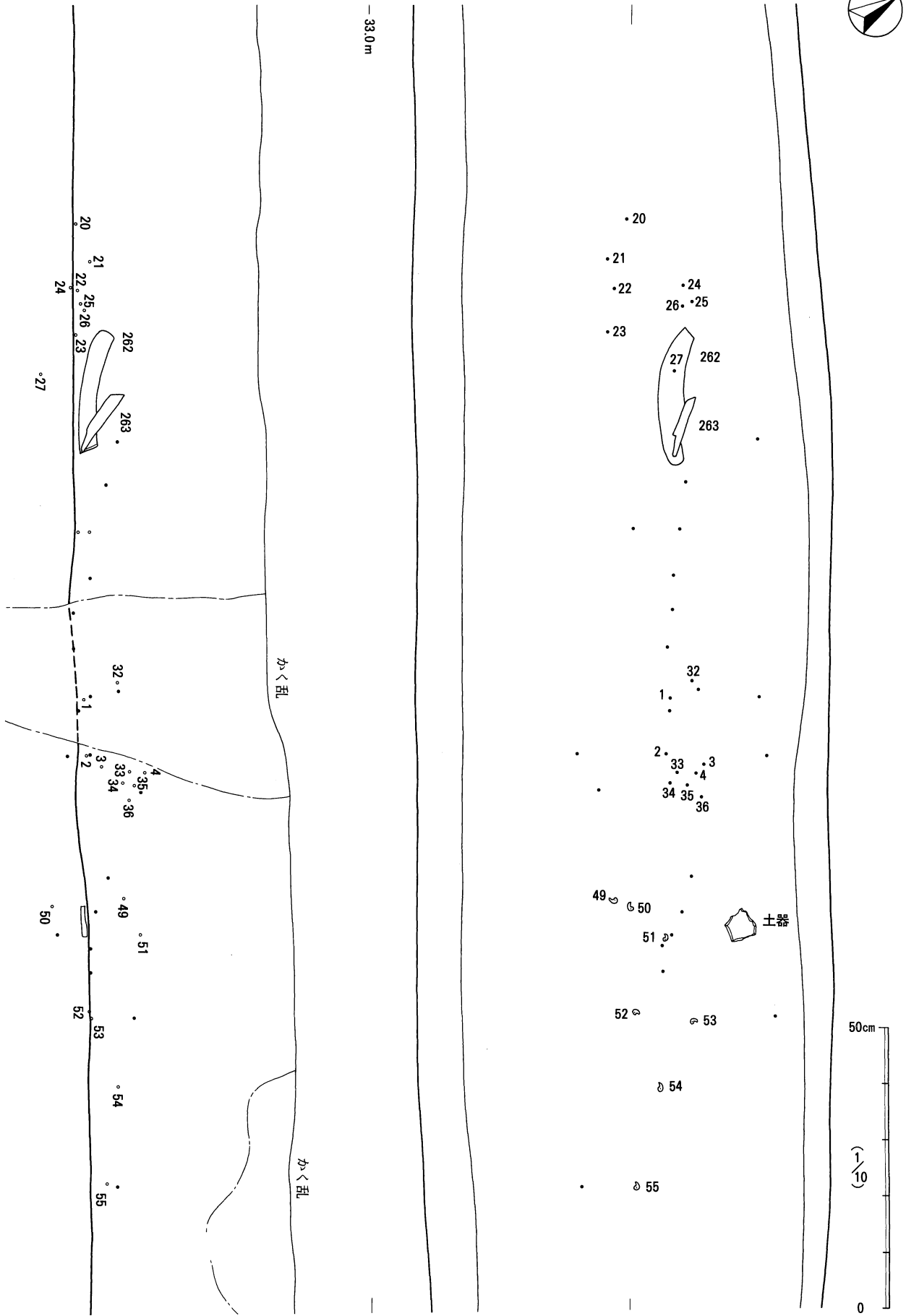
掘り方は全長9m、幅2m～2.5mの不整な長円形で、断面は浅いすり鉢状になっている。棺と掘り方上端部との幅は、棺南側で65cm～105cmとばらつきが見られるが、棺北側では60cm～80cmとなっている。西側の棺端部では136cmと最も広がっている。東の棺端部は75cmである。粘土は棺の周囲では全域にわたって検出しているが、棺内で検出した粘土は棺中央付近で1か所 (土層断面C) と東寄りの遺物集中6の2か所しかない。また、西側では粘土の検出位置が低いことも確認できた。これらのことから本主体部では粘土は棺の周囲にはめぐらされていたものの、棺の上面を覆うには至らなかったものと推測される。

遺物の出土状況 (第16～19図、図版3～5)

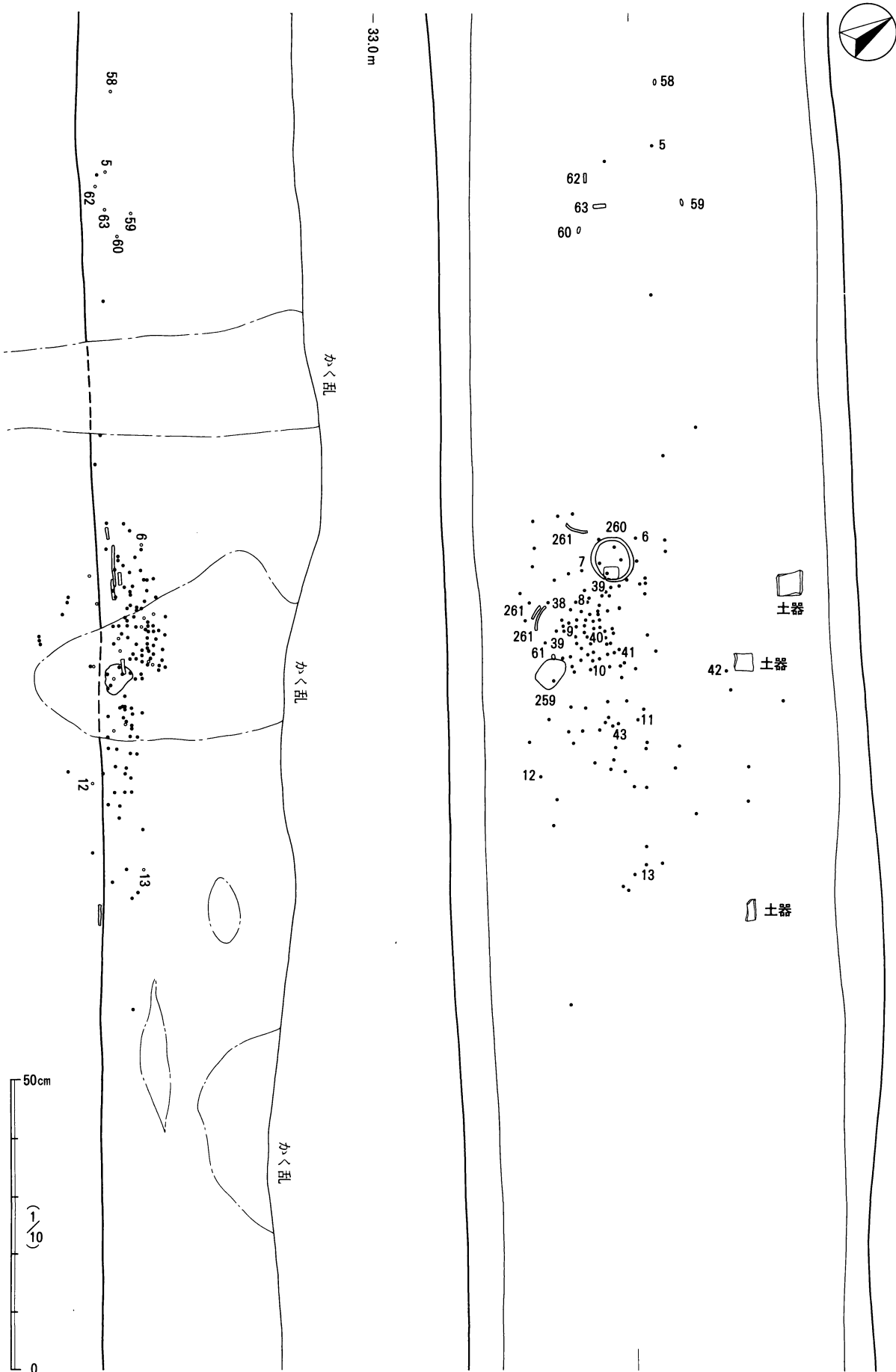
集中1 最も西寄り、棺の西端から1.2mほどの位置には鉄製品と玉のまとまりが見られる。全体に棺の中軸線よりやや北側に寄る傾向があり、鎌 (262) と刀子 (263) が1本ずつ重なって主体部長軸に沿って



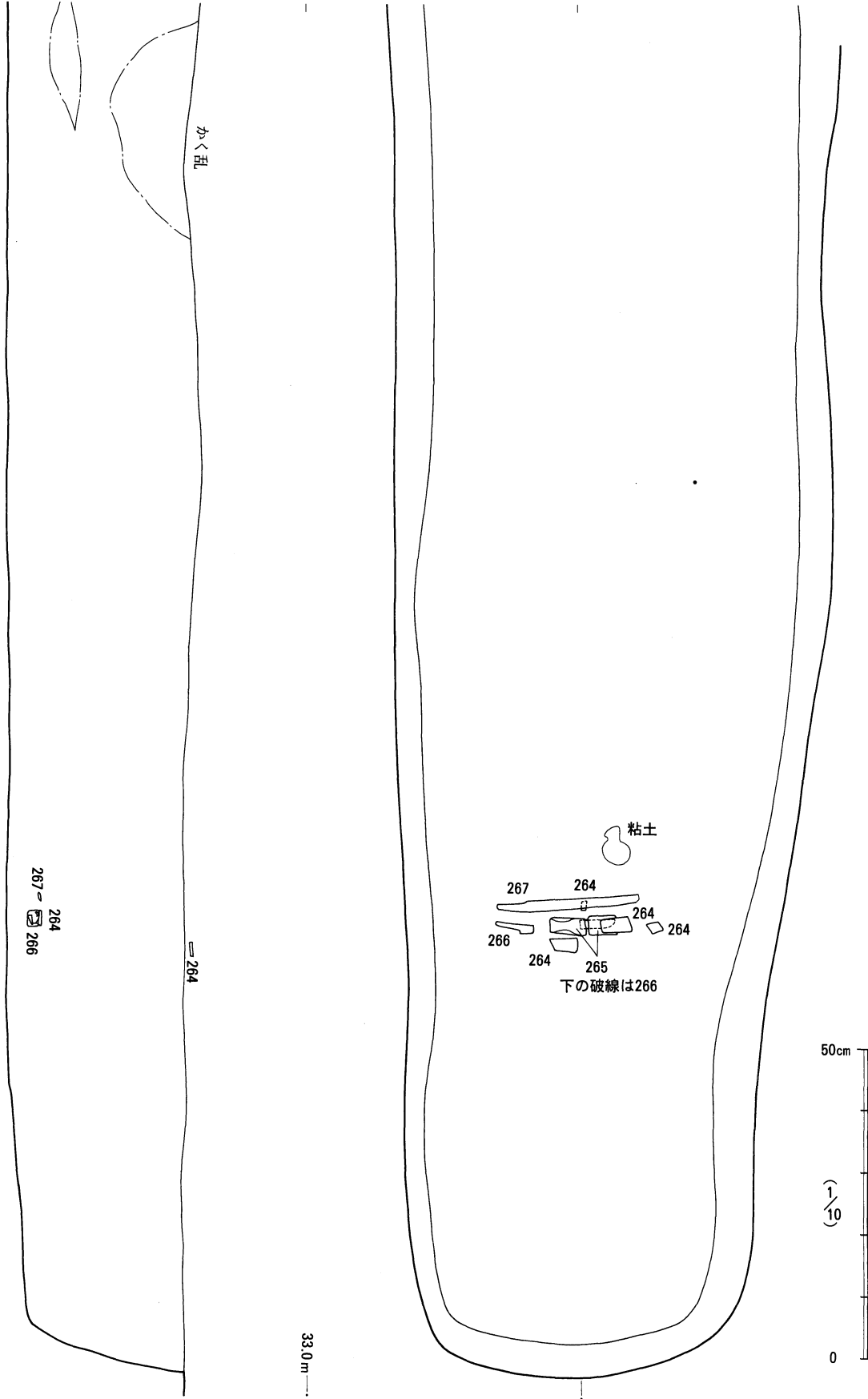
第16図 第1主体部遺物出土状況



第17図 第1主体部（西部分）遺物出土状況



第18図 第1主体部（中央部分）遺物出土状況



第19図 第1主体部（東部分）遺物出土状況

出土している。鎌は鋒を西に向けて棺の長軸に沿うように出土した。背を下、刃を上にして、北側に倒れるように斜めに立った状態であったが、柄を取り付ける基部の上面には刀子が茎の端部を重ねた状態で検出された。刀子は鋒が西、刃が下を向いた状態である。刀子の周辺70cmほどの範囲で白いメノウ製丸玉10点(20~29)が出土した。出土レベルは棺底面から5cmまでの間に収まる。

集中2 やや離れて40cmほどの範囲に赤いメノウ製丸玉5点(32~36)、ガラス玉4点(1~4)及び滑石製白玉11点が検出された。メノウ製丸玉(赤)とガラス玉は攪乱が近いいためか出土レベルのばらつきが大きい。

集中3 さらに東側では滑石製勾玉7点(49~55)、滑石製白玉5点が出土した。

集中4 棺のほぼ中央には滑石製棗玉3点(58~60)、ガラス玉1点(5)、凝灰岩製管玉2点(62、63)、滑石製白玉2点で構成される玉類のまとまりが認められる。分布は棺の中央40cm×30cmの範囲内である。出土レベルは棺底から10cmの範囲に収まっている。

集中5 4の東側、棺西端から4mほどの位置に玉類と装身具の大きな集中がある。この中心は70cm×40cmほどで、銅釧(260)、鉄釧1点(261)、ガラス玉8点(6~13)、赤いメノウ製丸玉5点(37~39、43、174)、滑石製棗玉1点(61)、滑石製白玉133点、軽石(259)及び土器片で構成される。集中の中心は棺南側に寄っており、出土レベルは棺底からおおむね10cmまでに収まっている。

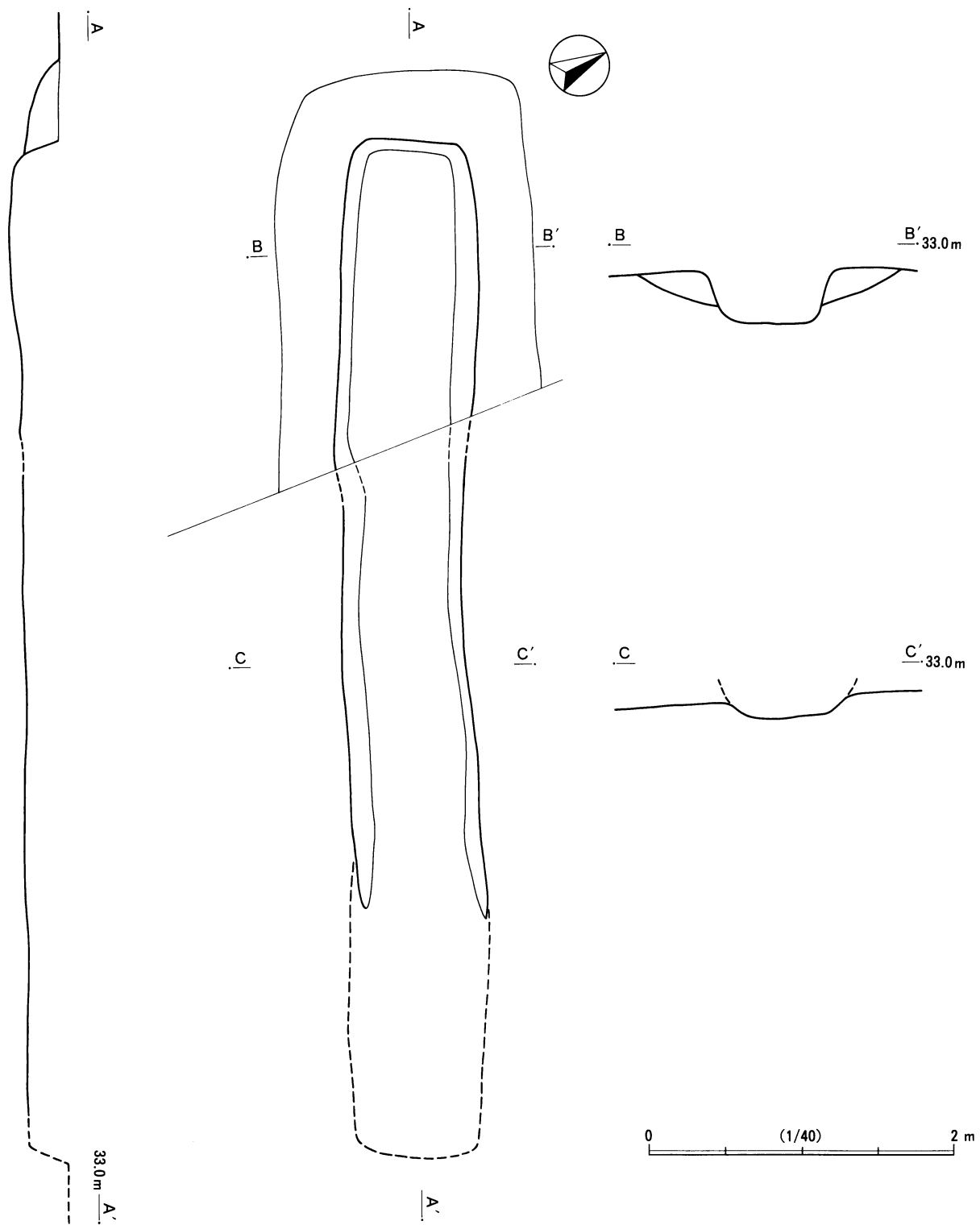
集中6 棺東端から70cmの位置には農工具類のまとまりがある。構成は鉄鋌2点(264)、短剣1点(267)、刀子1点(266)、鉄斧(265)1点の5点からなる。5点とも棺幅の中央に位置し、棺の長軸に直交するようにひとまとめになっていた。東側の最も下には刀子(266)があり、切先は北、刃は東向きである。柄に近い部分の欠損は古いものである。刀子の上には鉄斧(265)が乗る。袋部が南側で裏返しの状態である。鉄斧は中央で折れているが、この折断は新しいものではない。鉄斧の上には鉄鋌(264)2枚が溶着した状態で乗っていた。鉄鋌1を上面にして検出された。この鉄鋌とほぼ出土レベルを同じくして、西側に小形の鉄釧が切先を北側にして出土している。これらの遺物は出土レベルも棺底から3cm~5cmに集中しており、一括して埋納されたことは間違いない。また、すぐ西側の粘土は出土位置が20cm以上高く、遺物群とは直接関係しないと思われる。

2. 第2主体部

埋葬施設(第12、20図、図版7、12)

第1主体部の周辺精査中に南側で鉄矛が出土したため、さらに精査を進めた結果、第2の主体部のプランを検出した。東端から1.5mほどは、既に表土化していたとみられ、主体部長軸の中心線から両側へ15cm~20cmほど棺の底面が検出できたにすぎなかった。これに対して北西側は墳丘に設定した南北方向の土層観察用ベルト中であつたため、掘り方まで確認することができた。

図示した土層断面などをみると、主体部確認面の高さが墳丘の肩に近い南側で若干下がっているかのような印象を受けるが、すべての測点を検討すると確認面の高さは、ほぼ水平である。北西側で確認した掘り方を見ると上端部の幅は1.6m~1.7mで、棺部の外側35cm~50cmをめぐる。棺端部の外側も同じような状態で、この部分がとりたてて広くなるというようなことはない。これは棺部に対して比較的掘り方の広いほかの2基の主体部とは少し違った構造となっている。掘り方の断面は浅いすり鉢状で、主体部確認面からの深さは最高で(南北方向の土層断面中)35cmを確認できる。この掘り方の埋土は単一の暗黄



第20図 第2主体部

褐色土である。粗いローム粒子と1 cm前後のロームブロックを多く含んでいるが、粘土は含まれていない。

確認した棺部は幅が上端部で85cm~90cm、下端部で60cm~65cm、長さは遺物の出土状態などから6.5mほどと推定した。棺部の埋土は南北方向の土層断面で確認したのみであるが、4層に分層された。上から順に1. 少量のローム粒を含む黒褐色土、2. ソフトローム粒主体の黄褐色土（微量の黒褐色土粒、1 cm前後のロームブロックが混入している）、3. 暗褐色土（ローム粒に黒色土が混入している）、4. ローム

粒主体の黄褐色土（1 cm以下のロームブロックをやや多く混入している）である。

遺物の出土状況（第21～24図、図版7～9）

集中1 最も西には鉄剣（217）が検出された。この剣のみ単独で、切先が西端を向いており、棺部の中央から出土している。切先は棺底面から2 cm、柄部は4 cmほど浮いた状態である。

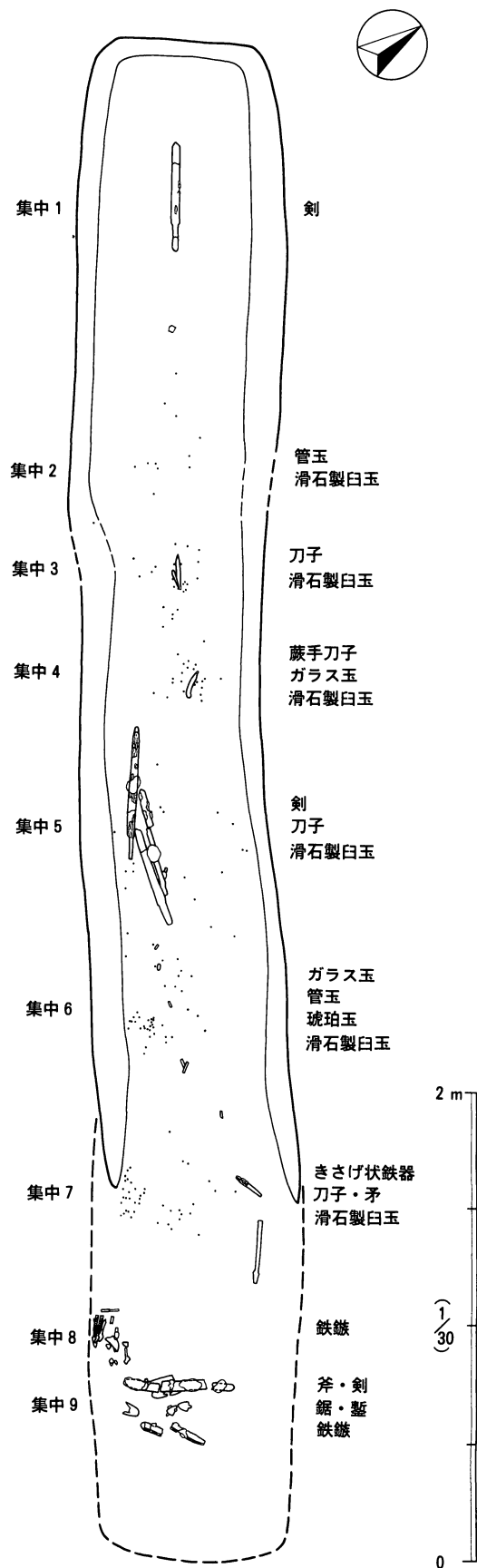
集中2 鉄剣柄部から90cmほど東へ寄ると、小さな玉類の集中がみられる。凝灰岩製の管玉3点（22～24）と滑石製白玉8点が40cm×60cmの範囲に集中している。出土レベルは大体が棺底若しくはそれに近い。

集中3 集中2から50cm東に寄った位置で刀子2本（239、240）と15点の滑石製白玉が検出された。刀子は2本が溶着しており、うち1本は中央から先端部にかけて欠損しているが、2本とも切先は西、刃部は南を向け、棺の長軸に沿うように置かれていたと思われる。刀子の出土レベルは切先が6 cm、柄部は8 cmほど棺底から浮いている。白玉は刀子のレベルと棺底の間から出土した。

集中4 東側のまともは蕨手刀子（237）、ガラス玉4点（1～4）及び滑石製白玉18点で構成される。遺物のレベルは西の集中より棺底に近く、ほとんどが棺底から5 cm以内に収まっている。

集中5 棺中央には鉄剣を中心とするまともがある。鉄剣3本（218～220）、刀子（238）、滑石製白玉17点で構成される。鉄剣は棺の南側に寄って置かれたようで、3本とも切先を西に向け、西から218、219、220の順で位置が少しずつれている。出土レベルは3本ともほぼ同じで棺底から約5 cm浮いた状態で水平の状態出土している。鉄剣（219）の柄部下から検出された刀子（238）は切先が東向き、刃部が南向きである。出土レベルは鉄剣の直下である。周辺の滑石製白玉の出土レベルはややばらつきが大きい。

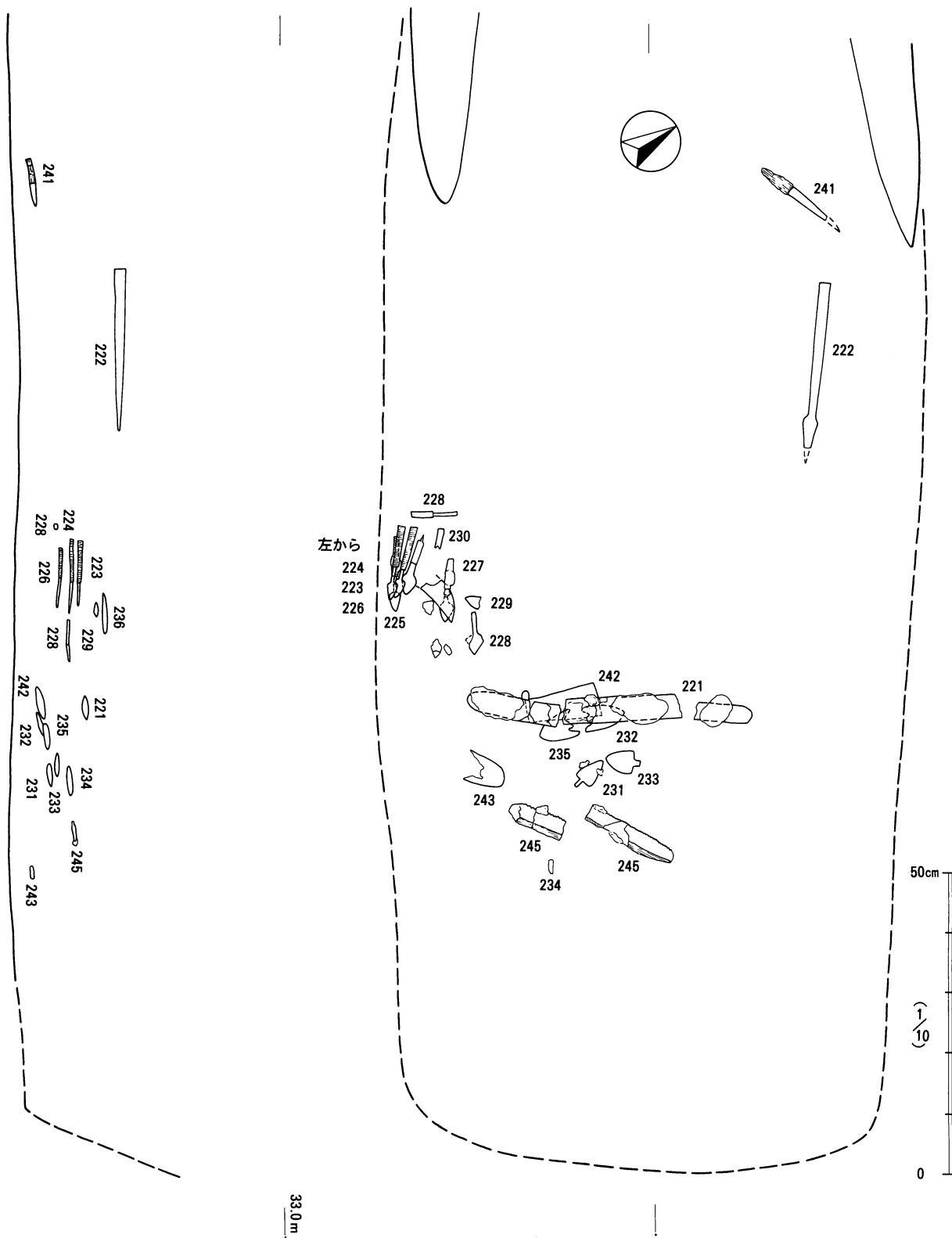
集中6 このすぐ東には玉類だけが出土している。ガラス玉9点（5～13）、管玉4点（17～20）、琥珀玉（21）、滑石製白玉35点が65cm×40cmほどの範囲に分布している。分布の中心は棺の南側に片寄っている。出



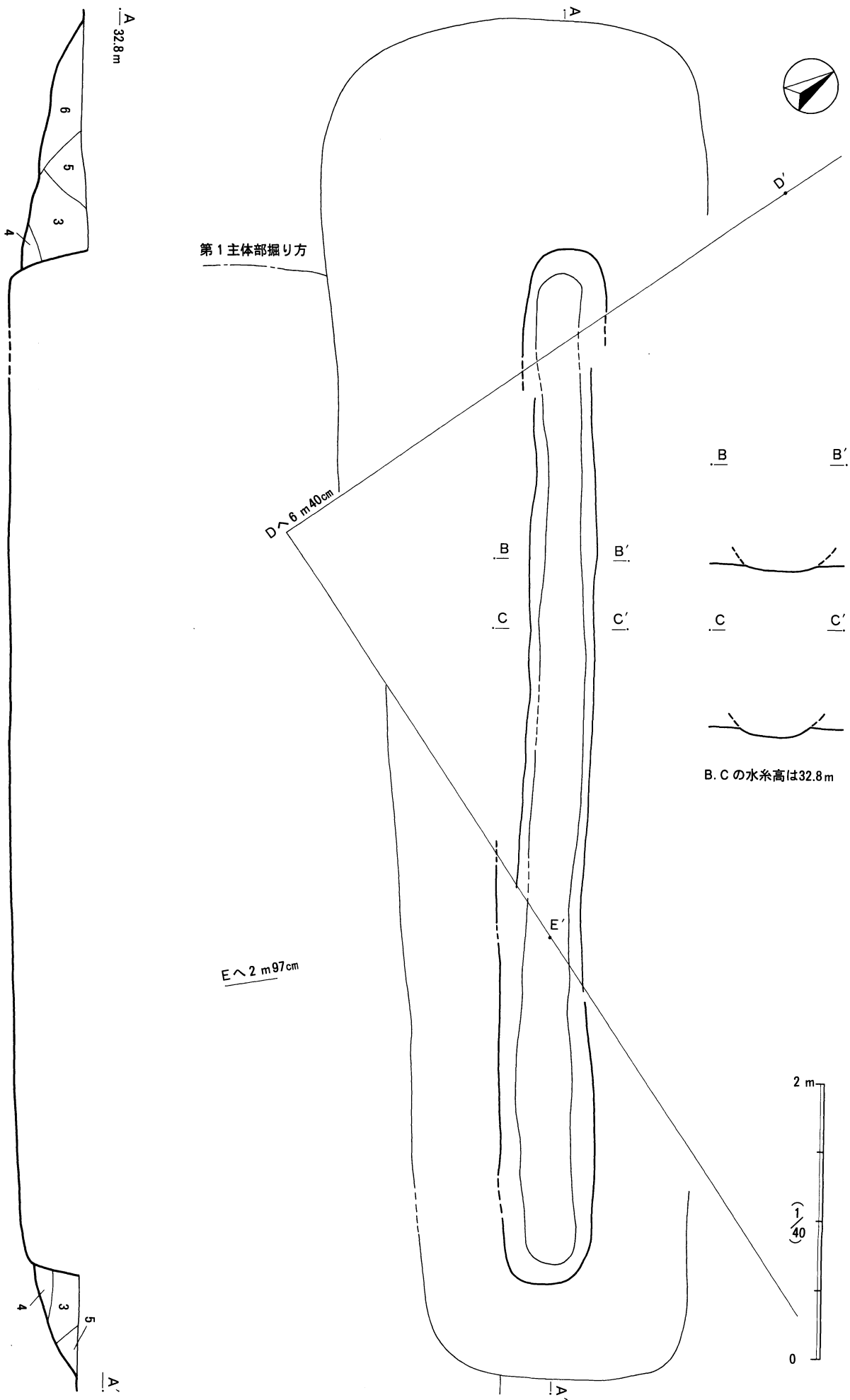
第21図 第2主体部遺物出土状況



第22図 第2主体部（西部分）遺物出土状況



第24図 第2主体部（東部分）遺物出土状況



第25図 第3主体部(1)

土レベルは最も低いものが棺底から数cm、最も上位のものが棺底から15cmほどの位置である。

集中7 玉類の集中からやや東に離れて、きさげ状鉄器(244)、刀子(241)、鉄矛(222)と滑石製白玉42点からなる集中がある。鉄製品は棺北側にやや間隔を持って散在し、滑石製白玉は棺南側に集中する傾向がみられるので本来は別のまとまりかも知れない。きさげ状鉄器は先端が東向き、刀子は切先が東、刃部は北を向く。矛も先端を欠いているが先を東に向けている。きさげ状鉄器と刀子は棺底から5cm前後離れた位置、矛は棺底から20cmほど浮いた状態である。

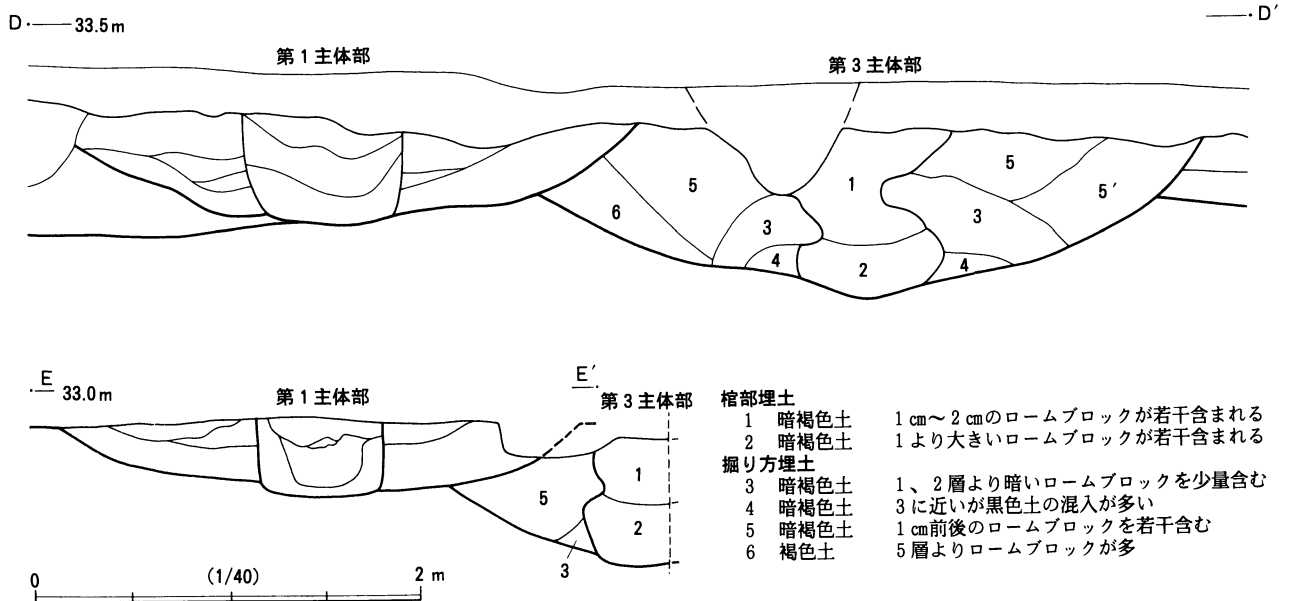
集中8 最も東側のまとまりは2群に細分できる。1群はかなり棺の南側に寄った鉄鏃を中心とした集中で、短頸の鉄鏃8点(223~230)、鉄鎌(236)、不明鉄製品3点で構成される。先端部(遺物No.199)と柄部(遺物No.164)が接合した228を除いてすべて先端を東に向け、長軸に沿うような形で出土した。鎌は棺底から約15cm、鉄鏃より上に位置している。

集中9 別の1群は鉄斧(242)、鉄剣(221)、平根式の鉄鏃5点(231~235)、鋸(245)、鑿(243)の計9点からなる。ほとんどが棺長軸に対して直交するような形で置かれた様子がみてとれる。高さが最も棺底に近いのは鑿であり、最も東から出土した。柄の装着を実測図のように考えると、これだけは棺長軸に沿うような位置となる。これとほぼ同じ高さに鉄斧がある。袋部が南、刃部が北向きで出土した。鉄斧と相前後する位置に鉄鏃がある。最も低位置の232は鉄斧の下に入り込んでいるが、最も高位置の234まで約5cmの差がある。全体にみて東側に位置する鉄鏃の方が出土レベルが高い傾向がある。233、235の2点は先端が南向き、231、232、234の3点は先端が北を向いている。鋸の出土位置は234の鉄鏃とほぼ同じ高さである。刃部が西、柄部が東向きで出土した。平面的に鉄斧と鉄鏃(232、235)の上に位置する鉄剣は高さでは5cm以上、上になる。鋸のやや上位である。先端を南、柄が北向きの状態で出土した。

3. 第3主体部

埋葬施設(第12、25、26図、図版10、12)

第1主体部、第2主体部の調査終了後、墳丘の調査に移り北東側の2区の墳丘面を徐々に下げていった段階で、玉類などの遺物が出土したことから、第3の主体部であることが明らかとなった。2区内で主体



第26図 第3主体部(2)

部との認識をもった時点で、主体部の掘り方を削平してしまい、棺底までの深さは5cm～10cm弱である。削平をまぬがれた両端部の確認面の高さは両端で32.56m～32.60m、東端で32.60m～32.65mなので本来の確認面から高さにして40cmほどを滅失してしまったことになる。棺底部の高さは32.0m～32.2mで東端が最も高く、西端が最も低い。

エレベーション図からもわかるように、棺底部は東から西へ向かって一定の割合で傾斜しており、本来の棺の設置に由来する傾きと考えることができる。棺部の全長は確認面で7.5m、棺底部で7.25m、幅は確認面上端で70cm～75cm、棺底部で40cm～60cm弱である。棺部の埋土は上下2層に分層できた。上層はローム粒、ロームブロックを少量含む暗褐色土、下層はローム粒を少量含む暗褐色土である。掘り方全長は確認面上端で9.95m、幅は東側で2m前後、西側では幅が広くなり2.85mほどである。また、土層断面を見ると棺部の埋土の堆積がひょうたん状、あるいはフラスコ状になっており、棺がいわゆる「割竹形」らしいこと、暗褐色土（掘り方埋土3層）が棺の上面全体を被覆していたことがわかる。

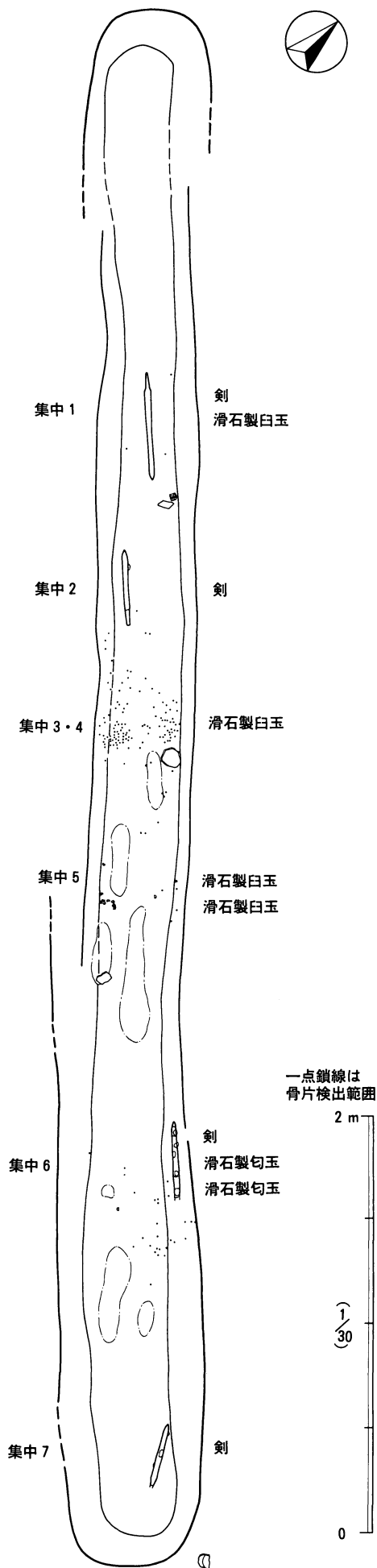
なお、棺内の7か所から骨粉が検出された。分布は棺の東側に限られ、大きく2グループに分けられる。細粉のため何の骨か確認はできなかったが、出土位置からおそらく人骨と思われる¹⁾。検出範囲が3m弱にも及ぶことから、第3主体部では複数人の埋葬が行われた可能性が高い。

遺物の出土状況（第27～30図、図版11～12）

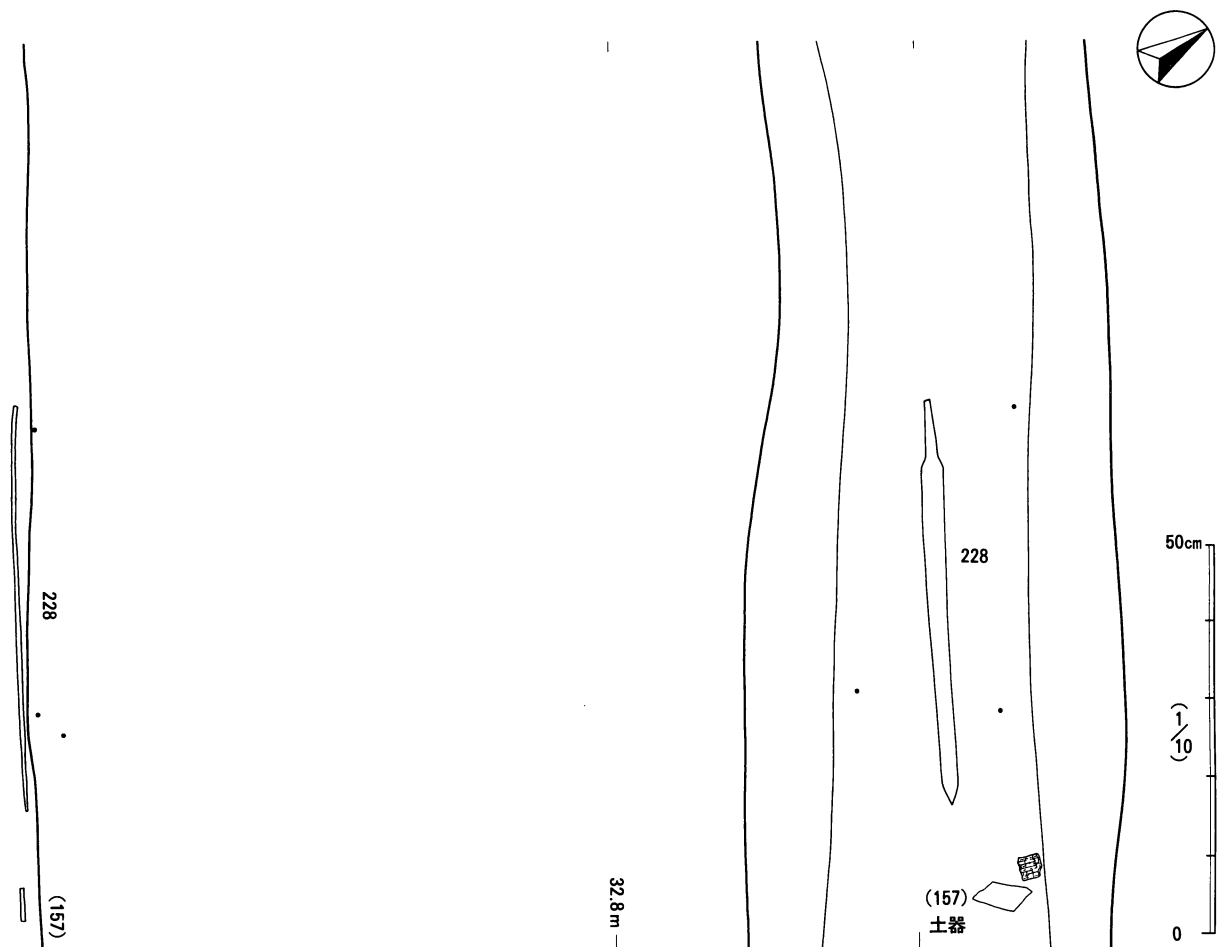
集中1 棺西端から3mに鉄剣（228）と滑石製白玉3点、土器片1点、木炭の集中がある。剣は切先が東向きの状態である。平面的な位置は棺中央で、棺長軸と同一方向を向いている。棺底面に接し、ほぼ水平状態での出土である。

集中2 228の東1mには鉄剣（229）が棺の南寄りに切先を西にし、ほぼ棺底から出土している。

集中3・4 229の鉄剣のすぐ東側に滑石製白玉の集中がある。集中の中心は鉄剣から60cm～80cmの位置



第27図 第3主体部遺物出土状況



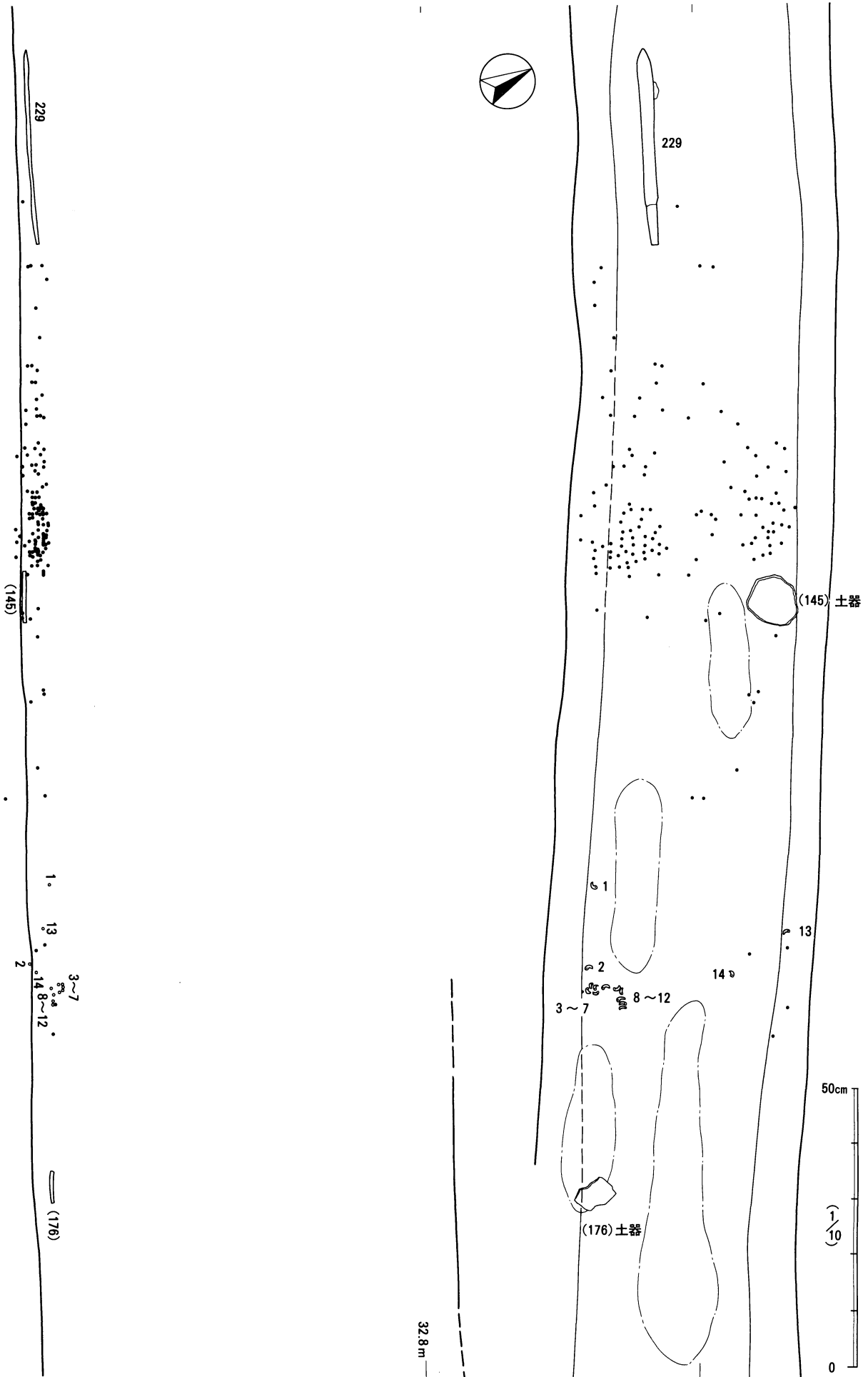
第28図 第3主体部（西部分）遺物出土状況

にあり、細かく見ると平面的に南北2か所のまとまりに細分できそうである。便宜的に棺中軸を中心に南北に分け、やや西側に位置する北側のまとまりを集中3、やや東側に位置するまとまりを集中4とした。レベル的には棺底から6cm～7cmの間に収まっている。出土した臼玉の総数は130点である。臼玉の集中とやや重なるようにして骨粉が棺中央やや東寄りに4か所認められた。形状は長さが30cm～65cm、幅が5cm～15cmの長円形で棺の長軸に沿うように分布しているのが確認された。これらの分布は厚さのほとんどないものから3cmほどの厚みをもつものもある。レベルは棺底から8cmまでの間に分布している。

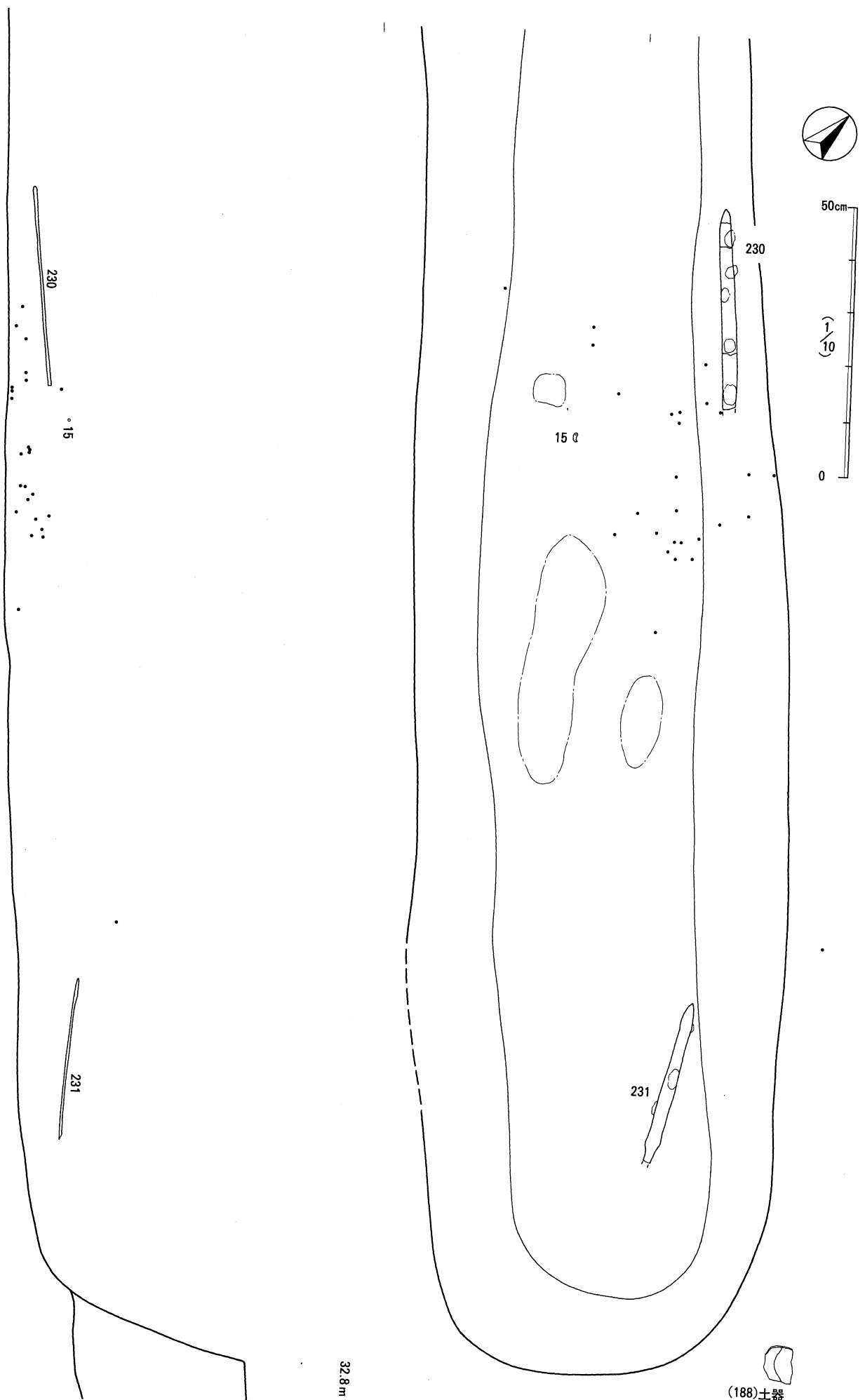
集中5 集中3の中心から80cm西には滑石製勾玉14点（1～14）と滑石製臼玉5点のまとまりがある。勾玉は3点（1、13、14）を除いて棺の北側に集中している。勾玉2点（13、14）と臼玉4点（151～154）は棺の南側にまとまっている。出土レベルはいずれもほぼ棺底に近い。

集中6 棺東端から1.4mの位置に鉄剣と玉類が出土している。鉄剣（230）は棺北寄りに位置し、切先を西に向けて棺長軸に沿って検出された。レベルは切先側が3cmほど下がっている。鉄剣の北から東にかけて滑石製勾玉（15）と滑石製臼玉27点が分布する。玉類の分布の中心も棺の中心から少し北に寄っている。出土レベルはほぼ棺底である。玉の南側と東側には骨粉が3か所検出された。ここでは西側の分布と比べ確認した高さがやや高いこと、玉類の集中とは重ならないことを指摘できる。

集中7 東端の鉄剣（231）は切先が西向き、棺長軸にほぼ平行の状態検出された。出土レベルは切先より基部が5cmほど下がっている。



第29図 第3主体部（中央部分）遺物出土状況



第30図 第3主体部（東部分）遺物出土状況

第3節 出土遺物

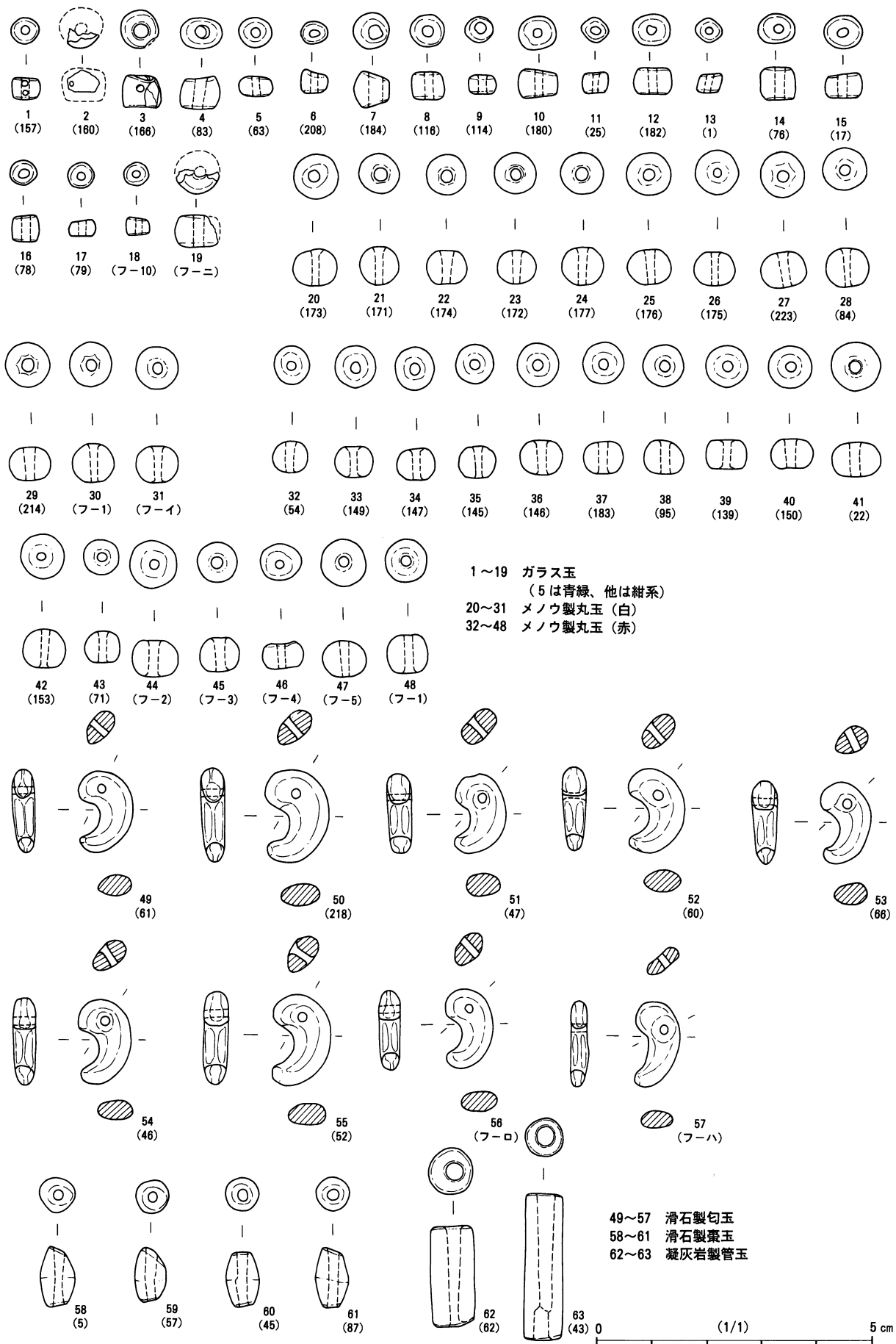
封土とともに混入した土器片などを除外しても、各主体部からそれぞれ200点を超える多量の遺物が出土している。ここでは主体部ごとに遺物を見ていくことにする²⁾。

第3表 埋葬施設出土遺物一覧

	第2主体部	第1主体部	第3主体部
玉類及び装身具		銅釧 1 鉄釧 1	
	ガラス玉 16	ガラス玉 19 白メノウ製丸玉 12	
	琥珀玉 1	赤メノウ製丸玉 17	
	凝灰岩製管玉 8	凝灰岩製管玉 2	
		滑石製棗玉 4	
		滑石製勾玉 9	滑石製勾玉 18
	滑石製白玉 192	滑石製白玉 195	滑石製白玉 209
農工具・その他	鎌 1 斧 1 刀子 4 藤手刀子 1 鋸 1 鑿 1 きさげ状鉄器 1	鎌 1 斧 1 刀子 2 軽石 1	
鉄鋌		鉄鋌 2	
武器	剣 5 矛 1 鉄鏃 12	小形剣 1	剣 4
備考		埋め戻し土中に混入していたものと考えられる土器片 5	埋め戻し土中に混入していたものと考えられる土器片 5

1. 第1主体部の副葬品（巻頭図版1）

第1主体部から出土した遺物は、全部で268点ある。内訳は、玉類が258点（ガラス玉19点、メノウ製丸玉29点、凝灰岩製管玉2点、滑石製棗玉4点、滑石製勾玉9点、滑石製白玉195点）、銅釧1点、鉄釧1点、小形鉄剣1点、農工具などの鉄製品4点（鎌1点、刀子2点、鉄斧1点）、軽石1点、鉄鋌が2点である。



第31図 第1主体部出土遺物(1)

(1) 玉類

ガラス玉 (第31図1～19、巻頭図版3、図版28、第4表) 第2主体部に比べて大形のものが多い。外径は5.0mm～3.5mmで、平均4.5mmを測る。厚さは4.0mm～1.1mm、平均2.9mm、孔径は2.2mm～1.2mm、平均1.61mm、現存重量は0.11g～0.03g、平均0.06gを測る。

第4表 第1主体部出土ガラス玉計測値 (mm・g)

挿図No.	遺物No.	集中	色調	重量 (g)	直径	高	孔径	遺存度	備考
第31図-1	157	2	紺	0.13	4.9-4.6	4.0-3.5	1.7	完形	No. 19と同一個体か
2	160	2	紺	0.08	5.3+	4.1+	-	破片	
3	166	2	紫	0.32	7.0-6.5	5.8-5.0	2.5	一部欠損	
4	83	2	紫	0.32	6.9-5.7	5.7-5.0	2.4	完形	
5	63	4	青緑	0.16	6.0-5.5	3.6	1.5	完形	
6	208	5	紫	0.09	4.8-4.3	4.0-3.0	1.9-1.5	完形	
7	184	5	紫紺	0.31	7.0-6.5	6.3-4.3	2.5	完形	
8	116	5	紫紺	0.24	6.2-6.0	4.7	1.7	完形	
9	114	5	紺	0.08	4.8-4.5	3.2-2.9	2.2	完形	
10	180	5	紫紺	0.31	7.1-6.1	4.8-4.1	1.6	ほぼ完形	
11	25	5	紺	0.12	5.0-4.4	3.7-3.6	1.6	完形	
12	182	5	紫	0.30	6.8-5.6	4.9	1.7	完形	
13	1	5	紺	0.09	4.8-4.3	3.2-3.0	1.6	完形	
14	フ-6	一括	紫	0.30	6.4-5.5	5.8-5.0	1.8	完形	
15	フ-7	一括	紺	0.27	6.8-6.2	4.3-3.6	2.1-1.7	完形	
16	フ-8	一括	うすい紫	0.11	4.8-4.5	4.5-3.6	2.0-1.7	完形	
17	フ-9	一括	うすい紫	0.09	4.9-4.7	2.9-2.5	1.6	完形	
18	フ-10	一括	紺	0.08	4.3-4.1	3.3-2.7	1.6-1.5	完形	
19	フ-ニ	一括	紺	0.18	7.4	5.5	-	約1/2残存	

メノウ製丸玉 (第31図20～48、巻頭図版3、図版28、第5表)

全部で29点ある。色調の違いから白い丸玉12点、赤い丸玉17点に分けられる。外径は最大0.9cm、最小0.6cm。厚さは最大0.7cm、最小0.5cm、孔径は0.1cm～0.2cmを測る。

第5表 第1主体部出土メノウ製丸玉計測値 (mm・g)

(その1)

挿図No.	遺物No.	集中	外径		長さ	孔径		色調	重量	備考
			最大	最小		上面	下面			
第31図-20	173	1	8.0	7.9	6.5	2.1	1.3	白	0.61	
21	171	1	7.5	7.2	6.8	2.4	1.3	白	0.46	
22	174	1	7.4	7.2	6.0	1.9	1.3	白	0.47	
23	172	1	7.3	7.3	6.0	1.9	1.1	白	0.40	
24	177	1	7.7	7.7	6.6	2.2	1.1	白	0.57	
25	176	1	8.0	7.7	6.4	1.9	1.1	白	0.58	
26	175	1	7.8	7.7	6.0	1.5	1.1	白	0.54	
27	223	1	7.9	7.9	6.0	1.9	1.3	白	0.60	
28	84	1	8.0	7.8	6.8	1.9	1.1	白	0.58	
29	214	1	7.9	7.3	6.0	2.0	1.5	白	0.50	
30	フルイー1	一括	7.6	7.3	6.6	1.8	1.1	白	0.55	
31	フルイーイ	一括	7.3	7.1	6.5	1.8	1.1	白	0.52	
32	54	2	6.2	6.2	5.7	1.5	1.1	赤	0.31	
33	149	2	7.2	6.8	6.4	1.6	1.6	赤	0.40	
34	147	2	7.1	7.1	5.6	1.9	1.5	赤	0.44	
35	145	2	6.8	6.6	5.4	1.6	1.3	赤	0.38	

第5表 (その2)

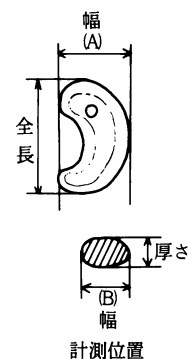
挿図No.	遺物No.	集中	外径		長さ	孔径		色調	重量	備考
			最大	最小		上面	下面			
36	146	2	7.4	7.4	6.2	1.8	1.5	赤	0.53	
37	183	5	7.4	6.9	5.7	1.6	1.6	赤	0.42	
38	95	5	7.3	6.8	6.0	1.8	1.6	赤	0.44	
39	139	5	7.4	7.4	5.1	1.8	1.9	赤	0.50	
40	150	5	7.7	7.4	5.1	1.6	1.7	赤	0.45	
41	22	5	8.8	8.5	6.3	2.0	1.6	赤	0.76	
42	153	5	7.6	7.6	6.9	1.6	1.6	赤	0.65	
43	71	5	6.2	6.2	5.6	1.6	1.3	赤	0.33	
44	フルイ-2	一括	8.3	8.2	6.6	1.6	1.8	赤	0.72	
45	フルイ-3	一括	7.0	6.9	6.1	1.9	2.0	赤	0.40	
46	フルイ-4	一括	7.2	6.4	4.4	1.5	1.2	赤	0.32	
47	フルイ-5	一括	8.0	8.0	6.4	1.7	0.9	赤	0.59	
48	フルイ-①	一括	7.6	6.9	6.4	1.7	1.9	赤	0.56	

滑石製勾玉 (第31図49~57、巻頭図版3、図版28、第6表)

全長は平均で1.45cm、厚さの平均は0.37cmを測る。これは同じ第3主体部から検出した滑石製の勾玉よりごくわずかだが小ぶりである。すべて片面穿孔である。

第6表 第1主体部出土滑石製勾玉計測値 (mm・g)

挿図No.	遺物No.	集中	全長	幅 (A)	幅 (B)	厚さ	孔径	重量
第31図-49	61	3	14.7	9.5	5.6	3.6	1.2	0.73
50	218	3	16.0	11.0	7.0	3.8	1.6	1.09
51	47	3	13.3	8.9	6.5	4.0	1.4	0.86
52	60	3	14.6	9.9	6.4	4.1	1.7	0.75
53	66	3	14.0	8.9	5.4	4.2	1.6	0.68
54	46	3	14.4	9.3	5.5	3.8	1.4	0.73
55	52	3	15.5	10.1	6.5	3.8	1.4	1.01
56	フ-ロ	一括	13.6	8.2	5.4	3.4	1.2	0.60
57	フ-ハ	一括	14.6	7.8	5.5	2.2	1.3	0.48



滑石製棗玉 (第31図58~61、巻頭図版3、図版28、第7表)

若干のばらつきはあるが、外径は6.6cm弱、長さは1cm、孔径は0.15cmを測る。欠損のある61を除き、両面穿孔である。4点ともていねいな仕上げである。

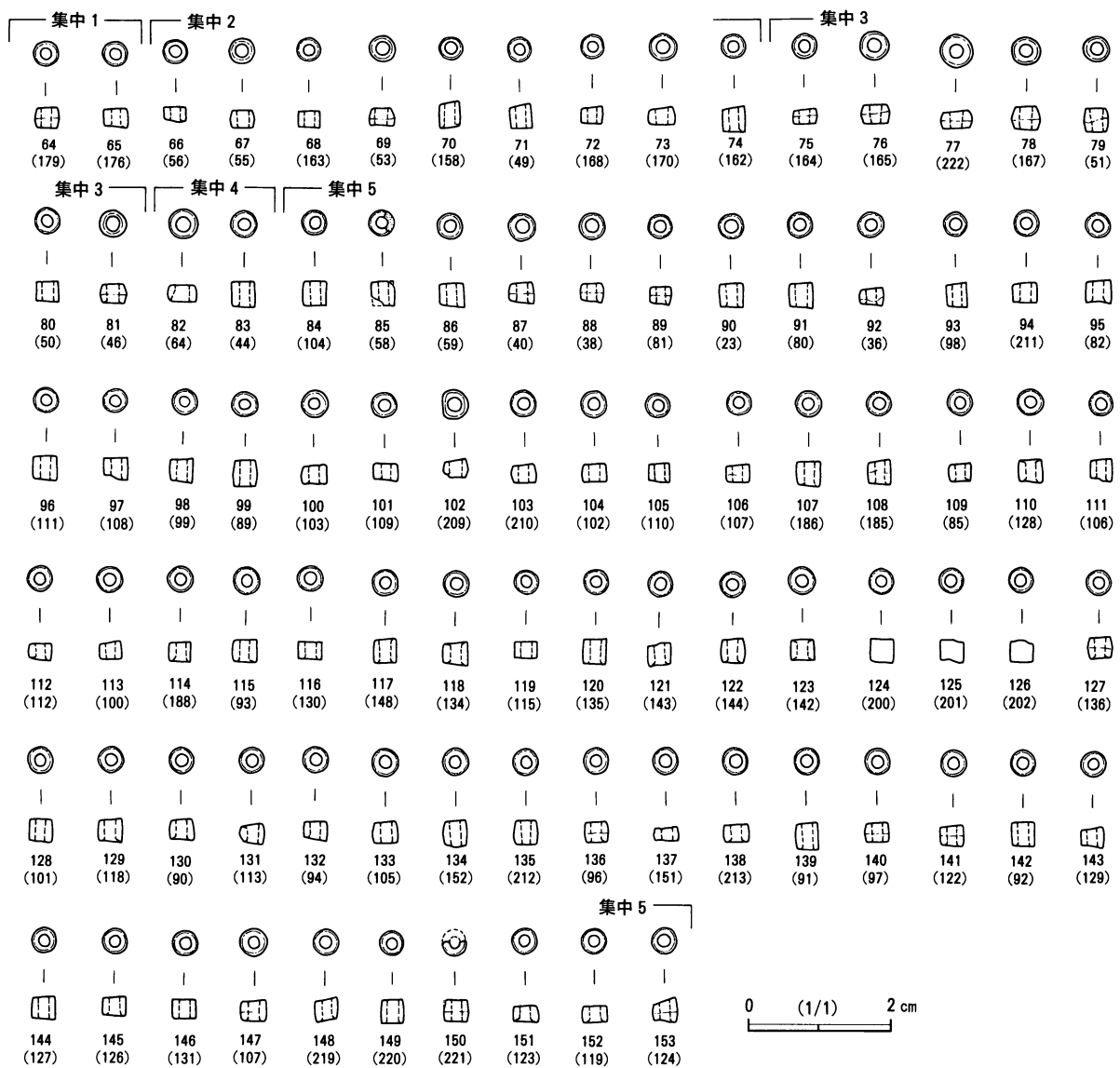
凝灰岩製管玉 (第31図62、63、巻頭図版3、図版28、第7表)

寸法や穿孔方法は少し異なるが、第2主体部から検出した凝灰岩製の小形の管玉に比べて倍近い大きさである。

第7表 第1主体部出土棗玉・管玉計測値 (mm・g)

挿図No.	遺物No.	集中	玉の名称	外径		長さ	孔径		重量	穿孔方法	材質	色調	備考
				最大	最小		上面	下面					
第31図-58	5	4	棗玉	6.20	5.80	10.20	1.60×1.40	1.85	0.51	両面	滑石		
59	57	4	棗玉	5.78	5.50	9.55	1.60×1.30	1.30	0.39	両面	滑石		
60	45	4	棗玉	5.80	5.65	9.50	1.65×1.80	1.65	0.45	両面	滑石		
61	87	5	棗玉	6.00	5.75	10.45	2.00×1.75	1.75	0.43	両面?	滑石		
62	62	4	管玉	7.95	7.95	17.60	3.05×2.90	1.65	1.87	片面	凝灰岩	淡灰緑色 (やや緑が濃い)	
63	43	4	管玉	6.70	6.45	25.90	3.00×3.20	3.00	1.88	両面	凝灰岩	淡灰緑色 (灰味が強い)	

滑石製白玉 (第32、33図、64~258、図版27、第8表) 出土状況の項で述べたように3か所の集中に分けられるものの、ほとんどが単独の状態を検出した。中にはいくつか合わさったまま発見できたものも



第32図 第1主体部出土遺物(2)

あり、これらは糸を通した状態で埋納されたことを窺わせている。鉄釧に付着していた124～126などがその例である。

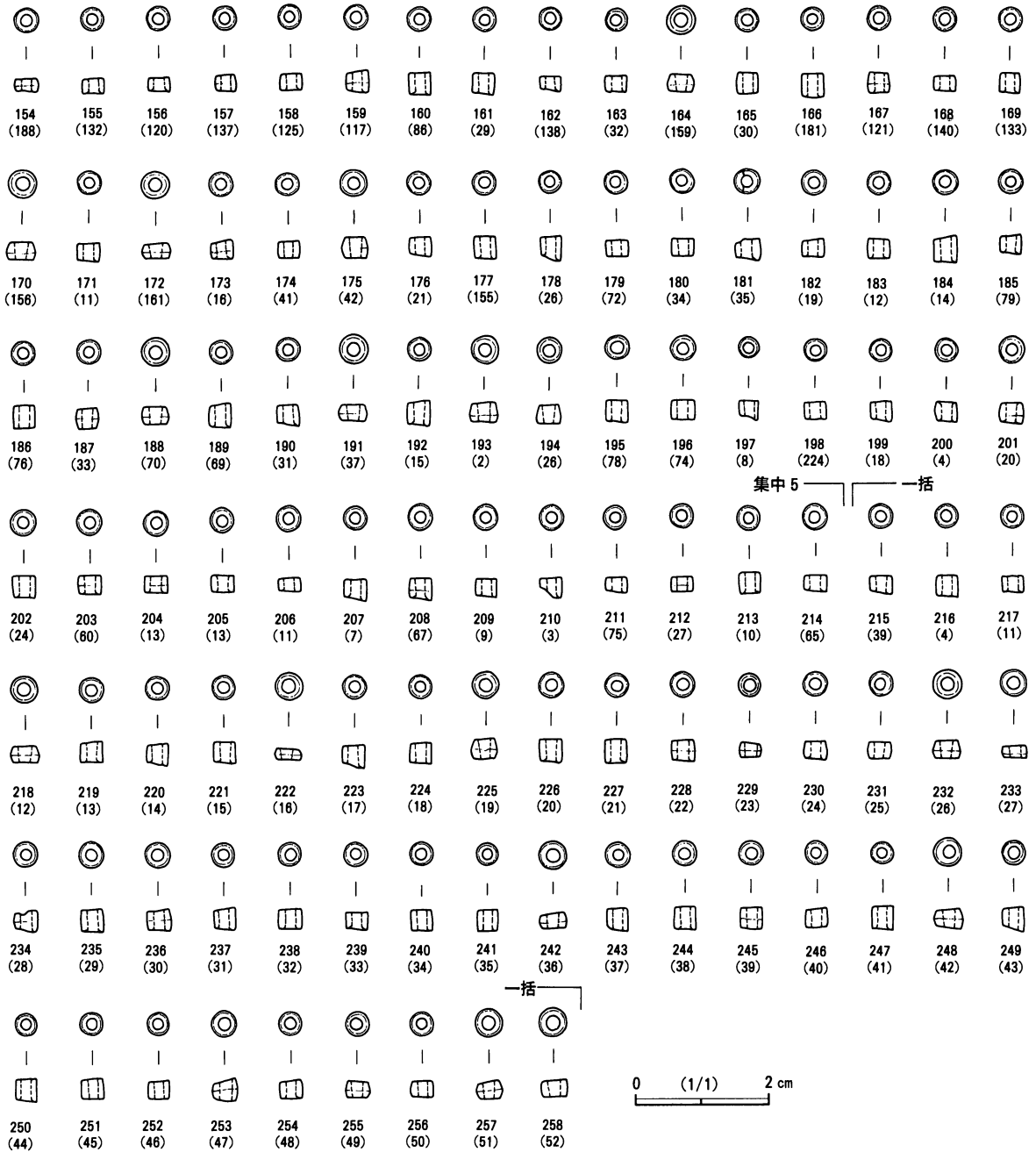
形状は円筒形で、中位にふくらみをもち、算盤玉に近くなるものも見受けられる。また、端部は必ずしも平行にそろわないものが多い。外径は4.5mm～2.1mm、平均(最大値)3.63mm、厚さは4.0mm～1.4mm、平均(最大値)2.92mm、孔径は2.7mm～1.5mm、平均1.75mm、現存重量は0.08g～0.02g、平均0.048gを測る。

第8表 第1主体部出土滑石製臼玉計測値(mm・g・m)

(その1)

挿図No.	集中	遺物No.	計測値(mm)						(g) 現存重量	(m) 出土レベル	備考		
			径		高さ		孔径						
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値					
第32図- 64	1	179	3.6	× 3.5	2.9	2.6	1.8	× 1.7	1.7	× 1.6	0.05	32.540	
65	1	178	3.6	× 3.5	2.8	2.5	1.6		1.5		0.05	32.520	
66	2	56	3.4		2.1	1.7	1.7		1.6		0.03	32.490	
67	2	55	3.6		2.5	2.4	1.9		1.7	× 1.6	0.03	32.460	
68	2	163	3.1		2.4		1.7		1.6		0.02	32.460	
69	2	53	3.7	× 3.6	2.5	2.3	1.9		1.8	× 1.5	0.02	32.540	
70	2	158	3.2		3.6	3.3	1.7		1.6		0.04	32.470	
71	2	49	3.3		3.2	3.0	1.8		1.6		0.04	32.490	

集中 5



第33図 第1主体部出土遺物(3)

第8表 (その2)

挿図No.	集中	遺物No.	計測値 (mm)						(g) 現存重量	(m) 出土レベル	備考
			径		高さ		孔径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第32図-72	2	168	3.5		2.5	2.2	1.7	1.6	0.04	32.480	
73	2	170	3.9 × 3.8		2.3	2.1	1.9	1.8 × 1.5	0.03	32.450	
74	2	162	3.4		3.3	3.1	1.7	1.6 × 1.5	0.05	32.580	
75	3	164	3.5		2.0	1.9	1.7	1.5	0.03	32.520	
76	3	165	4.0 × 3.8		2.7	2.5	1.8	1.8 × 1.5	0.04	32.500	
77	3	222	4.5 × 4.4		2.5	2.2	1.9	1.8 × 1.7	0.05	32.430	
78	3	167	4.0 × 3.9		3.1	3.0	1.9	1.7	0.05	32.490	
79	3	51	3.9 × 3.8		3.4	3.3	1.9 × 1.8	1.8 × 1.7	0.05	32.490	
80	3	50	3.5 × 3.4		2.9	2.8	1.7	1.6	0.07	32.570	
81	3	48	3.7 × 3.6		2.5	2.2	2.0	1.8 × 1.7	0.03	32.540	
82	4	64	4.1		2.5	2.0	2.7 × 1.9	2.0 × 1.9	0.05	32.515	
83	4	44	3.6		3.3	3.2	1.7	1.6 × 1.5	0.06	32.525	

第8表 (その3)

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第32図- 84	5	104	3.6		3.4	3.3	1.7	1.6	0.07	32.520	
85	5	58	3.5		3.2	2.2+	1.7	1.6	0.04	32.510	
86	5	59	3.6		3.2	2.9	1.7	1.6	0.06	32.530	
87	5	40	3.8 × 3.7		2.9	2.1	1.8	1.7 × 1.6	0.05	32.560	
88	5	38	3.5		2.6	2.1	1.8	1.7	0.04	32.570	
89	5	81	3.4		2.6	2.2	1.7	1.6	0.03	32.550	
90	5	23	3.5		3.3	3.1	1.8	1.6	0.05	32.590	
91	5	80	3.6		3.7	3.4	1.7	1.6	0.06	32.530	
92	5	36	3.6 × 3.5		2.4	1.9	1.7	1.6	0.04	32.550	
93	5	98	3.2		3.7	3.3	1.7	1.6	0.05	32.570	
94	5	211	3.6		2.9	2.8	1.7	1.6	0.06	32.590	
95	5	82	3.6		3.3	2.8	1.7	1.6	0.06	32.580	
96	5	111	3.7		3.3	3.1	1.6	1.5	0.07	32.545	
97	5	108	3.5		3.0	2.3	1.6	1.5	0.04	32.595	
98	5	99	3.6 × 3.5		3.2	3.0	1.7	1.6	0.06	32.560	
99	5	89	3.7		3.6	3.2	1.7	1.6	0.07	32.600	
100	5	103	3.7		2.6	2.5	1.7	1.6	0.05	32.560	
101	5	109	3.5		2.2	2.0	1.7	1.6	0.04	32.610	
102	5	209	4.1 × 3.5		2.5	1.5	2.0	1.8 × 1.7	0.04	32.540	
103	5	210	3.6		2.7	2.5	1.6	1.5	0.05	32.600	
104	5	102	3.8		2.6	2.5	1.8	1.7 × 1.5	0.05	32.575	
105	5	110	3.3		2.7	2.4	1.7	1.6 × 1.5	0.03	32.570	
106	5	187	3.5		2.6	2.3	1.7	1.6	0.04	32.455	
107	5	186	3.7 × 3.6		3.7	3.5	1.7	1.6	0.06	32.460	
108	5	185	3.4		3.4	3.0	1.7	1.5	0.05	32.460	
109	5	85	3.5		3.0	2.7	1.8	1.7	0.05	32.615	
110	5	128	3.7		3.2	3.0	1.7	1.5	0.06	32.580	
111	5	106	3.4		3.3	2.4	1.7	1.6	0.04	32.570	
112	5	112	3.5		2.3	1.8	1.7	1.6	0.03	32.590	
113	5	100	3.6		2.5	2.2	1.7	1.6 × 1.5	0.04	32.595	
114	5	188	3.5		2.7	2.6	1.7	1.6	0.05	32.450	
115	5	93	3.8		3.1	3.0	1.7	1.6	0.06	32.630	
116	5	130	3.8		2.5	2.3	1.7	1.6	0.05	32.575	
117	5	148	3.6 × 3.5		3.3	3.0	1.8	1.7	0.05	32.560	
118	5	134	3.6		3.2	2.6	1.7	1.6	0.05	32.565	
119	5	115	3.4 × 3.3		2.5	2.4	1.7	1.6	0.03	32.600	
120	5	135	3.5 × 3.4		3.7	3.5	1.7	1.6	0.06	32.565	
121	5	143	3.6 × 2.8		2.9	2.6	1.7	1.6	0.05	32.580	
122	5	144	3.6 × 2.1		3.3	3.2	1.7	1.6	0.06	32.570	
123	5	142	3.5 × 2.5		3.1		1.7	—	—	32.575	
124	5	200	3.4		3.2	3.0	—	—	—	32.575	
125	5	201	3.5 × 3.4		3.1	2.8	1.7	—	—	32.575	
126	5	202	3.8		3.0	2.9	1.7	1.6	0.06	32.580	
127	5	136	3.7 × 3.5		3.0	2.9	1.7	1.6	0.05	32.565	
128	5	101	3.3		3.2	3.0	1.7		0.04	32.610	
129	5	118	3.5		3.2	2.7	1.7		0.05	32.595	
130	5	90	3.5		2.8	2.7	1.7	1.6	0.05	32.620	
131	5	113	3.6 × 3.4		2.8	1.5	1.7		0.03	32.600	
132	5	94	3.6 × 3.5		2.7	2.1	1.7	1.6	0.04	32.620	
133	5	105	3.7		3.0	2.8	1.7	1.6	0.05	32.610	
134	5	152	3.8 × 3.7		3.6	3.1	1.7	1.6	0.07	32.540	
135	5	212	3.6		3.3	3.2	1.7		0.05	32.550	
136	5	96	3.7		2.9		1.7	1.6	0.05	32.600	
137	5	151	3.7 × 3.6		1.9	1.4	1.7	1.6	0.03	32.565	
138	5	213	3.6		2.5	2.4	1.7	1.6	0.04	32.550	
139	5	91	3.6		3.9	3.6	1.7	1.6	0.07	32.630	
140	5	97	3.6 × 3.5		2.7	2.6	1.7	1.6	0.04	32.615	
141	5	122	3.8		3.0	2.6	1.7		0.05	32.600	
142	5	92	3.5		3.4	3.2	1.7	1.6	0.05	32.625	
143	5	129	3.5		3.2	2.2	1.7	1.6	0.03	32.580	
144	5	127	3.7 × 3.6		3.2	3.1	1.7	1.6	0.06	32.600	
145	5	126	3.5		2.9	2.2	1.7	1.6	0.04	32.580	
146	5	131	3.5		2.7		1.7		0.05	32.610	
147	5	107	3.9 × 3.8		3.1	2.7	1.7		0.05	32.600	
148	5	219	3.6		3.3	3.2	1.7		0.06	32.410	
149	5	220	3.4		3.2	3.1	1.7	1.6	0.05	32.410	
150	5	221	3.5+		3.0		—	—	0.02	32.410	
151	5	123	3.6		2.2	2.0	1.7	1.6	0.03	32.590	

第8表(その4)

挿図No.	集中	遺物No.	計測値(mm)						(g) 現存 重量	(m) 出土 レベル	備考
			径		高さ		孔径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第32図-152	5	119	3.5		2.3	2.2	1.7	1.6	0.04	32.600	
153	5	124	3.7		3.2	2.1	1.7	1.6	0.05	32.590	
第33図-154	5	88	3.6 × 3.5		2.1	1.9	1.7	1.6	0.03	32.625	
155	5	132	3.5		2.3	2.1	1.7	1.6	0.03	32.575	
156	5	120	3.6 × 3.5		2.1	1.9	1.7	1.6	0.04	32.605	
157	5	137	3.5 × 3.4		2.8	2.5	1.7		0.04	32.570	
158	5	125	3.6		2.7	2.6	1.7	1.6	0.05	32.590	
159	5	117	3.7		3.4	2.5	1.7	1.5	0.06	32.610	
160	5	86	3.6		3.4	3.1	1.7	1.6	0.07	32.630	
161	5	29	3.5		3.2	2.9	1.7	1.6	0.06	32.590	
162	5	138	3.4 × 3.3		2.3	2.0	1.8	1.7	0.03	32.550	
163	5	32	3.4 × 3.3		2.8	2.5	1.7	1.6	0.04	32.590	
164	5	159	4.2 × 4.1		2.8	2.7	1.9	1.7 × 1.5	0.07	32.555	
165	5	30	3.4		3.3	3.2	1.7		0.06	32.600	
166	5	181	3.4		3.6	3.2	1.7	1.6	0.06	32.500	
167	5	121	3.6		3.3	3.2	1.7	1.6	0.05	32.620	
168	5	140	3.3		2.4	2.3	1.7	1.6	0.03	32.530	
169	5	133	3.6 × 3.5		3.1	2.9	1.7	1.6	0.05	32.570	
170	5	156	4.3 × 4.1		2.5	2.3	2.0	1.8 × 1.6	0.05	32.530	
171	5	17	3.6		2.8	2.4	1.7	1.6	0.05	32.620	
172	5	161	4.2 × 4.1		2.1	2.0	2.0	1.7 × 1.5	0.05	32.540	
173	5	16	3.6		2.8	2.2	1.7	1.6	0.05	32.580	
174	5	41	3.8 × 3.7		2.7	2.4	1.7	1.6	0.05	32.560	
175	5	42	4.1		3.2	3.1	2.0	1.7	0.06	32.570	
176	5	21	3.7		2.9	2.5	1.7		0.05	32.580	
177	5	155	3.6 × 3.5		3.4	3.3	1.7	1.6	0.05	32.535	
178	5	28	3.4 × 3.3		3.5	2.6	1.7	1.6	0.04	32.555	
179	5	72	3.7		2.4		1.7	1.6	0.04	32.550	
180	5	34	3.5		2.7	2.6	1.8	1.7	0.04	32.560	
181	5	35	3.9 × 3.8		2.9	1.9	1.7	1.6	0.05	32.560	
182	5	19	3.5		2.8	2.3	1.7	1.6	0.04	32.570	
183	5	12	3.5		2.9	2.7	1.7	1.6	0.05	32.590	
184	5	14	3.9 × 3.8		4.0	3.3	1.7	1.6	0.08	32.560	
185	5	79	3.5 × 3.4		2.9	2.3	1.7	1.6	0.04	32.510	
186	5	76	3.5		3.6	3.5	1.7	1.6	0.06	32.530	
187	5	33	3.6 × 3.5		3.2	2.9	1.8	1.6	0.05	32.590	
188	5	70	4.1		2.5		2.0	1.7	0.05	32.530	
189	5	69	3.5 × 3.4		3.5	3.1	1.7	1.6	0.06	32.530	
190	5	31	3.4		3.1	2.5	1.7	1.6	0.04	32.580	
191	5	37	4.2		2.2		2.0	1.8	0.05	32.570	
192	5	15	3.6 × 3.5		4.0	3.7	1.7	1.6	0.07	32.570	
193	5	2	4.2 × 4.1		3.0	2.9	2.0	1.7	0.06	32.570	
194	5	26	3.9 × 3.8		2.8		2.0	1.8 × 1.6	0.05	32.555	
195	5	78	3.6		3.3		1.7	1.6	0.06	32.530	
196	5	74	3.8 × 3.7		3.0	2.8	1.7	1.6	0.05	32.545	
197	5	8	3.1 × 2.9		3.0	2.0	1.7		0.03	32.570	
198	5	224	3.5		2.7	2.6	1.7	1.6	0.04	32.460	
199	5	18	3.5		3.0	2.5	1.7	1.6	0.05	32.560	
200	5	4	3.6 × 3.5		3.0	2.7	1.7	1.6	0.05	32.550	
201	5	20	3.9		3.0	2.8	1.7	1.6	0.06	32.550	
202	5	24	3.7		3.3	3.2	1.7	1.6	0.06	32.580	
203	5	68	3.6		2.8	2.7	1.7	1.6	0.05	32.540	
204	5	13	3.5		2.6	2.4	1.7	1.6	0.04	32.560	
205	5	73	3.5		2.5	2.3	1.7		0.04	32.520	
206	5	11	3.6		2.2	1.7	1.7	1.6	0.04	32.570	
207	5	7	3.5		3.1	2.8	1.7	1.6	0.05	32.570	
208	5	67	3.8		3.2	2.9	1.7		0.07	32.540	
209	5	9	3.7		3.0	2.8	1.7	1.6	0.06	32.500	
210	5	3	3.6 × 3.5		3.1	1.4	1.7		0.04	32.560	
211	5	75	3.4		2.3	2.0	1.7	1.6	0.03	32.540	
212	5	27	3.5 × 3.4		2.3	2.2	1.7	1.6	0.04	32.570	
213	5	10	3.5		3.3		1.7	1.6	0.06	32.580	
214	5	65	3.7		2.5	2.0	1.7	1.6	0.05	32.570	
215	—	39	3.6		2.8	2.4	1.7	1.6	0.05	32.580	
216	—	(A)	3.5		3.3	3.0	1.7		0.06		以下、(遺物番号)
217	—	(11)	3.5		2.6	2.5	1.7	1.6	0.05		は、ふるい一括
218	—	(12)	4.1		2.5	2.4	2.0	1.8 × 1.5	0.05		出土品。

第8表 (その5)

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第33図-219	—	(13)	3.7		3.1	2.9	1.7	1.6	0.06		
220	—	(14)	3.6	× 3.5	3.3	2.4	1.7	1.6	0.05		
221	—	(15)	3.5		3.1	3.0	1.7	1.6	0.05		
222	—	(16)	4.0	× 3.9	1.6	1.4	2.0	1.8 × 1.6	0.03		
223	—	(17)	3.5		3.3	2.2	1.7		0.05		
224	—	(18)	3.4		2.9	2.5	1.7	1.6	0.05		
225	—	(19)	4.0		2.9	2.8	2.0	1.7 × 1.5	0.06		
226	—	(20)	3.8		3.4	3.3	1.7	1.6	0.07		
227	—	(21)	3.5	× 3.4	3.5		1.7	1.6	0.06		
228	—	(22)	3.6		2.8	2.6	1.7	1.6	0.05		
229	—	(23)	3.4	× 3.3	2.4	1.9	1.9	1.8 × 1.7	0.02		
230	—	(24)	3.7		2.6	2.3	1.7	1.6	0.05		
231	—	(25)	3.6	× 3.5	2.5	2.4	1.7	1.6	0.04		
232	—	(26)	4.3	× 4.2	2.7	2.6	2.0	1.7 × 1.6	0.06		
233	—	(27)	3.9		1.8	1.4	1.7		0.03		
234	—	(28)	3.5		3.1	2.3	1.7		0.05		
235	—	(29)	3.7		3.3	3.2	1.8	1.7	0.06		
236	—	(30)	3.7	× 3.6	3.0	2.6	1.8	1.7	0.05		
237	—	(31)	3.5		3.1	2.5	1.7	1.6	0.05		
238	—	(32)	3.6		3.0	2.9	1.7	1.6	0.05		
239	—	(33)	3.6		2.6	2.4	1.7	1.6	0.05		
240	—	(34)	3.5	× 3.4	3.3	3.2	1.7	1.6	0.06		
241	—	(35)	3.3		3.3	3.2	1.7		0.05		
242	—	(36)	4.2	× 4.1	2.3	1.9	2.0	1.8	0.05		
243	—	(37)	3.5		3.1	2.6	1.7	1.6	0.05		
244	—	(38)	3.7	× 3.6	3.5	3.2	1.7	1.6	0.06		
245	—	(39)	3.7		3.2	3.0	1.7	1.6	0.06		
246	—	(40)	3.6		2.9	2.5	1.7	1.6	0.05		
247	—	(41)	3.3		3.3	3.2	1.7	1.6	0.05		
248	—	(42)	4.3		2.8	2.1	2.0	1.8 × 1.7	0.06		
249	—	(43)	3.6	× 3.5	3.8	2.5	1.7	1.6	0.06		
250	—	(44)	3.2	× 3.1	3.3	3.1	1.7	1.6	0.04		
251	—	(45)	3.5	× 3.4	3.0	2.9	1.7	1.6	0.04		
252	—	(46)	3.4		2.7	2.3	1.7		0.04		
253	—	(47)	3.9	× 3.8	3.6	2.1	2.0	1.8	0.05		
254	—	(48)	3.7		2.9	2.7	1.8	1.7	0.06		
255	—	(49)	3.8	× 3.7	2.6	2.2	2.0	1.8 × 1.7	0.04		
256	—	(50)	3.6	× 3.5	2.5		1.7	1.6	0.04		
257	—	(51)	4.0		2.4	2.0	2.0	1.8 × 1.6	0.04		
258	—	(52)	4.1	× 4.0	2.3		2.0	1.8	0.05		

(2) 石製品

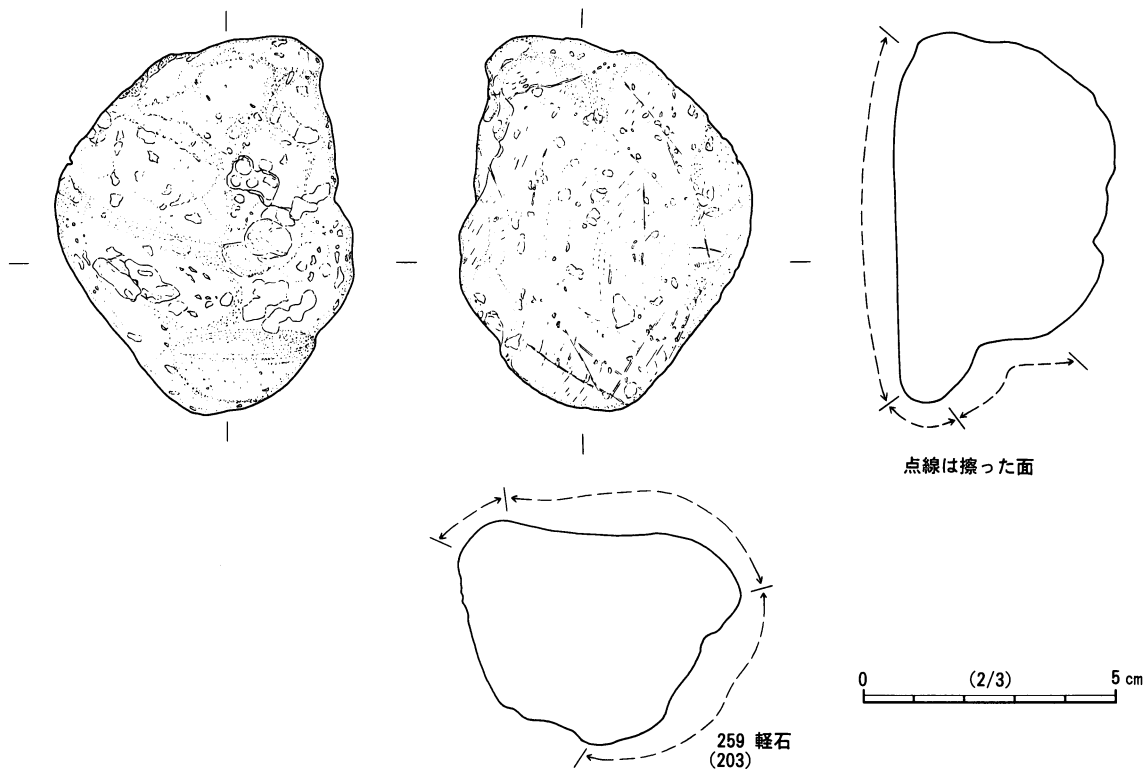
軽石 (第34図259、図版20、26)

小さめの握りこぶしのような形の軽石である。淡黄色 (5Y 8/3, 7.5Y 8/3 標準土色帖/1988による) を呈する。大きさは7.49cm×6.11cm、高さ4.6cm、現存重量33.04gを測る。

全体的に表面は磨滅している。断面形が不整形なかまぼこ状であることに示されているように、平らな面をもっている。ただ、平らといっても、子細に見れば波打ったような曲面であり、砥石の研ぐ面のように面全体が一定の方向にすり減った一枚の面をなすものではない。なお、この面には、線状のきずが数か所についている。一方、平滑面ではない部分にも、繰返しの磨耗によると思われる溝状のくぼみが2条認められる。主体部の封土とともにほかの時期の遺物が混入した可能性も否定できないが、最近鍛冶工房跡に伴って軽石が出土する例が増加しつつあり、鉄鋌との関連からも副葬品として考えておきたい。

(3) 釧

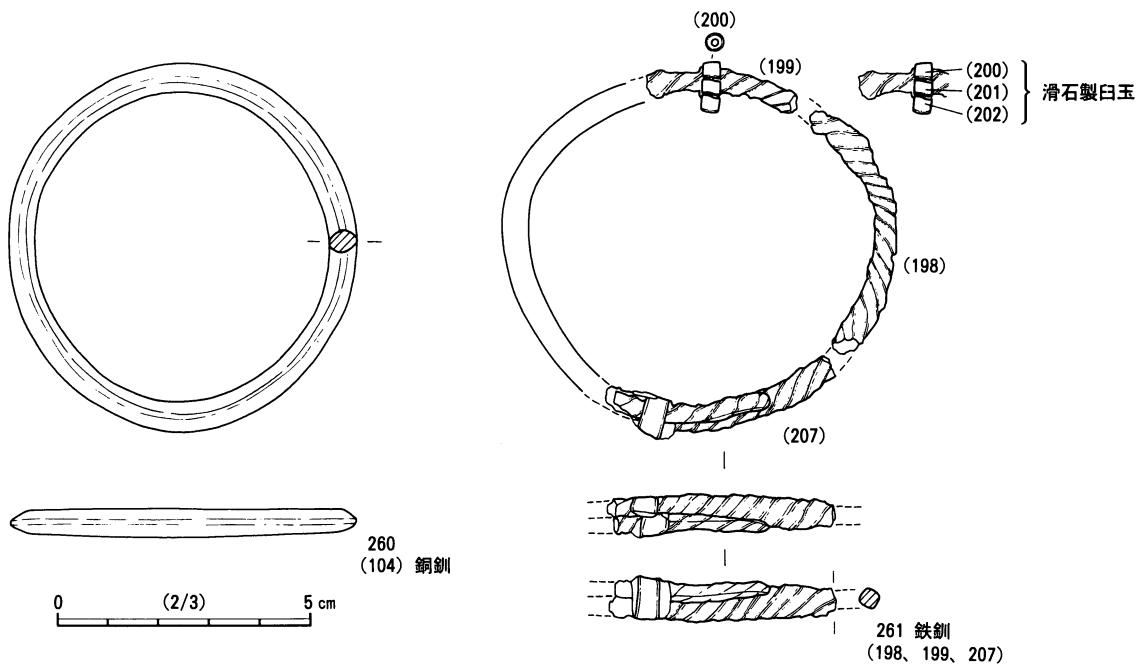
銅釧 (第35図260、図版20) 完形である。平面はほぼ円形で環断面はややいびつな菱形を呈する鋳造品である。周縁に刻み目などの装飾はない。外径は最大7.18cm、最小6.94cm、内径は最大6.01cm、最小5.91cm、環断面最大幅0.59cm×0.51cm、最小幅0.48cm×0.48cm、重量26.52gを測る。



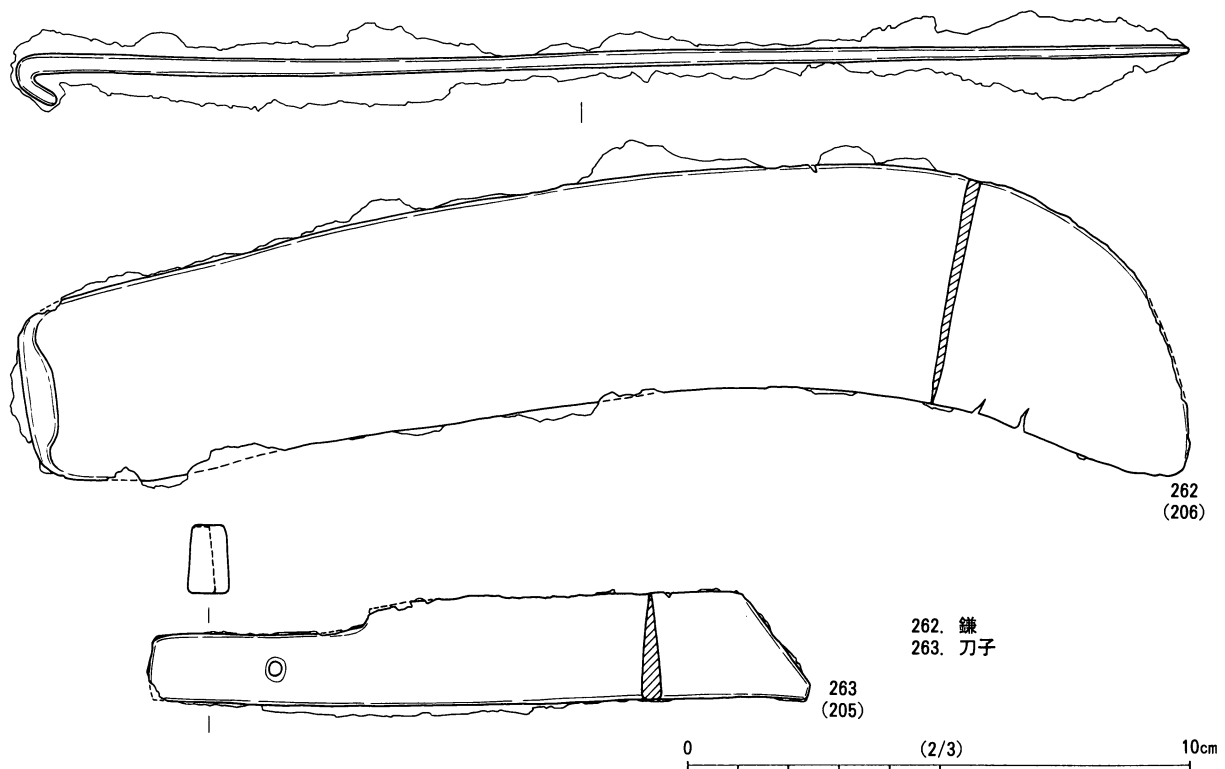
第34図 第1主体部出土遺物(4)

鉄釧（第35図261、図版20、33）ねじりのある鉄製釧である。接合しない同じ作りの断片が3点あるが、うち1点にはやや細かい同じ造りの部品の端部が3 cmほど重ねられ密着している。細かい部分の端部から2.5cmの箇所には別造りの薄い鉄の帯が巻かれ、2条の鉄環片を締めている。なお、最も短い一片には滑石製白玉3点が連なった状態のまま錆着している。

3点を図上で復元すると、8 cm × 7 cmほどのややゆがんだ環となる。



第35図 第1主体部出土遺物(5)



第36図 第1主体部出土遺物(6)

(4) 鉄製品

鎌（第36図262、図版20、29） 全長22.6cm、現存重量135.4gの大形品である。錆ぶくれや欠損箇所があるものの、ほぼ完形である。

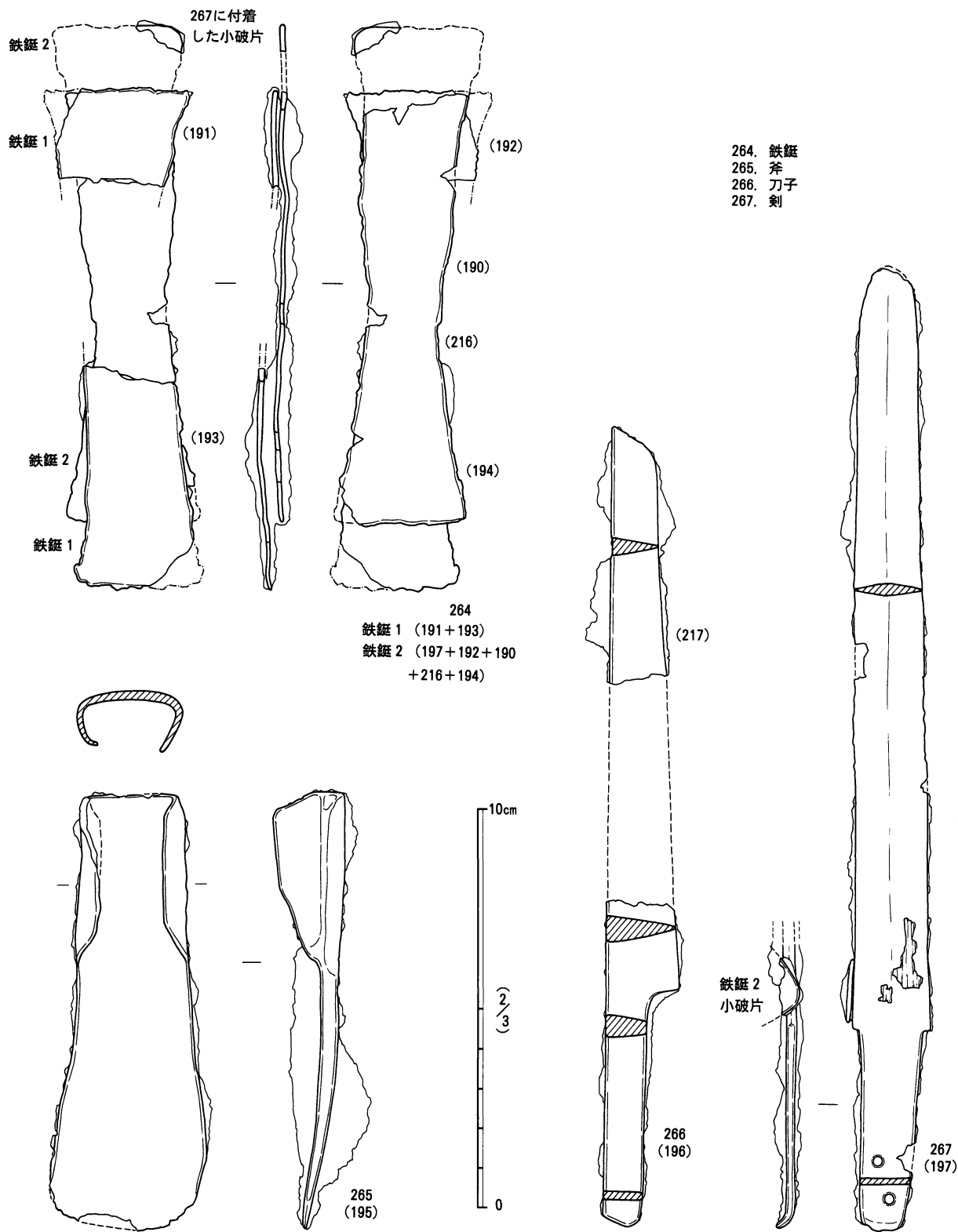
刃を下にして、柄を取り付ける基部の折り返しが手前に曲がるよう置くと、刃先が右側にくる。全体としてゆるやかに内湾するものであるが、刃先1/4の部分は背が急激に内湾し、嘴状に収まる。

錆と欠損のため、刃のついている範囲は不明瞭であるが17.5cm以上になる。幅は最も狭い基部（2.95cm）から徐々に刃幅を増し、刃先から1/4の箇所まで最大となる（4.51cm）。背の厚みは錆のため正確には計測できないが、比較的遺存状態のよい中央部付近で0.24cmを測る。最も厚いと思われる基部付近は3mm前後である。

刀子1（第36図263、図版20、29） 全長13.1cm、現存重量41.01gを測る。錆化による剥離や欠損箇所があるものの、おおむね本来の形を知ることができる。

関から茎に及ぶ範囲は、錆化による剥離・膨張が著しいが、現状では背側の厚さが0.75cm、刃側の厚さは0.6cmほどである。空間部分を差し引いて復元すると、茎の背厚は0.5cm、茎刃側の厚みは0.3cm前後とみられる。幅は1.3cm、茎尻は直線状に整えられている。関付近は若干欠損しているが、茎長は4.3cm前後で、ほぼ中心に目釘孔（径0.28cm）が穿たれている。目釘は遺存していない。錆による変形が影響しているのかもしれないが、一方の側の孔径は面の近くでやや広く（0.4cm）なっており、穿孔時、斜めに当たった鑿の痕跡という見方もできる。

この資料で最も特徴的なのは、刃部の形態である。端部を直線で断ち落として鋒部としたもので、直線状の刃部と鋒部は明瞭に画されている。背の長さが8.8cmであるのに対し、刃部の長さは7.3cmと短くなる。刃幅は、鋒部を除きほぼ均一で、2.1cmを測る。背幅は0.4cm前後で、最先端部のみわずかに減じ、0.29cm



第37図 第1主体部出土遺物(7)

となる。先端部の背幅が0.29cmあることからわかるように、錆による膨張を考慮したとしても、鋒部全体には刃がついていないことがわかる。したがって、この利器は、通常の刀子とは異なり、直線的な刃を押し付けるようにして用いられたものであったと考えられる。

刀子 2 (第37図266、図版21、29)

中間部を欠損するが、2点の出土位置を原位置とみて図上復元すると全長が20cmとなる。

切先の身幅1.1cm、関部付近の断面で最大幅0.68cm、関部身幅1.8cm、関部に近い茎幅1.1cm、厚さ0.6cm×0.4cmを測る。茎は急に薄くなり、茎尻付近では背幅0.2cmを測る。

鉄鋌1・2（第37図264、図版21、29） 9点の薄い鉄板を接合した結果、重ねられた状態の2枚の鉄鋌に復元された。

復元の過程については後述するが、2枚とも同じ形、すなわち短辺が直線状を呈し、長辺が弧状を呈するバチ形に復元された。鉄鋌1は全長12.54cm（復元推定）、上端の幅3.70cm（復元推定）、中央の幅2.27- α cm（現存値）、下端の幅3.10cm（復元推定）、鉄鋌2は全長12.54cm（復元推定）、10.84+ α cm（現存値）、上端の幅2.52+ α cm（現存値）、中央の幅1.85cm、下端の幅3.30cm（復元推定）、厚さはどちらもほぼ1mm前後を測る。残存率は約70%、現存重量は28.29gである。ただし、この重量には一緒に副葬された小形の剣(267)に錆着し未分離となっている小破片の重さは含まれていない。

錆のため、側方向から見ると波打ったように見える部分もあるが、全体としては平滑な鍛造の鉄板である。平面形をバチ形に整えていることもあわせて、丁寧な作りと言える。なお、鉄の部分はほとんど残っていない。

斧（第37図265、図版21、29） 全体に薄手で華奢な印象を受けるが、ほぼ完形である。全長10.9cm、刃幅3.6cm、本体中心部の厚み0.4cmを測る。折り返しは弱く完全な袋状とはならないが、袋部は全長3.9cm、外側の幅2.7cm、厚さは最大で1.8cm、厚みは基部で0.25cm、折り返し部分で0.15cmを測る。現存重量は53.1gである。

剣（第37図267、図版21、29） 全体に小ぶりの剣で出土したものの中では最も小さい。先端をほんの少し欠くが、全長24.0cm、刃部長19.0cm、茎長5.0cmを測る。

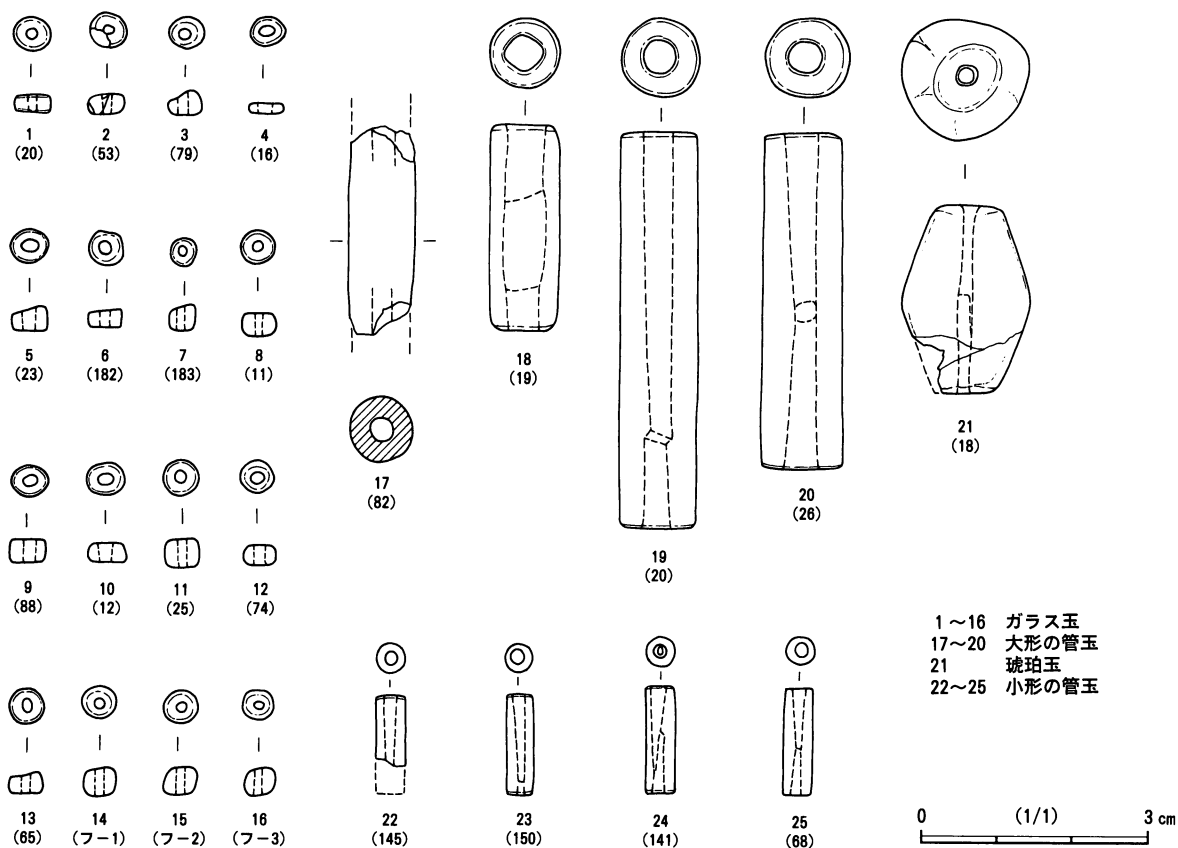
剣身の断面は身幅2.2cm、厚さ0.3cm、関付近の幅は2.0cm、茎の断面では幅1.3cm、厚さ0.15cmを測る。目釘孔は2か所ある。一つは関から4.3cmのところであり、孔の中心は茎の中軸から2mmほどずれる。二つ目は第1の目釘孔の中心から1cmの距離にあり、中軸から第1の孔とは反対側に1.5mmほどずれている。孔の径はともに2.5mmである。なお、茎尻が5mmほど折れ曲がっている。関に近い剣身には木質の一部が残っている。木目の方向からみて鞘木の一部と思われるが、裏面を含めてこのほかの部分には遺存しない。関付近の刃部には別の鉄片が溶着している。鉄片の厚みや状況からみて、鉄鋌の破片の可能性が強い。

2. 第2主体部の副葬品（巻頭図版2）

第2主体部から出土した遺物は全部で245点ある。内訳は玉類が217点（ガラス玉16点、管玉8点、琥珀玉1点、滑石製白玉192点）、武器（鉄鏃12本、鉄矛1本、鉄剣5本）が18点、農具などの鉄製品（鋸1点、鎌1点、刀子5本、鉄斧1点、鑿1点、きさげ状鉄器1点）が10点、中でも鋸は古墳時代のものとしては注目される。

(1) 玉類

ガラス玉（第38図1～16、巻頭図版3、図版28、第9表） 第1主体部の小玉に比べて小形のものが多。形状にも扁平なもの(4)から外径に近い高さをもつもの(11)までばらつきがある。外径は7.4mm～4.1mm、平均5.8mm、厚さは6.3mm～3.6mm、平均4.4mm、孔径は2.5mm～1.5mm、平均1.8mm、現存重量は0.32g～0.08g、平均0.18gを測る。



第38図 第2主体部出土遺物(1)

第9表 第2主体部出土ガラス玉計測値 (mm・g)

挿図No.	遺物No.	集中	色調	重量 (g)	直径	高さ	孔径	遺存度	備考
第38図-1	20	4	うすい紺	0.07	4.7-4.5	2.5-2.0	1.5	完形	
2	53	4	うすい紺	0.08	5.0-4.5	2.7	1.6-1.3	一部欠損	
5	79	6	紫	0.07	4.5-4.3	3.3-1.6	1.5	完形	
3	16	4	青緑	0.03	4.4-3.9	1.5-1.1	2.1-1.6	完形	
4	23	4	青緑	0.08	4.8-4.4	3.2-2.0	2.2-1.5	完形	
6	182	6	青緑	0.06	4.8-4.3	2.3-1.5	1.6	ごく一部欠損	
7	183	6	青緑	0.05	3.7-3.5	3.2-2.6	1.3	完形	
8	11	6	青緑	0.08	4.5	3.1	1.5	完形	
9	88	6	青緑	0.08	4.6-4.2	3.0	1.7-1.3	完形	
10	12	6	青緑	0.06	4.9-4.3	2.7-2.3	2.2-1.6	完形	
11	25	6	青緑	0.11	4.6-4.4	4.0	1.4	完形	
12	74	6	青緑	0.05	4.5-3.9	2.3	1.6	完形	
13	65	6	青緑	0.06	4.6	2.2-1.8	1.6-1.3	完形	
14	フ-1	一括	青緑	0.08	4.5-4.3	3.6-3.2	1.5	完形	
15	フ-2	一括	青緑	0.09	4.6-4.3	3.7	1.4	完形	
16	フ-3	一括	青緑	0.05	4.0-3.9	3.2-2.8	1.2	完形	

大形の管玉 (第38図17~20、巻頭図版3、図版28、第10表)

4点とも緑色凝灰岩製と考えられる。すべて風化しているが17は特に顕著であり、粉末状に剥離しており両端を欠いている。19と20にはベンガラと思われる赤色物質が付着している。今回の調査で赤色物質の存在が確認できたのはこの2例だけである。

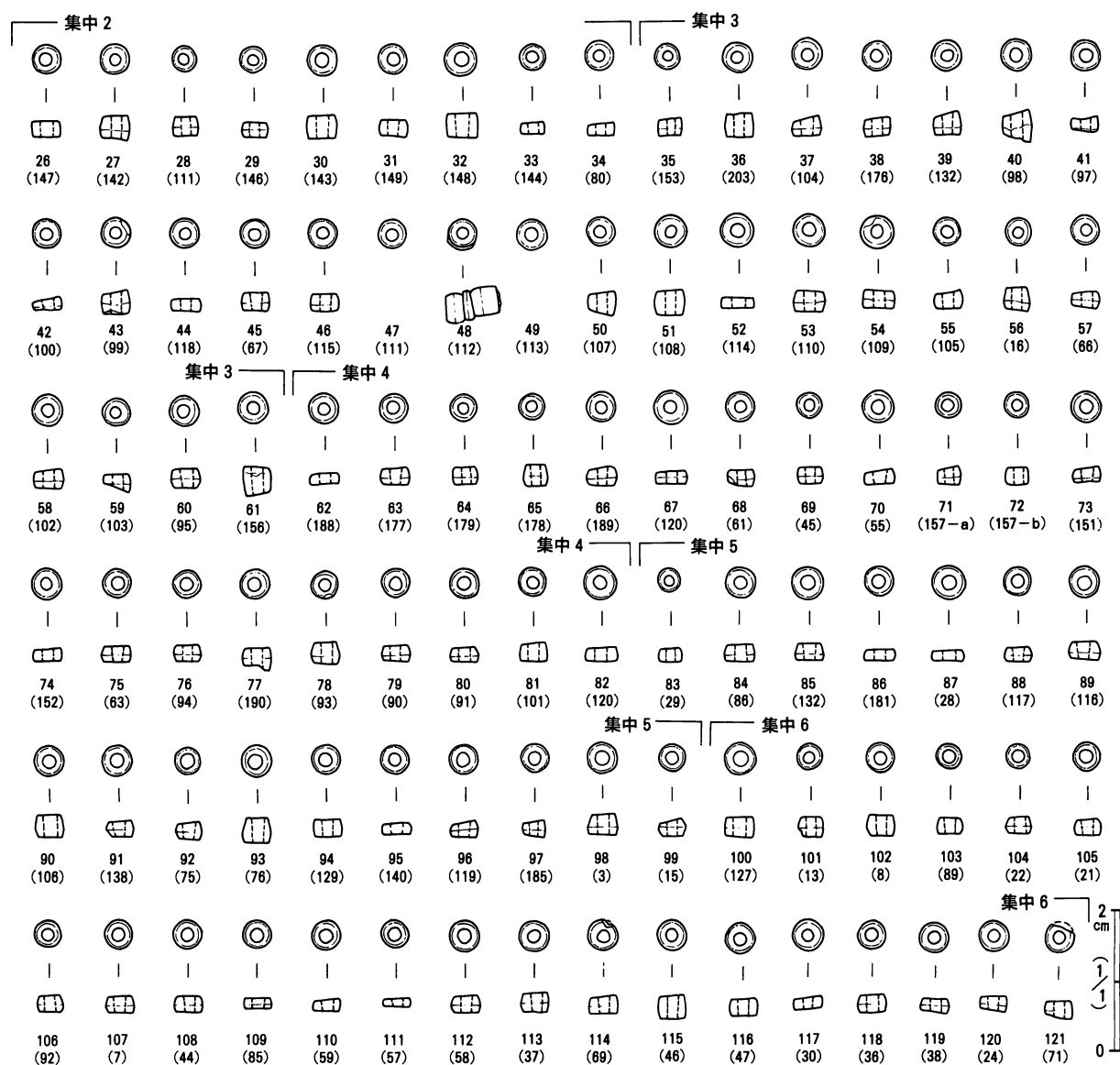
琥珀玉（第38図21、巻頭図版3、図版28、第10表） 形状は棗形を呈する。一部を折損、欠損するがほぼ完形に近い。表面は風化しているが、色調は赤褐色を呈する。最大径1.7cm、高さ2.5cm、現在重量3.58g、小口は上面で9.4mm×8.1mmを測る。両面穿孔である。

小形の管玉（第38図22～25、巻頭図版3、図版28、第10表）

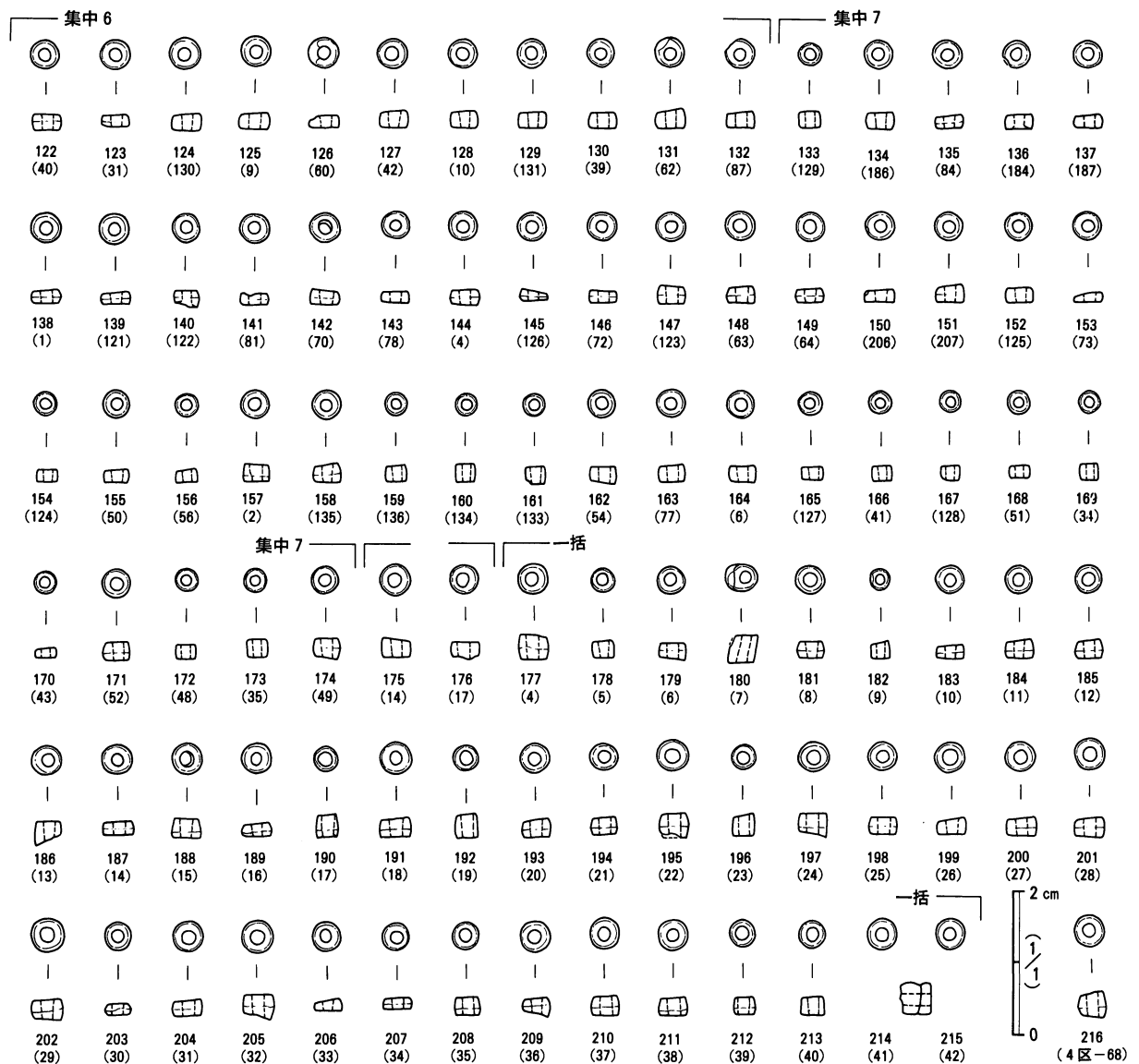
24は下半部を1/3ほど欠くが、ほかの3点は完形である。すべて凝灰岩製である。

滑石製白玉（第38、39図26～216、図版27、第11表） 出土状況の項で述べたように6か所の集中に分けられるが、第1主体部同様ほとんどが単独の状態を検出した。中にはいくつかが接着した状態で検出されたものもあり、刀子（240）に付着していた47～49、66、77はその例である。これらは糸を通した状態で埋納されたことが推定される。

形状は円筒形で、中位にふくらみをもち、算盤玉に近くなるものも見受けられる。また、端部は必ずしも平行にそろわないものが多い。外径は5.0mm～2.9mm、平均（最大値）4.09mm、厚みは4.5mm～0.5mm、平均（最大値）2.43mm、孔径は2.3mm～1.3mmで平均1.83mm、現存重量は0.23g～0.01g、平均0.054gを測る。



第39図 第2主体部出土遺物(2)



第40図 第2主体部出土遺物(3)

第10表 第2主体部出土琥珀玉・管玉計測値 (mm・g)

挿図No.	遺物No.	集中	玉の形状	外径		長さ	孔径		重量	穿孔方法	材質	色調	備考
				最大	最小		上面	下面					
第38図-17	82	6	管玉	8.10	7.80	27.10	2.80×2.75	2.80	2.22	不明	凝灰岩	極めてうすい緑を帯びた白色	欠損
	18	6	管玉	9.20	8.90	26.90	5.10×4.65	3.90	2.37	両面	凝灰岩	うすい緑を帯びた白色	
	19	6	管玉	10.45	10.30	51.70	4.25×4.25	3.75	9.39	両面	凝灰岩	うすい緑を帯びた白色	ベンガラ? 付着
	20	6	管玉	10.95	10.35	43.50	4.35×3.85	4.25	9.16	両面	凝灰岩	うすい緑を帯びた白色	ベンガラ? 付着
	21	6	棗玉	17.20	15.80	24.70	2.55×2.15	1.70	3.58	両面	琥珀	赤褐色	表面風化、一部欠損
	22	145	管玉	3.70	3.70	9.00	1.65×1.65	1.00	0.23	両面?	凝灰岩	暗灰緑色	欠損
	23	150	管玉	3.55	3.55	12.85	1.85×1.70	0.95	0.29	両面	凝灰岩	淡灰緑色	
	24	141	管玉	3.60	3.60	13.60	1.65×1.50	1.50	0.30	両面	凝灰岩	濃緑	
	25	68	管玉	3.57	3.45	13.55	1.56×1.56	1.30	0.40	両面	凝灰岩	灰緑	

第11表 第2主体部出土滑石製白玉計測値 (mm・g・m)

(その1)

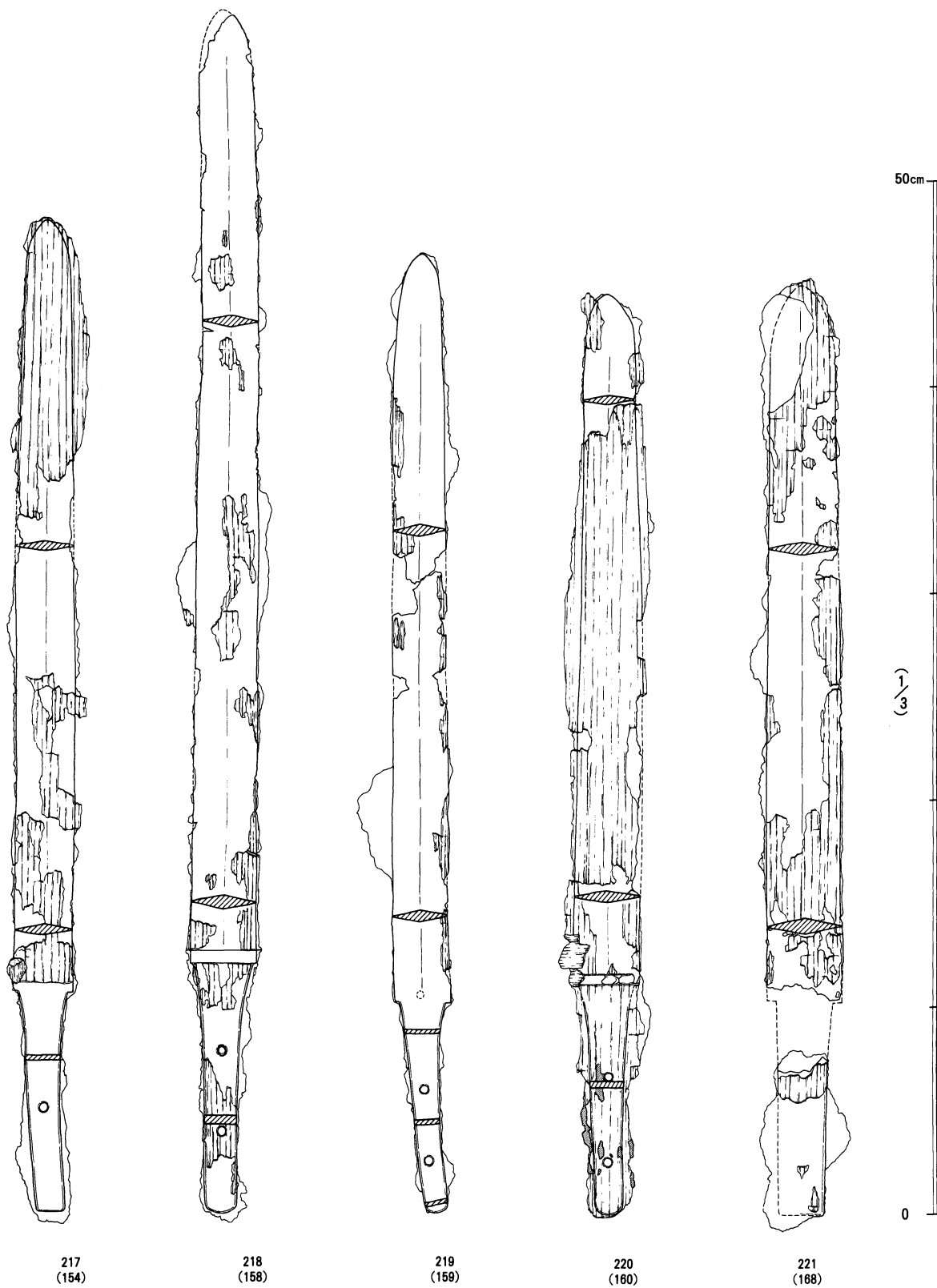
挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第39図-26	2	147	4.2		2.4	2.3	2.0		0.06	32.550	
27	2	142	4.4 × 4.2		3.6	3.0	1.8	1.7	0.09	32.640	
28	2	191	3.7		2.9	2.8	1.7	1.6 × 1.5	0.05	32.545	
29	2	146	3.7		1.9		1.8	1.6 × 1.4	0.04	32.540	
30	2	143	4.5		3.3		2.2 × 2.1	2.1 × 2.0	0.10	32.560	
31	2	149	4.1 × 4.0		2.2	2.0	1.9	1.6 × 1.4	0.05	32.560	
32	2	148	4.7 × 4.6		3.5	3.2	2.1	2.0 × 1.8	0.11	32.560	
33	2	144	3.7 × 3.6		1.9	1.6	1.7		0.03	32.560	
34	2	80	4.1 × 4.0		2.0	1.7	1.6		0.05	32.660	
35	3	153	3.7		2.6	2.5	1.5		0.05	32.550	
36	3	203	4.3 × 4.2		3.2		1.9		0.07	32.620	
37	3	104	4.4 × 4.3		2.6	1.8	1.7		0.06	32.590	
38	3	176	4.0		2.6	2.5	1.8		0.06	32.560	
39	3	32	4.2		3.5	2.4	1.8		0.08	32.640	
40	3	98	4.4 × 4.3		4.0	2.9	1.9		0.10	32.590	
41	3	97	4.4 × 4.3		1.9	1.3	1.7	1.6	0.05	32.580	
42	3	100	4.4 × 4.3		1.9	1.2	1.9	1.7	0.04	32.570	
43	3	99	4.3 × 4.1		3.3	2.7	1.8		0.08	32.575	
44	3	118	4.6 × 4.4		1.7	1.6	1.8		0.04	32.590	
45	3	67	4.1 × 4.0		2.7	2.5	1.8	1.7	0.06	32.610	
46	3	115	4.3 × 4.2		2.3		1.7		0.06	32.560	
47	3	111	4.4 × 4.2		2.6	2.2	1.7±			32.570	
48	3	112	4.3 × 4.2		1.6	1.3	1.7±		0.23	32.570	3点付着
49	3	113	4.4 × 4.3		3.7	3.6	1.6±			32.570	
50	3	107	4.0 × 3.9		3.1	2.1	1.9		0.06	32.570	
51	3	108	4.9 × 4.8		3.5	3.4	1.8	1.7	0.14	32.570	
52	3	114	5.0 × 4.9		1.4	1.3	1.7		0.05	32.600	
53	3	110	4.8 × 4.7		3.0	2.8	1.7		0.10	32.570	
54	3	109	4.8 × 4.6		2.7	2.4	1.7	1.6	0.08	32.570	
55	3	105	4.1 × 4.0		2.7	2.0	1.8	1.7	0.05	32.580	
56	3	96	4.1 × 3.9		3.5	3.0	1.8		0.07	32.560	
57	3	66	4.4 × 4.2		2.2	1.8	1.8	1.7	0.06	32.570	
58	3	102	4.4		2.9	2.6	1.9		0.07	32.550	
59	3	103	4.0 × 3.7		2.8	1.2	1.8		0.06	32.550	
60	3	95	4.4 × 4.3		3.0	2.7	2.0	1.9	0.07	32.570	
61	3	156	4.3		4.5	3.6	1.7			32.570	刀子と錆着
62	4	188	4.3 × 4.2		1.7	1.5	1.7		0.05	32.530	
63	4	177	4.1 × 4.0		2.4	2.2	2.0	1.6	0.05	32.550	
64	4	179	3.9 × 3.8		2.8	2.6	1.6		0.06	32.545	
65	4	178	3.8 × 3.7		3.2		1.8	1.7	0.06	32.550	
66	4	189	4.4 × 4.3		2.7	2.3	1.9	1.8	0.07	32.540	
67	4	120	4.9 × 4.8		1.8	1.6	1.8		0.06	32.550	
68	4	61	4.1 × 4.0		2.4	2.3	1.8	1.7 × 1.5	0.06	32.560	
69	4	45	3.8 × 3.7		2.3	2.2	1.8	1.7	0.04	32.580	
70	4	55	4.6 × 4.5		2.1	1.8	2.0	1.8	0.05	32.565	
71	4	157a	3.5 × 3.4		2.4	2.1	1.7	1.5	0.04		出土状況図に 点落とせず
72	4	157b	3.4		2.2		1.6		0.04		
73	4	151	4.1		2.3	1.8	1.8	1.6 × 1.4	0.05	32.580	
74	4	152	4.3 × 4.2		1.8	1.5	1.7		0.04	32.560	
75	4	83	4.1		2.3	2.2	1.9	1.8 × 1.5	0.05	32.580	
76	4	94	3.8		2.5	2.4	1.8	1.7	0.04	32.570	
77	4	190	4.3 × 4.2		3.2	2.5	1.8	1.7	0.07	32.550	
78	4	93	4.1 × 3.9		3.1	2.9	1.9	1.8	0.07	32.570	
79	4	90	4.1 × 3.9		2.1	2.0	1.8	1.8 × 1.4	0.05	32.560	
80	4	91	4.1 × 3.9		2.1	1.9	1.9	1.7 × 1.5	0.04	32.570	
81	4	101	4.0 × 3.9		2.7	2.4	1.7	1.5	0.06	32.540	
82	5	180	4.8		2.0	1.8	1.9	1.8	0.07	32.540	
83	5	29	3.3		1.9	1.8	1.6	1.5	0.02	32.625	
84	5	86	4.2		2.5		1.8	1.6	0.06	32.580	
85	5	132	4.4		2.6	2.5	1.9	1.7 × 1.6	0.06	32.570	
86	5	181	4.2 × 4.1		1.4		2.0		0.03	32.560	
87	5	28	5.0 × 4.8		1.5	1.3	2.0		0.04	32.660	
88	5	117	3.9 × 3.8		2.0	1.9	1.9	1.7	0.04	32.640	
89	5	116	4.5 × 4.4		2.3	2.2	2.2	2.2 × 1.5	0.06	32.635	

第11表 (その2)

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第39図-90	5	106	4.3 × 4.2	3.2			2.1	2.1 × 1.9	0.08	32.650	
91	5	138	4.2 × 4.1	2.4	1.4		1.9	1.6 × 1.5	0.04	32.600	
92	5	75	3.7 × 3.6	2.5			2.2	1.9 × 1.5	0.02	32.630	
93	5	76	4.4 × 4.2	3.6	3.5		2.1	2.0 × 1.6	0.09	32.650	
94	5	139	4.2 × 4.1	2.6	2.5		1.8		0.06	32.620	
95	5	140	4.1	1.8	1.7		1.9	1.6	0.04	32.620	
96	5	119	4.1 × 4.0	2.5	1.4		1.9	1.7	0.04	32.600	
97	5	185	3.8 × 3.7	2.4	1.4		1.8		0.03	32.530	
98	5	3	4.5 × 4.4	2.9	2.8		2.1	1.9	0.07	32.660	
99	5	15	3.9 × 3.7	1.9	1.8		1.9	1.8	0.04	32.640	
100	6	137	4.5 × 4.4	2.9	2.5		2.2	2.1 × 1.8	0.08	32.580	
101	6	13	3.8	2.8	2.0+		1.6		0.05	32.625	
102	6	8	4.2 × 4.1	3.1	3.0		1.9	1.7	0.08	32.645	
103	6	89	3.8	2.3	2.2		2.0	1.6	0.04	32.590	
104	6	22	3.6	2.2	2.1		1.8		0.04	32.600	
105	6	21	3.8	2.3	2.2		1.9		0.03	32.600	
106	6	92	3.8	2.3	2.2		1.7		0.04	32.580	
107	6	7	4.1 × 4.0	2.3	2.2		1.8	1.8 × 1.6	0.05	32.635	
108	6	44	4.1 × 4.0	2.2	2.0		1.8	1.8 × 1.6	0.05	32.645	
109	6	85	4.0	1.4	1.2		1.8	1.8 × 1.5	0.03	32.620	
110	6	59	4.2 × 4.1	1.8	1.5		1.9	1.7 × 1.6	0.04	32.630	
111	6	57	4.1	1.3	1.0		1.8	1.8 × 1.6	0.03	32.625	
112	6	58	4.5 × 4.4	2.3	2.2		1.8	1.8 × 1.6	0.07	32.615	
113	6	37	4.2 × 4.1	2.9	2.7		2.0 × 1.8	1.7 × 1.6	0.08	32.630	
114	6	69	4.3 × 4.1	2.2	2.1		1.8	1.8 × 1.5	0.06	32.620	
115	6	46	4.2	3.5	3.3		1.8		0.09	32.610	
116	6	47	4.2 × 4.1	2.4	2.3		1.9	1.7 × 1.5	0.06	32.630	
117	6	30	4.4	1.6	1.5		1.8 × 1.7	1.7 × 1.5	0.05	32.635	
118	6	36	4.1 × 4.0	2.5	2.3		1.9	1.9 × 1.8	0.06	32.630	
119	6	38	4.1 × 4.0	1.9	1.8		1.8		0.05	32.640	
120	6	24	4.1	2.0	1.5		1.8	1.6 × 1.5	0.04	32.625	
121	6	71	(3.5+) × 4.1	2.5	1.6		1.9	1.8	0.04	32.590	
第40図-122	6	40	4.2 × 4.1	2.0			1.8	1.7 × 1.6	0.05	32.615	
123	6	31	4.2 × 4.1	1.5	1.2		1.8	1.8 × 1.6	0.04	32.620	
124	6	130	4.5 × 4.4	2.2	1.8		1.9	1.9 × 1.7	0.06	32.580	
125	6	9	4.4 × 4.3	2.1	1.8		1.9 × 1.8	1.6 × 1.5	0.06	32.645	
126	6	60	4.4 × 4.2	1.8	1.1		1.7		0.04	32.615	
127	6	42	4.4 × 4.3	2.4	2.2		1.8 × 1.7	1.7 × 1.6	0.07	32.615	
128	6	10	4.2 × 4.1	2.5	2.0		1.9	1.7	0.06	32.645	
129	6	131	4.3	2.3	2.2		1.9	1.9 × 1.7	0.07	32.605	
130	6	39	4.1 × 4.0	2.1			1.8	1.8 × 1.5	0.06	32.630	
131	6	62	4.4 × 4.2	2.8	2.5		1.8	1.7 × 1.6	0.07	32.600	
132	6	87	4.3 × 4.1	2.1	2.0		1.8	1.8 × 1.5	0.05	32.600	
133	7	129	3.2	2.5	2.4		1.6		0.03	32.590	
134	7	186	4.3 × 4.2	2.5	2.3		1.8	1.8 × 1.6	0.07	32.510	
135	7	84	4.3 × 4.2	1.9	1.5		1.8		0.05	32.610	
136	7	184	3.9	2.2	1.7		1.9	1.8 × 1.6	0.04	32.540	
137	7	187	4.2 × 4.1	1.8	1.7		1.8	1.7 × 1.6	0.04	32.530	
138	7	1	4.3 × 4.2	2.2	1.8		2.0	1.8	0.05	32.695	
139	7	121	4.2 × 4.1	1.7	1.5		1.7	1.7 × 1.6	0.04	32.590	
140	7	122	4.0 × 3.7	2.5	1.4		1.7		0.04	32.570	
141	7	81	4.3 × 4.2	1.9	1.4		1.8	1.7 × 1.6	0.04	32.605	
142	7	70	4.3 × 4.1	2.2	1.9		2.3 × 1.8	1.9	0.05	32.610	
143	7	78	4.1 × 4.0	1.4	1.2		1.8	1.7 × 1.6	0.03	32.590	
144	7	4	4.2	2.1	1.9		1.8	1.8 × 1.7	0.05	32.660	
145	7	126	4.1 × 4.0	1.6	0.5		1.8	1.7 × 1.6	0.03	32.580	
146	7	72	4.1 × 4.0	1.7	1.5		1.9	1.8 × 1.6	0.04	32.615	
147	7	123	4.1 × 4.0	2.8	2.6		1.9	1.9 × 1.7	0.06	32.565	
148	7	63	4.2 × 4.1	2.1	2.0		2.0 × 1.8	1.9 × 1.6	0.05	32.610	
149	7	64	4.2 × 4.1	2.0	1.9		1.8	1.8 × 1.6	0.05	32.615	
150	7	206	4.3 × 4.2	1.9	1.4		1.9	1.7 × 1.6	0.05	32.590	
151	7	207	4.1 × 4.0	2.6	2.1		1.9	1.8 × 1.6	0.07	32.590	
152	7	125	4.0 × 3.9	2.0			1.9	1.7	0.05	32.595	
153	7	73	4.0 × 3.9	1.3	0.9		2.0 × 1.8	1.9 × 1.7	0.03	32.605	
154	7	124	3.1	1.9	1.8		1.7 × 1.5	1.6 × 1.4	0.02	32.600	
155	7	50	3.9 × 3.7	1.7	1.5		1.9	1.9 × 1.7	0.03	32.610	

第11表 (その3)

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第40図-156	7	56	3.2		1.8	1.6	1.6	1.5 × 1.4	0.02	32.605	
157	7	2	4.0		2.8	2.6	1.9	1.7	0.06	32.705	
158	7	135	4.0		2.6	2.2	1.8	1.8 × 1.5	0.06	32.580	
159	7	136	3.2		2.3	2.0	1.5	1.5 × 1.3	0.03	32.580	
160	7	134	3.1		2.5		1.5	1.4	0.03	32.580	
161	7	133	3.2 × 3.1		2.7	2.0	1.8	1.5	0.03	32.580	
162	7	54	4.0 × 3.9		2.4	2.1	1.8	1.7	0.05	32.600	
163	7	77	4.1 × 3.9		2.5	2.4	1.9	1.7 × 1.6	0.06	32.595	
164	7	6	4.1 × 4.0		2.4	2.1	1.8	1.6	0.06	32.620	
165	7	127	3.1		1.9		1.7 × 1.5	1.5	0.03	32.600	
166	7	41	3.1 × 3.0		2.4	2.3	1.6	1.6 × 1.5	0.03	32.610	
167	7	128	3.0		2.1	1.8	1.4	1.4 × 1.3	0.02	32.580	
168	7	51	3.2		1.8		1.5	1.4	0.03	32.610	
169	7	34	3.0 × 2.9		2.3		1.6	1.6 × 1.5	0.02	32.620	
170	7	43	3.2		1.3	1.0	1.5	1.5 × 1.3	0.01	32.610	
171	7	52	4.1 × 4.0		2.5		1.8	1.8 × 1.6	0.07	32.610	
172	7	48	3.2 × 3.1		2.0		1.5	1.4	0.03	32.605	
173	7	35	3.1		2.6		1.5	1.4	0.04	32.600	
174	7	49	4.0		2.9	2.6	1.8	1.8 × 1.6	0.06	32.590	
175	7	14	4.4 × 4.3		2.5	2.3	1.8	1.8 × 1.7	0.06	32.680	
176	—	17	4.1 × 4.0		2.4	2.0	1.9	1.8 × 1.7	0.05	32.650	以下、(遺物番号) は、ふるい一括 出土品。
177	—	(4)	4.4 × 4.2		3.5	3.0	1.8	1.7	0.09		
178	—	(5)	3.5		2.2	2.1	1.8	1.6	0.04		
179	—	(6)	4.1		2.2	2.0	1.8	1.7 × 1.5	0.05		
180	—	(7)	4.1 × 3.9		3.9		1.9	1.7	0.09		
181	—	(8)	4.1		2.4	2.3	1.9	1.7 × 1.6	0.06		
182	—	(9)	3.0 × 2.9		2.4	1.9	1.5	1.4	0.03		
183	—	(10)	4.1 × 4.0		2.0	1.6	1.8	1.6	0.04		
184	—	(11)	3.9		2.4	2.1	1.7	1.5	0.05		
185	—	(12)	4.0		2.7	2.5	1.8		0.06		
186	—	(13)	4.2 × 3.9		3.3	1.9	1.8 × 1.7	1.8 × 1.6	0.06		
187	—	(14)	4.6 × 4.5		2.0	1.9	1.8	1.7	0.07		
188	—	(15)	4.2 × 4.1		2.6	2.5	2.0	1.7 × 1.6	0.07		
189	—	(16)	4.3		1.8	1.3	1.6	1.6 × 1.4	0.04		
190	—	(17)	3.5		3.2	3.1	2.1	1.9 × 1.7	0.04		
191	—	(18)	4.7 × 4.6		2.8	2.4	2.0	1.8	0.08		
192	—	(19)	3.5		3.5	3.2	2.1	1.9 × 1.6	0.05		
193	—	(20)	4.1		2.5	2.3	1.9 × 1.7	1.7	0.06		
194	—	(21)	3.9 × 3.8		2.5	2.4	1.9	1.8 × 1.7	0.04		
195	—	(22)	4.5 × 4.2		3.5	2.6+	2.0	1.8	0.09		
196	—	(23)	3.3 × 3.2		2.9	2.7	1.7	1.6	0.04		
197	—	(24)	4.3 × 4.1		3.4	2.5	1.9 × 1.8	1.6	0.08		
198	—	(25)	4.0		2.5	2.4	1.9	1.8	0.05		
199	—	(26)	4.2		2.3	1.9	2.1	1.9	0.05		
200	—	(27)	4.3 × 4.2		2.3	2.0	1.8 × 1.7	1.8 × 1.6	0.06		
201	—	(28)	4.4 × 4.3		2.7	2.0	1.8	1.7 × 1.6	0.07		
202	—	(29)	4.9		2.6	2.2	1.9	1.8	0.09		
203	—	(30)	3.9 × 3.8		1.4	1.3	2.0 × 1.8	2.0 × 1.6	0.02		
204	—	(31)	4.2		2.1	2.0	2.1	1.8	0.05		
205	—	(32)	4.4		3.7	2.7	1.9 × 1.8	1.8 × 1.7	0.08		
206	—	(33)	4.1 × 3.9		1.6	0.9	1.7	1.5	0.03		
207	—	(34)	3.9 × 3.7		1.4		1.8	1.8 × 1.7	0.03		
208	—	(35)	3.8		2.8	2.7	1.7	1.6	0.06		
209	—	(36)	4.4 × 4.3		2.7	1.0	1.9	1.8	0.04		
210	—	(37)	4.2 × 4.1		2.7	2.5	1.8		0.06		
211	—	(38)	4.3 × 4.2		2.5	2.3	1.8	1.7	0.06		
212	—	(39)	3.6 × 3.5		2.4	2.3	2.1	1.9 × 1.8	0.02		
213	—	(40)	3.9 × 3.8		2.7	2.6	2.1	1.9 × 1.7	0.05		
214	—	(41)	4.6		2.9	2.0	1.8		0.08		
215	—	(42)	4.6		2.1	1.5	1.8		0.05		
216	—	4区-68	4.3 × 4.2		3.8	2.6	1.7		0.09	32.615	第2主体外



第41図 第2主体部出土遺物(4)

(2) 鉄製品

剣 1 (第41図217、図版24、32、第12表) 銹と鞘木を含めた全長は48.7cm、鉄剣本体の全長は48.1cmを測る。剣身長37.3cm、茎長は10.8cmである。

剣身には鞘木と思われる木質が比較的良く残っている。関から0.5cm弱の箇所では木質痕が認められなくなるので、この部分が鞘の端部だった可能性が高い。また、関部には別の木かと思われる木質も残っている。先端に近い断面では厚さ0.45cm、この部分は銹で厚さ方向に膨張している。剣身中央付近の身幅は2.9cm、関に近い断面では身幅2.8cm、厚さ0.5cm、関付近の幅は3.0cmを測る。

柄部は剣身に対して少し曲がっている。現状では柄木の痕跡は確認できない。寸法は断面で幅が1.7cm、厚みは0.25cm、茎尻付近で幅1.4cmとなる。目釘孔は関から5.7cmの位置に1か所確認できる。孔径はX線写真から約0.4cmと推定した。

剣 2 (第41図218、図版24、32、第12表) 切先の先端部を欠損している。現存全長は58.1cm、欠けた部分を推定するとさらに0.3cmほど長くなろう。現存剣身長45.9cm、茎長は12.2cmを測る。

剣身には鞘木と思われる木質が一部に残っている。関から0.6cmほどの箇所では木質痕が認められなくなる。先端に近い断面では身幅2.7cm、厚さ0.6cm、関付近の身幅は3.2cm、厚さ0.7cmを測る。切先部分は銹による剥離が著しい。

柄部には柄木の一部とみられる木質が残っている。寸法は断面で幅が1.6cm、厚みは0.4cmを測る。目釘孔は関から4.3cmの箇所に1か所、3.9cmの間隔を置いてもう1か所確認できる。孔径はともに、0.45cmである。

剣 3 (第41図219、図版24、32、第12表) 全長46.3cm、刃部長36.1cm、茎長は軸がやや曲がっているのので茎の軸に平行にすると10.1cm、剣身の軸に平行とすると10.2cmとなる。

剣身には鞘木と思われる木質の一部が残っている。先端に近い断面では身幅2.6cm、厚さ0.5cm、関に近い断面では身幅2.7cm、厚さ0.5cm、関付近の幅は2.8cmを測る。柄部は剣身に対して約5°曲がっている。寸法は関に近い方で幅2.8cm、厚み0.3cm、中央で幅1.2cm、厚さ0.28cm、柄尻で幅1.1cm、厚さ0.2cmを測る。目釘孔は関から4.2cmの箇所に1か所、3.4cmの間隔を置いてもう1か所確認できる。孔径はともに0.4cmである。X線写真からみて目釘は鉄より透過率の良いものだったことがわかる。

剣 4 (第41図220、図版24、26、32、第12表) 全長34.3cm、関の部分が不明瞭なため若干の疑問も残るが、刃部長を23.2cm、茎長を11.1cmを測る。

剣身全体にわたって鞘木が残っている。先端から10cm弱の部分は銹による膨張(特に厚み)が著しい。関付近の身幅は2.5cm、厚さ0.6cmを測る。関付近に残る木質は木目の方向が異なる。柄部は幅1.3cm、厚み0.3cmを測る。柄部には柄木が一部残存している。また、柄部には白い物質が付着しており、鹿角かと思われる。図示した柄部の中央左側には漆膜と見られるものがあり、この部分では外側に向かって鉄芯、漆膜、鹿角の構造が確認できる。ほかの箇所では漆膜が薄く、鹿角はより鉄面近くに遺存している。

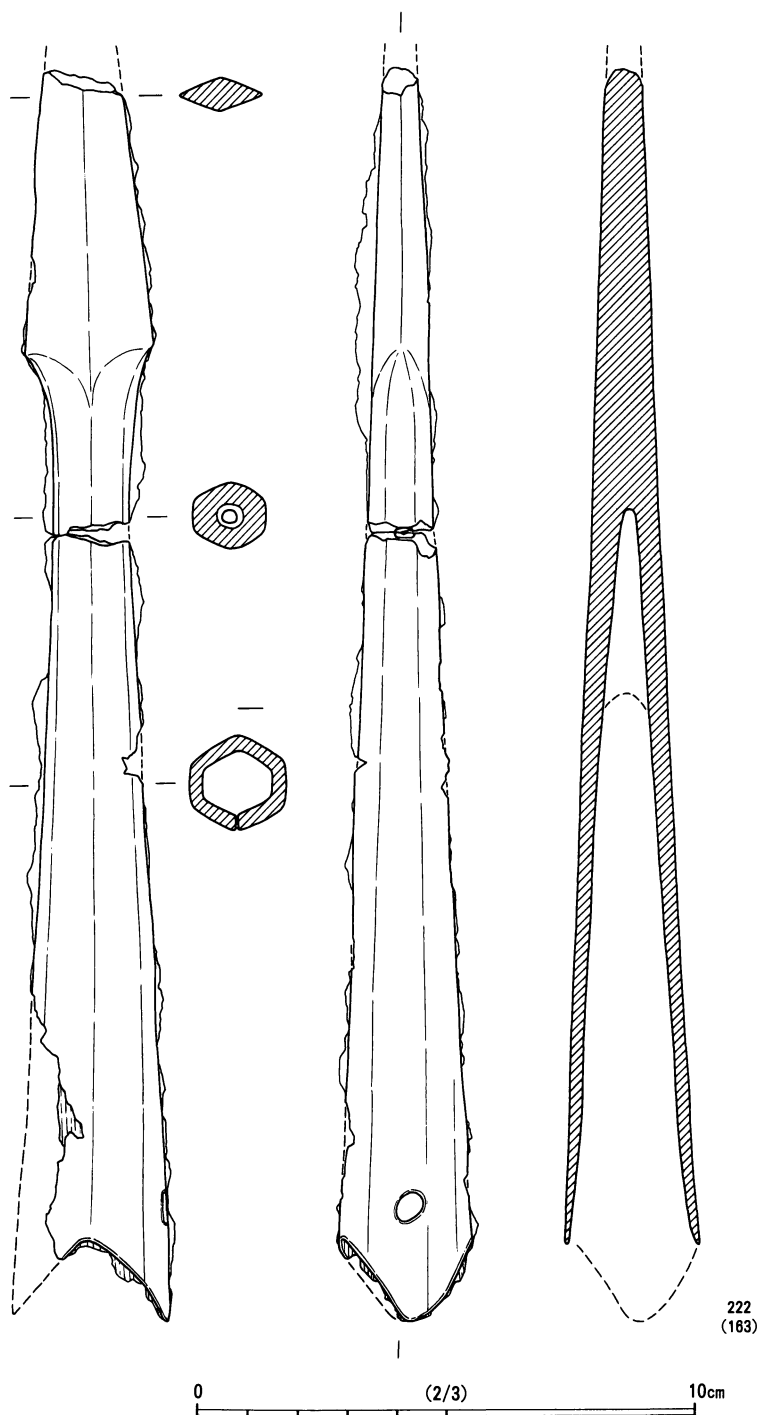
剣 5 (第41図221、図版24、32、第12表) 関から茎の一部を欠いている。現存する剣身の長さは34.4cm、茎長は7.8cmであるが、出土状況図から復元すると全長は46cm前後になる。

剣身には全体に鞘木と思われる木質が残っている。先端に近い断面では身幅3.4cm、厚さ0.55cm、関に近い断面では身幅3.6cm、厚さ0.6cmを測る。柄部にも木質の一部が残っている。寸法は関に近い方で幅が2.4cm、厚みは0.4cm、茎尻では厚さ0.35cmを測る。

第12表 第2主体部出土鉄剣計測値 (cm)

挿図No.	遺物No.	全長	刃部長	茎長	関付近身幅/厚	茎中央部幅/厚
第41図-217	154	48.1	37.3	10.8	2.8 / 0.5	1.7 / 0.3
-218	158	58.1+ (復元58.4)	45.9+ (復元46.2)	12.2	3.2 / 0.7	1.6 / 0.4
-219	159	46.3	36.1	10.2	2.7 / 0.5	1.2 / 0.3
-220	160	44.3	33.2	11.1	3.1 / 0.5	1.5 / 0.4
-221	168	42.2+	34.3+	7.8+	3.6 / 0.6	2.4 / 0.4

注 身・茎とも厚さについては、錆ぶくれによる変形の影響が大きいため、計測位置に若干のばらつきがある。また他の部位に比して、錆化前との誤差も大きい。

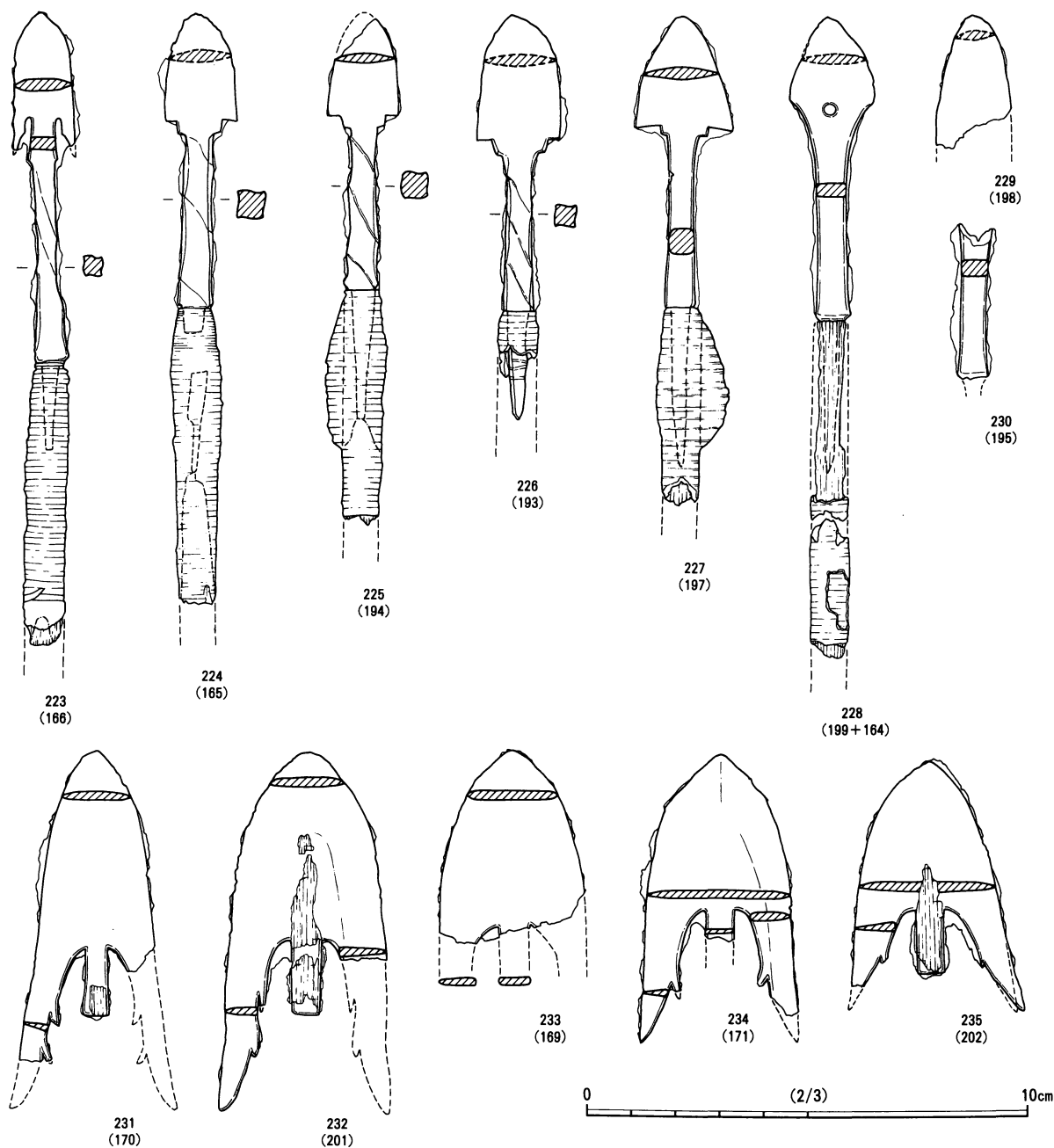


矛 (第42図222、図版21、30)

切先を欠いているので全長は不明であるが、平面的な刃部の角度からみて現存する刃部の2倍以上の長さに復元するのは不自然かと思われる。現存全長24.5cm、現存重量129.3gを測る。刃部は現存長5.5cmである。

関部幅2.5cmを測る。関から袋部にかけて断面は整った六角形となるが、下端から5cm弱はややゆがんだ七角形に復元される。欠損部にも稜があれば八角形の可能性もある。袋部の各寸法は、袋部の深さ15.9cm、最下端部の復元径3.1cm、袋端部の切込みの深さ1.6cmを測る。袋部近くにある目釘孔は0.5cm×0.6cmの楕円形である。なお、袋内部には木質が棒状に遺存する。

第42図 第2主体部出土遺物(5)



第43図 第2主体部出土遺物(6)

鏃 (第43図223~235、図版22、26、31、第13表)

平根式と短頸式に大別され、平根式が5点、短頸式が7点である。錆化の進んでいるものが多く、重抉り部分の欠損、ゆがみが目立つ。234は図示しなかった裏面の身の広い範囲に木質が付着している。228では身幅が最大となる部分の中央に径2.5mmほどの孔がある。また、矢柄が残っている部分の下端近くに別個体の口巻の表皮の裏側が付着している。

223~226の4本にはねじりが認められる。方向は時計回りで4本とも共通している。篋被の断面には方形、角の丸い方形、扁平な方形のバラエティーがある。

第13表 第2主体部出土鉄鏃計測値 (cm・g)

挿図No.	遺物No.	現 存 長	刃 部 長	逆 刺 深	身 幅	筥 被 長	筥 被 幅	茎 長	現存重量
第43図-223	166	14.1	3.1	0.7	1.4	4.3	0.4-0.6	2.0	9.64
-224	165	13.2	2.5	0.1	1.5	3.8	0.6-0.7	<2.7>	15.69
-225	194	11.2	(2.5)	0.1	1.6	3.5	0.6-0.7	<2.8>	14.00
-226	193	9.0	2.8	0.1	1.9	3.9	0.6-0.7	2.5	12.20
-227	197	10.9	2.6	ナシ	2.2	3.9	0.6-0.7	<3.5>	16.24
-228	199 + 164	14.3	1.8	ナシ	1.8	3.7	0.7-0.8	<3.4>	11.70
-229	198	3.0	2.9+	-	1.7+	-	-	-	2.81
-230	195	3.4	-	-	-	3.4+	0.6-0.8	-	3.48
-231	170	6.9	6.9	2.6+	2.6	ナシ	ナシ	1.5	8.35
-232	201	8.0	8.0	3.9	3.5	ナシ	ナシ	1.7	19.60
-233	169	4.3	4.1+	0.4+	(3.3)	ナシ	ナシ	0.2+	10.88
-234	171	6.4	6.4	3.0	3.3	ナシ	ナシ	0.7+	11.16
-235	202	5.6	5.6	2.3	3.2	ナシ	ナシ	1.4	12.33

- 注 1. 現存長は、矢柄など鉄以外の部分も含めた数値。
 2. +は一部欠損があり、計測値が全長を示さないもの。
 3. -は計測部位が欠損して計測が不可能なことを示す。
 4. ナシは該当部位が作り出されていないことを示す。
 5. () は復元値。
 6. < > はX線写真などを参考にした推定値。

鎌 (第44図236、図版22)

刃部だけの破片である。現存長7.1cm、現存最大刃幅2.7cm、断面図での背幅0.3cm、現存重量21.2gを測る。

蕨手刀子 (第44図237、図版23、26、30)

いわゆる蕨手刀子と呼ばれるもので、現存長は9.6cmで刃部先端を欠いているが、復元全長は約10cmとした。刃部の現存長は1.9cmを測る。錆による剥離や膨張が著しく、中央部断面の楕円に近い形状は妥当としても本来は一回り小さかったと考えられる。なお、背側の中央近くに見られるゆるやかな段も錆によるものである。

蕨手の把手先端には鹿角が残っている (スクリーントーンの部分)。さらに獣毛を写し取ったような固いカビ状を呈する付着物が認められる。

刀子1 (第44図238、図版23、30)

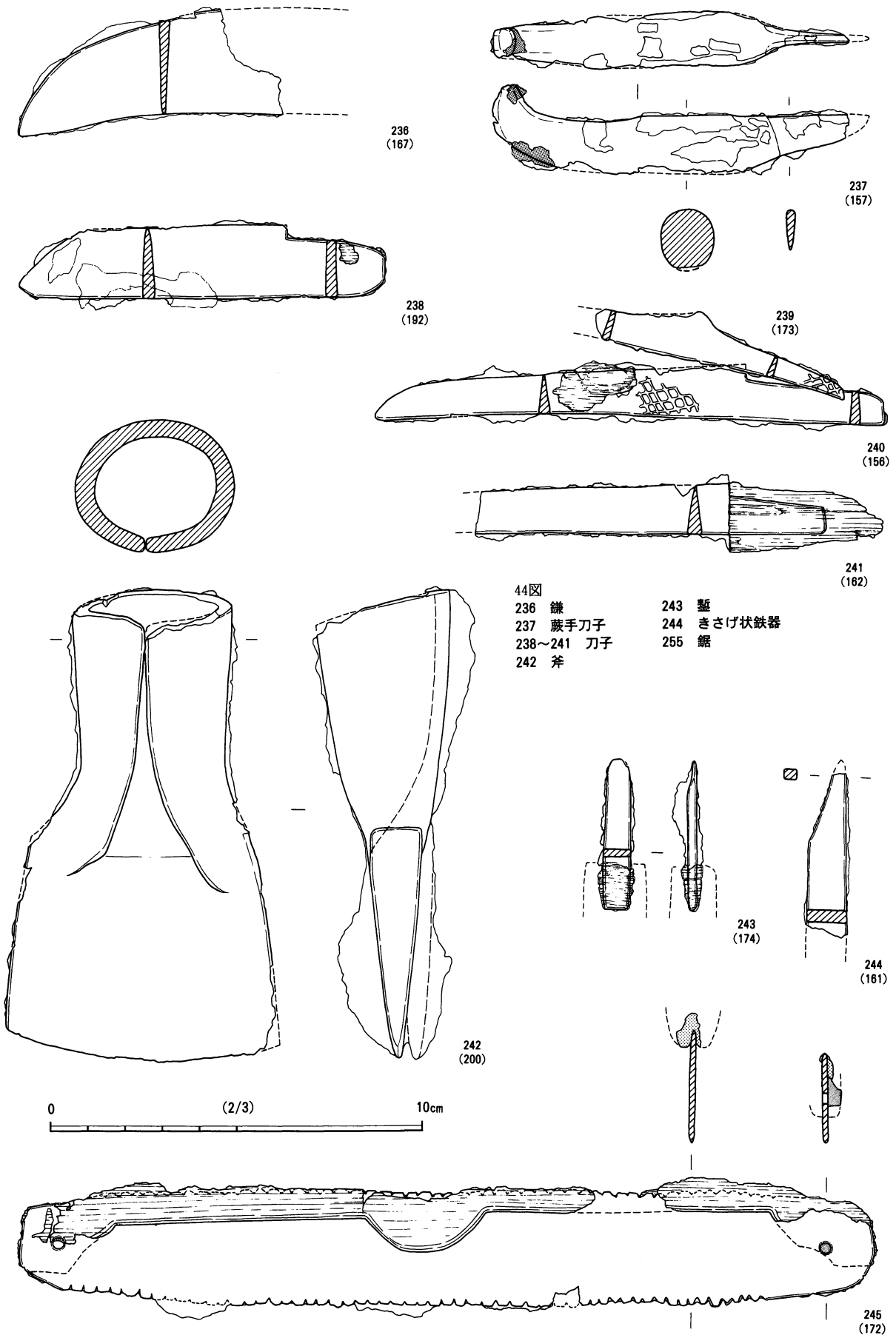
全長9.9cm、刃部長7.2cm、茎長2.7cm、現存重量は23.5gを測る。断面は刃部で刃幅1.9cm、背幅0.3cm、柄部で刃幅1.4cm、背厚0.3cm、腹厚0.2cmを測る。刃部には本体から2mm前後浮いた位置になめらかな面をもつ錆が出ている。

刀子2・3 (第44図239、240、図版23)

ほぼ完形の240と刃部を欠いた230が溶着している。240は全長13.7cm、刃部長9.9cm、茎長3.8を測る。刃部には木質が残っているが、錆のため身から3mm～6mm浮いた状態になっている。239は現存長6.9cmを測る。中央近くに関とみられる部分が残っているが錆が激しく、どちらが刃部だったのかははっきりしない。240と同じ向きだったとすると刃部現存長2.8cm、茎長4.1cmとなる。2本を合わせた現存重量は24.9gである。また、両方の刀子の一部には一目が2.5mmほどの目の粗い布が付着している。

刀子4 (第44図241、図版23、30)

刃部の先端を欠いているが、現存長10.97cm、刃部長6.8cm、現存重量は16.5gを測る。柄部は木質が良好に残っている。X線写真も確認したが目釘孔は認められない。



- 44図
 236 鎌
 237 蕨手刀子
 238~241 刀子
 242 斧
 243 鋳
 244 きさげ状鉄器
 255 鋸

第44図 第2主体部出土遺物(7)

斧（第44図242、図版22、33）

若干欠ける部分はあるが、ほぼ完形である。刃部にはゆがみがある。

全長は12.35cm、刃部は現存値で7.22cm、復元値は7.3cm、肩部の幅は5.6cm（現存値）、刃部は最も厚い部分で1.3cmほどである。袋部上端付近の外径は4.1cm×3.5cmほどである。袋部の平均的な厚さは0.5cm～0.6cm、現存重量は385gを測る。

鑿（第44図243、図版23、26、30）

長さ4.0cm、幅0.7cm、厚み0.2cm、現存重量258gを測る。刃部は半円形で一般的な鑿とは形状が異なる。基部には木質部が残っており、柄の付き方などを推定すると彫刻刀のような形が想定される。

きさげ状鉄器（第43図244、図版23、30）

先端と基部を欠損する。現存長4.34cm、断面は四角形で先端部で0.32cm×0.37cm、基部で0.35cm×1.12cmを測る。現存重量は4.94gである。

鋸（第44図245、図版23、30） 錆ぶくれや欠損箇所があるものの、ほぼ完形をとどめる鉄製の鋸である。柄あるいは鞘と考えられる木質が遺存する。全長23.0cm、最大幅3.0cm、現存重量59.9gを測る。

以下の記述では、この図化した面を便宜的に表とする。また、木質の付着している側を上にして、表から見た両端を左右と記す³⁾。

① 概形

短冊形の薄い鉄板の両長側辺に刃をつけたもので、茎はない。刃のない両端部は、やや幅狭、隅丸に整えられ、端から1cm前後の位置に目釘孔が1か所ずつあけられている。ただし、細部は左右で異なる。左端は直線的に断ち落とされているのに対し、右端は弧状を呈する。目釘孔の径は左の方が若干大きい（左：3.0mm、右：2.6mm）。鉄板の厚みは、程度の差はあれ全体に錆化膨張しているが現状で最も薄い箇所では1.5mmを測る。

② 刃部の長さや刃の数

刃部の長さ・刃の数は、木質の付着している側（A列）と、鉄が露出している側（B列）で異なる。A列・B列とも側面から見て、あさは付けられていない。

A列は、刃部長17.8cm、刃の数51、全体がほぼ均等に割り付けられている。切込みの間隔は、3.5mm平均。刃はほぼ直線的に並んでいる。

B列は、刃部長18.5cm、刃の数56（復元値）である。B列で注目されるのは、右側約1/4の範囲の刃の切込み間隔が他の部分より狭いことである。長さ4.9cmの範囲に17目あり、その間隔は2.72mm平均となっている（以下、この部分をB列細目部分と記す）。一方、刃2目分ほどの欠損部分を挟んだ左側部分の切込みの間隔は3.5mm平均で、A列と同じである。

さらにB列で注意されるのは、刃が直線的に並んでいない点である。刃の中央部分（長さ約9cm）はA列にはほぼ平行しているが、両端からそれぞれ5cmほどの範囲は、その直線状にのっていない。各範囲内では直線状の刃が、B列全体が緩やかな弧を描くような角度で接している。

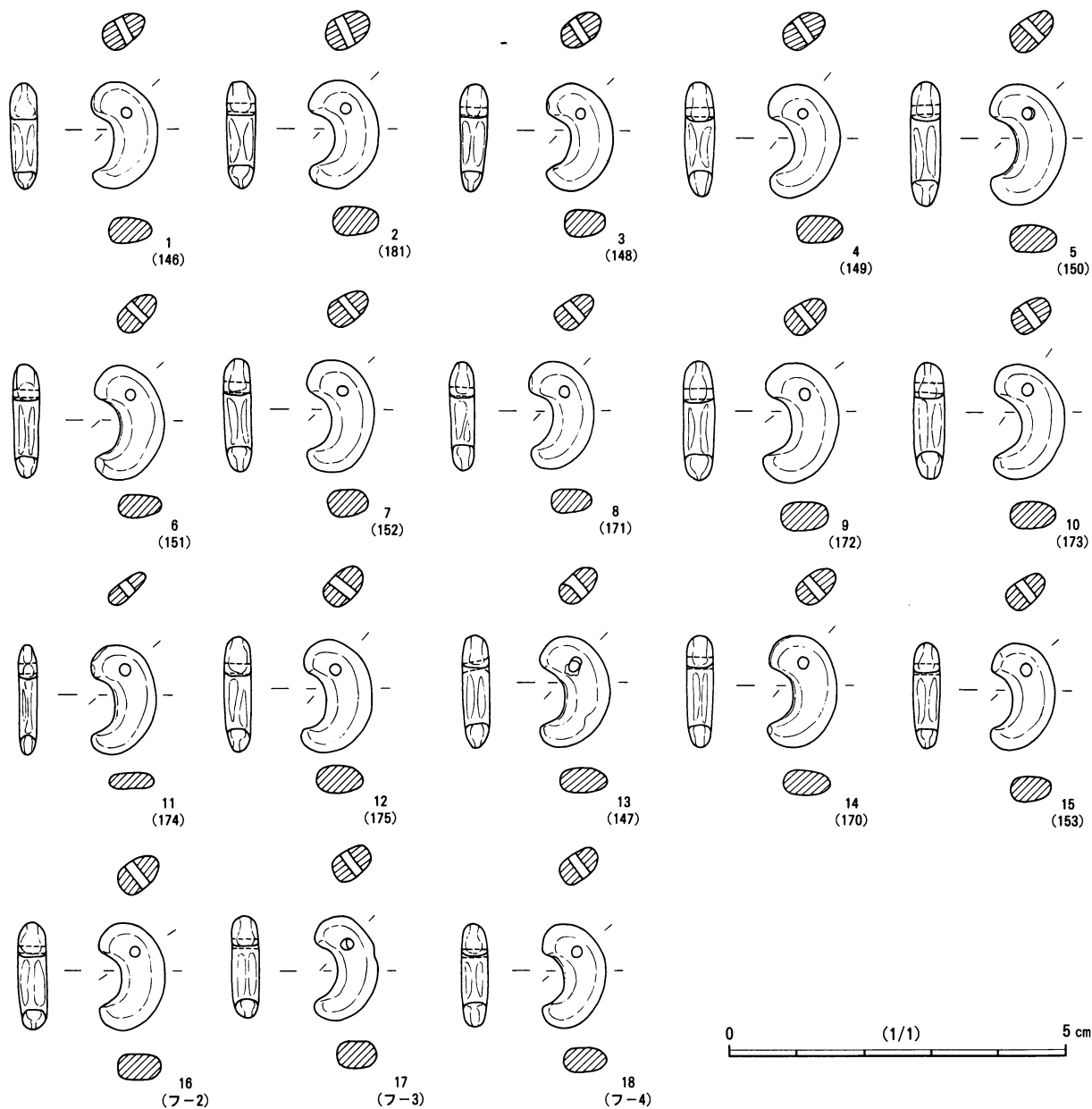
③ 刃の形

現状で観察される刃の形の特徴は、A列・B列に共通している。ただし、B列細目部分のみ若干異なる。

A列・B列共通の特徴は、一目一目の刃が、台形状を呈している点にある。すなわち、刃先が本体と平行に磨耗あるいは折損し、基部のみが残っているのである。遺存部分からは、本来の形が二等辺三角形で

あったのか、やや斜めに傾いた三角形であったのか明らかでない。

刃先がないことについては、副葬後に土中で腐食あるいは損傷したとも考えられる。しかし、木質に覆われて外側からは刃が見えないA列について、X線透過写真で台形状であると確認されたことからみて、副葬された段階で既に現状に近い形になっていたことが想定される。



第45図 第3主体部出土遺物(1)

3. 第3主体部の副葬品（巻頭図版2）

第3主体部から出土した遺物は全部で235点ある。内訳は玉類が227点（滑石製勾玉18点、滑石製白玉209点）、鉄剣が4点、ほかに埋土に含まれていたと考えられる土器片が4点ある。

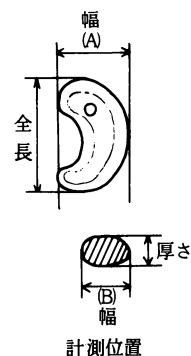
(1) 玉類

滑石製勾玉（第46図1～18、巻頭図版3、図版28、第14表）

全長は平均で1.45cm、厚さの平均は0.37cmを測る。これは同じ第1主体部から検出した滑石製の勾玉よりごくわずかだが大ぶりである。すべて片面穿孔である。

第14表 第3主体部出土滑石製勾玉計測値 (mm・g)

挿図No.	遺物No.	集中	全長	幅(A)	幅(B)	厚さ	孔径	重量
第45図- 1	146	5	15.3	9.8	6.4	3.8	1.4	0.85
2	181	5	15.8	10.2	6.4	4.5	1.4	0.96
3	148	5	15.4	9.7	6.0	4.0	1.2	0.86
4	149	5	16.1	10.0	6.4	4.0	1.2	0.96
5	150	5	16.9	11.0	7.2	4.1	1.4	1.20
6	151	5	16.4	10.3	6.4	3.4	1.2	0.88
7	152	5	15.2	10.0	6.1	3.7	1.4	0.91
8	171	5	15.2	9.3	5.8	3.4	1.3	0.72
9	172	5	16.9	10.6	6.9	4.0	1.1	1.10
10	173	5	16.1	10.4	6.3	3.9	1.5	0.99
11	174	5	15.4	9.5	5.9	2.0	1.5	0.57
12	175	5	16.2	9.9	6.6	4.1	1.4	0.93
13	147	5	15.5	10.3	6.6	3.3	1.9	0.91
14	170	5	15.6	9.8	6.1	3.9	1.3	0.87
15	153	6	15.2	9.1	6.3	3.4	1.3	0.74
16	フ-2	一括	15.5	10.0	6.3	4.1	1.2	0.93
17	フ-3	一括	15.2	9.3	5.7	3.9	1.2	0.79
18	フ-4	一括	15.2	9.3	6.2	3.5	1.2	0.75

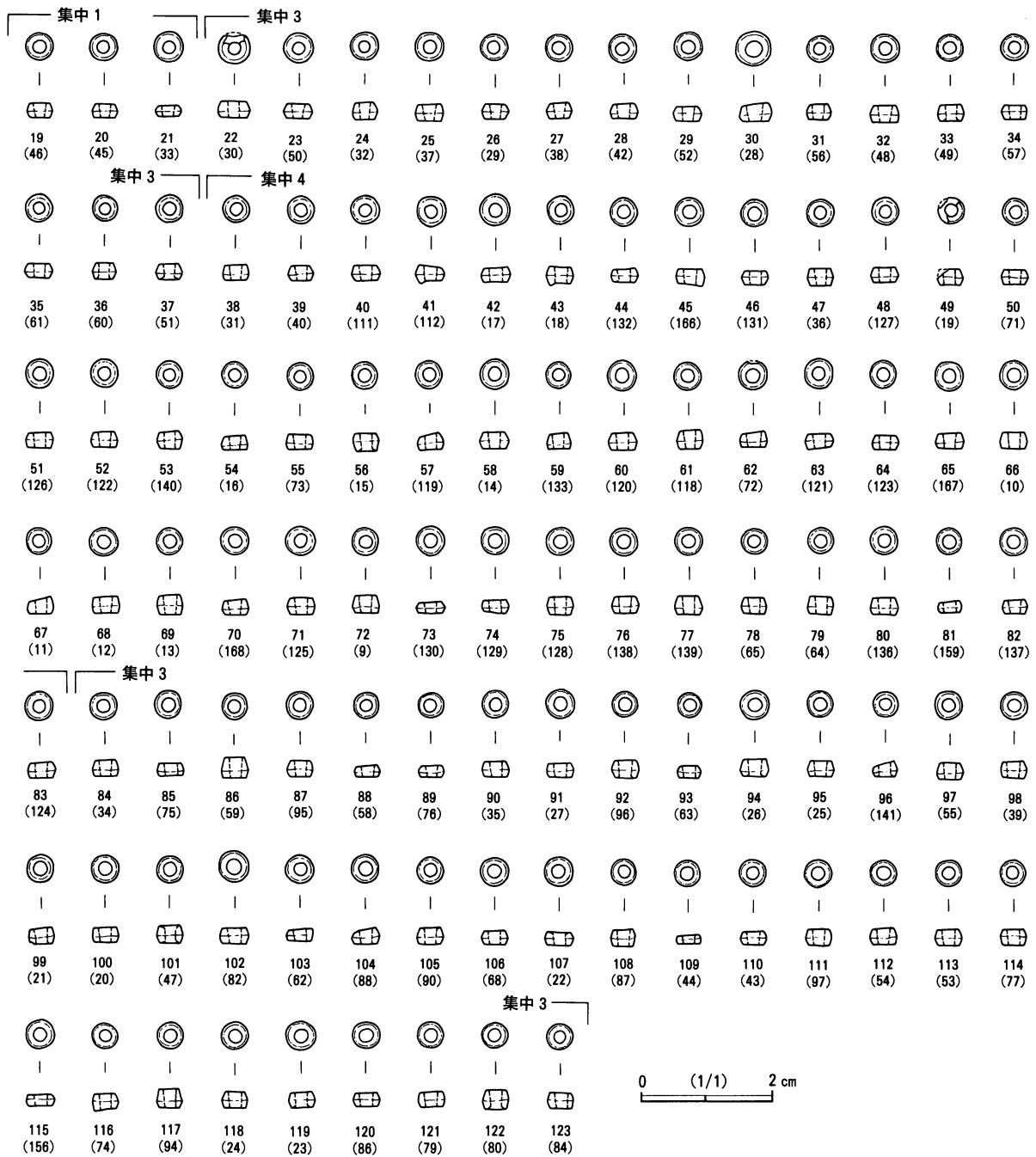


滑石製白玉 (第46図19~227、図版27、第15表) 形状は円筒形で、中位にふくらみをもち、算盤玉に近くなるものが主体となる。また、端部は必ずしも平行にそろわないものが多い。外径は5.4mm~3.5mm、平均(最大値) 4.19mm、厚さは3.8mm~0.7mm、平均(最大値) 2.35mm、孔径は2.4mm~1.4mm、平均1.98mm、現存重量は0.13g~0.01g、平均0.049gを測る。

第15表 第3主体部出土滑石製白玉計測値 (mm・g・m)

(その1)

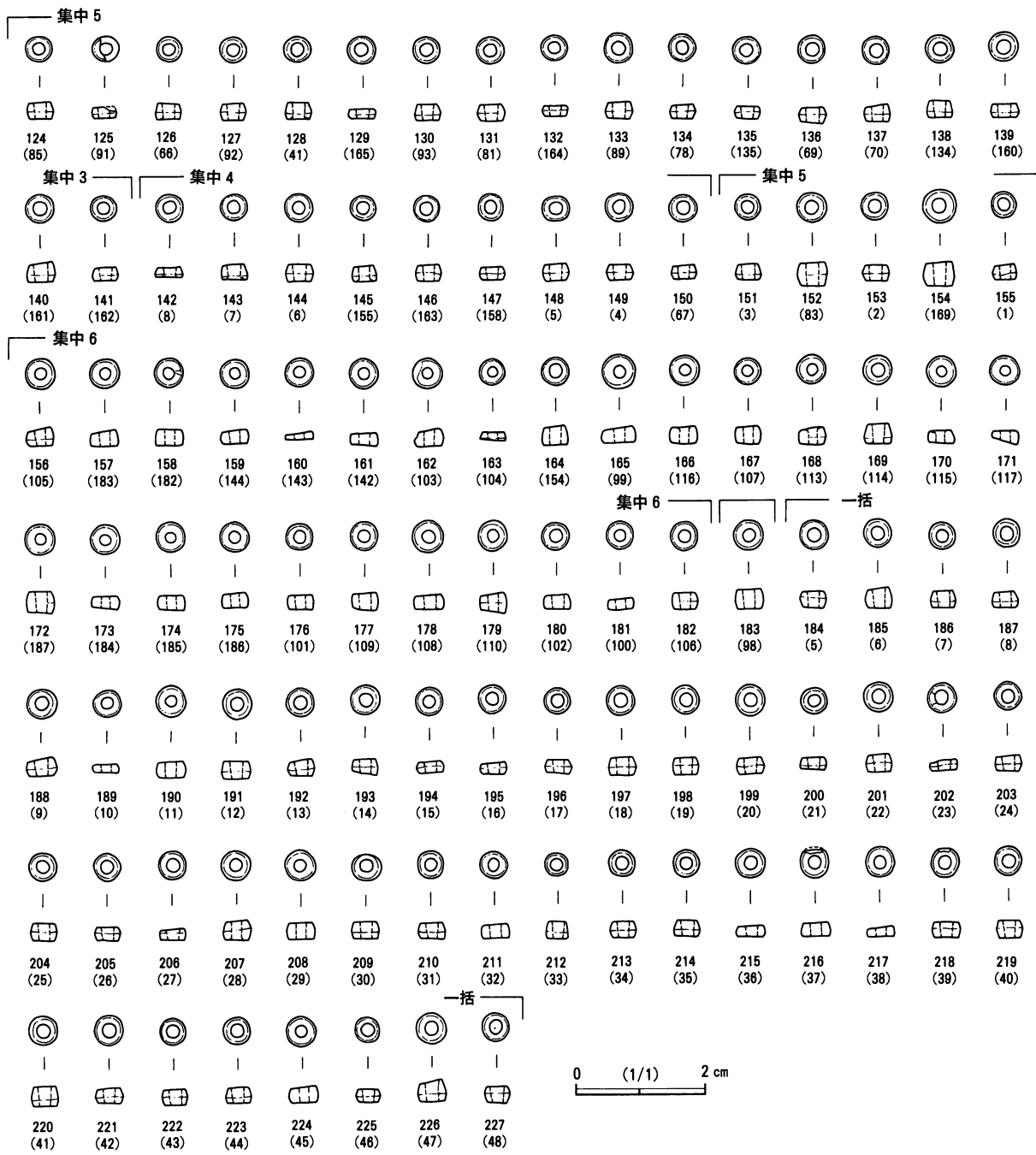
挿図No.	集中	遺物No.	計測値(mm)						(g) 現存重量	(m) 出土レベル	備考
			径		高さ		孔径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第46図- 19	1	46	4.1 × 4.0	2.2	2.1	2.1	1.9 × 1.8	0.05	32.040		
20	1	45	4.0 × 3.9	2.1	2.1	2.0	1.9	0.04	32.070		
21	1	33	4.3 × 4.2	1.8	1.6	2.1	2.0 × 1.8	0.04	32.040		
22	3	30	5.2 × (4.7+)	2.8	2.5	1.9	1.7	0.01	32.065		
23	3	50	4.4	2.1	2.0	2.0	2.0 × 1.8	0.05	32.075		
24	3	32	4.0	2.5	2.1	1.9	1.9	0.05	32.080		
25	3	37	4.4 × 4.3	2.2	2.0	2.1	2.0 × 1.9	0.06	32.100		
26	3	29	4.1 × 4.0	2.1	2.0	2.0	1.9	0.05	32.110		
27	3	38	4.1 × 4.0	2.4	2.3	2.1	2.0 × 1.8	0.05	32.090		
28	3	42	4.1	2.4	2.3	2.0	1.9	0.06	32.095		
29	3	52	4.1 × 4.3	2.2	1.8	2.1	2.1 × 1.7	0.06	32.090		
30	3	28	5.1	2.7	2.4	2.4	2.4 × 2.0	0.08	32.100		
31	3	56	4.0 × 3.9	2.3	2.2	2.0	1.8 × 1.7	0.04	32.095		
32	3	48	4.4	2.3	2.2	2.0	2.0 × 1.8	0.06	32.080		
33	3	49	4.0	2.2	2.1	2.0	1.8	0.04	32.075		
34	3	57	4.0	2.0	2.0	1.9	1.9	0.04	32.080		
35	3	61	4.1	2.3	2.1	1.9	1.8 × 1.7	0.04	32.090		
36	3	60	3.8	2.6	2.4	2.1	2.0	0.03	32.090		
37	3	51	4.1	2.4	2.3	2.0	2.0 × 1.8	0.05	32.090		
38	4	31	4.0 × 3.8	2.2	2.1	2.0	1.8 × 1.7	0.04	32.100		
39	4	40	4.0 × 3.9	2.2	2.1	2.1	2.0 × 1.9	0.04	32.085		
40	4	111	4.2	2.2	2.0	2.1	2.1 × 1.9	0.04	32.070		
41	4	112	4.4 × 4.3	2.6	2.0	2.0	2.0 × 1.8	0.06	32.070		
42	4	17	4.6	2.2	2.0	2.1	2.0	0.06	32.085		
43	4	18	4.2 × 4.1	3.1	2.6	2.0	2.0 × 1.8	0.07	32.090		
44	4	132	4.3 × 4.2	2.3	1.9	2.1	2.0 × 1.9	0.05	32.065		
45	4	166	4.4 × 4.3	2.4	2.2	2.0	2.0 × 1.8	0.07	32.050		
46	4	131	4.0	2.1	2.0	2.0	2.0	0.04	32.060		
47	4	36	4.2 × 4.1	2.4	2.4	2.0	1.9 × 1.8	0.06	32.085		



第46図 第3主体部出土遺物(2)

第15表 (その2)

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第46図- 48	4	127	4.0		2.3	2.2	2.0	1.9 × 1.8	0.04	32.060	
49	4	19	4.0 × 3.7+						0.02	32.100	
50	4	71	4.0		2.3		2.0	2.0 × 1.8	0.04	32.100	
51	4	126	4.1		2.2	2.1	2.0	1.8	0.05	32.070	
52	4	122	4.1 × 4.0		2.2	2.0	2.0	1.9 × 1.7	0.04	32.085	
53	4	140	4.0 × 3.8		2.6	2.5	2.0	2.0 × 1.8	0.05	32.080	
54	4	16	4.0 × 3.9		2.0	1.8	2.0	2.0 × 1.7	0.04	32.090	
55	4	73	4.0		2.3		2.0	2.0 × 1.7	0.05	32.090	
56	4	15	4.0		2.6	2.3	2.0	2.0 × 1.7	0.05	32.080	
57	4	119	4.2 × 4.1		2.3	1.8	2.1	1.9 × 1.7	0.04	32.090	
58	4	14	4.2		2.5	2.4	2.0	2.0 × 1.8	0.05	32.090	



第47図 第3主体部出土遺物(3)

第15表 (その3)

挿図No.	集中	遺物No.	計測値 (mm)						(g) 現存重量	(m) 出土レベル	備考
			径		高さ		孔径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第46図-	4	133	3.9 × 3.8	2.2	2.0	2.0	1.8 × 1.6	0.03	32.080		
60	4	120	4.1 × 4.3	2.4	2.3	2.1	1.9 × 1.7	0.06	32.085		
61	4	118	4.0	2.9	2.8	2.1	2.0 × 1.7	0.06	32.090		
62	4	72	4.3 × 4.1	2.1	1.9	2.0	1.9 × 1.7	0.05	32.100		
63	4	121	4.4 × 4.3	2.1	1.0	2.0	2.0 × 1.8	0.04	32.095		
64	4	123	4.1 × 4.0	2.0	2.0	2.0	1.9 × 1.6	0.04	32.080		
65	4	167	4.3 × 4.2	2.2	1.9	2.0	1.8	0.04	32.050		
66	4	10	4.2 × 4.1	2.4	2.3	2.0	2.0 × 1.7	0.06	32.085		
67	4	11	4.0 × 3.9	2.2	1.8	2.0	2.0 × 1.7	0.04	32.090		
68	4	12	4.2	2.5	2.3	2.0	2.0 × 1.8	0.06	32.100		
69	4	13	4.1 × 4.0	2.8	2.6	2.3	2.0 × 1.9	0.06	32.090		
70	4	168	4.2 × 4.0	2.0	1.9	2.1	2.0 × 1.7	0.05	32.050		

第15表 (その4)

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考		
			径		高 さ		孔 径						
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値					
第46図-	71	4	125	4.3		2.3		2.0		1.9 × 1.8	0.06	32.085	
	72	4	9	4.0 × 3.8		2.7	2.6	2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.100	
	73	4	130	4.3		1.8	1.5	2.0		2.0 × 1.8	0.04	32.090	
	74	4	129	4.2		2.1	1.7	2.0			0.04	32.075	
	75	4	128	4.1		2.4		2.1	1.9		0.04	32.080	
	76	4	138	4.1		2.5		2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.080	
	77	4	139	4.2 × 4.1		2.5	2.4	2.1		2.0 × 1.8	0.05	32.080	
	78	4	65	3.8		2.2		2.1		2.1 × 1.8	0.03	32.090	
79	4	64	3.9		2.8	2.7	2.0		1.9 × 1.7	0.05	32.105		
80	4	136	4.2		2.5	2.3	2.0		2.0 × 1.9	0.06	32.080		
81	4	159	3.8		2.0	1.5	2.2 × 2.1		2.0	0.02	32.075		
82	4	137	4.1		2.0	1.9	2.0		1.8 × 1.7	0.04	32.100		
83	4	124	4.2		2.4	2.3	2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.085		
84	3	34	4.0 × 3.9		2.6		2.0		1.9 × 1.7	0.05	32.095		
85	3	75	4.1 × 4.0		2.0		2.2 × 2.0		2.0 × 1.8	0.03	32.090		
86	3	59	3.9		3.2	3.1	2.1		2.0 × 1.8	0.05	32.100		
87	3	95	4.0		2.7	2.5	2.0		1.9 × 1.7	0.05	32.070		
88	3	58	4.0 × 3.9		1.8	1.7	2.0		1.9 × 1.7	0.03	32.100		
89	3	76	3.9 × 3.7		1.8	1.7	2.0		1.9 × 1.7	0.03	32.085		
90	3	35	4.1		2.3	2.2	2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.080		
91	3	27	4.4		2.0		2.0		2.0 × 1.7	0.05	32.105		
92	3	96	4.0 × 3.9		2.7	2.6	2.1		1.9 × 1.7	0.05	32.080		
93	3	63	3.9 × 3.8		2.0	1.9	2.1		1.9 × 1.8	0.03	32.095		
94	3	26	4.4 × 4.2		2.7	2.5	2.1		1.9	0.07	32.100		
95	3	25	4.1 × 4.0		2.2		2.1		2.0 × 1.7	0.05	32.105		
96	3	141	3.8		2.3	1.5	2.1		2.0 × 1.7	0.03	32.075		
97	3	55	4.2 × 4.1		2.3	2.2	2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.085		
98	3	39	4.0		2.4		2.1		2.0 × 1.7	0.05	32.095		
99	3	21	4.0 × 3.9		2.4	1.9	2.1		1.9 × 1.8	0.04	32.110		
100	3	20	4.3 × 4.2		2.1	2.0	2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.100		
101	3	47	4.0		2.5		2.0		2.0 × 1.7	0.05	32.090		
102	3	82	4.4 × 4.3		2.2	2.1	2.0		2.0 × 1.8	0.05	32.085		
103	3	62	4.0		1.8	1.6	2.0		1.9 × 1.8	0.03	32.100		
104	3	88	4.1 × 4.0		2.4	1.7	2.0		2.0 × 1.7	0.03	32.085		
105	3	90	4.0		2.3	2.2	2.0		2.0 × 1.8	0.03	32.090		
106	3	68	4.2 × 4.0		2.2	2.0	2.0		2.0 × 1.8	0.03	32.090		
107	3	22	4.4 × 4.3		2.0	1.8	2.1		2.0 × 1.9	0.04	32.110		
108	3	87	3.8 × 3.7		2.5	2.2	2.0		2.0 × 1.8	0.04	32.090		
109	3	44	3.9 × 3.8		1.4	1.3	2.0		1.9 × 1.7	0.02	32.100		
110	3	43	4.0		2.1	1.8	2.0		2.0 × 1.7	0.04	32.100		
111	3	97	4.1		2.4		2.0		1.8	0.05	32.085		
112	3	54	4.0 × 3.9		2.4	2.3	2.1		1.9 × 1.7	0.04	32.100		
113	3	53	4.0 × 3.9		2.3	2.2	2.0		2.0 × 1.8	0.04	32.100		
114	3	77	4.1 × 4.0		2.3	2.2	2.0		1.9 × 1.8	0.04	32.095		
115	3	156	4.3 × 4.2		1.7	1.6	2.0		1.8 × 1.7	0.03	32.080		
116	3	74	3.8		2.7	2.0	2.1		1.9 × 1.8	0.03	32.100		
117	3	94	4.0 × 3.9		2.9	2.8	2.0		1.9	0.05	32.085		
118	3	24	4.0 × 3.9		2.6	2.4	2.1		2.0 × 1.9	0.04	32.075		
119	3	23	4.4 × 4.3		2.3	2.1	2.0		1.8 × 1.7	0.05	32.110		
120	3	86	4.0		2.1	2.0	2.0		1.9 × 1.8	0.03	32.090		
121	3	79	3.9		2.1		2.1		2.0 × 1.7	0.04	32.105		
122	3	80	4.0 × 3.9		3.0	2.8	2.1		2.0 × 1.8	0.06	32.100		
123	3	84	4.0 × 3.9		2.5		2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.090		
124	3	85	4.0 × 3.9		2.6	2.4	2.1		1.9	0.05	32.090		
125	3	91	4.1 × 4.0		1.8	1.3	2.0		1.9 × 1.7	0.03	32.080		
126	3	66	4.0 × 3.9		2.7	2.6	2.0		1.9	0.05	32.100		
127	3	92	4.1		2.7	2.4	2.1		1.9	0.05	32.090		
128	3	41	4.1 × 4.0		2.6		2.0		1.9 × 1.7	0.05	32.095		
129	3	165	4.3 × 4.2		1.8	1.6	2.1		2.0 × 1.8	0.04	32.050		
130	3	93	4.1 × 4.0		2.6		2.1		1.9 × 1.7	0.05	32.090		
131	3	81	4.1		2.3		2.0		1.9 × 1.7	0.04	32.105		
132	3	164	4.0 × 3.9		1.8	1.7	2.0		1.9 × 1.8	0.03	32.055		
133	3	89	4.3 × 4.2		2.6	2.4	2.0		2.0 × 1.7	0.05	32.100		
134	3	78	4.0		2.2	2.1	2.0		1.9	0.03	32.105		
135	3	135	4.1 × 4.0		2.7	2.2	2.0		1.9 × 1.8	0.03	32.110		
136	3	69	4.2 × 4.1		2.8	2.2	2.1		1.9 × 1.8	0.05	32.110		
137	3	70	4.1 × 4.0		2.8	2.3	2.0		1.9 × 1.7	0.04	32.105		
138	3	134	4.2 × 4.1		2.8	2.7	2.0		1.9 × 1.7	0.06	32.100		
139	3	160	4.5 × 4.4		2.2	2.1	2.0		1.9 × 1.8	0.05	32.065		
140	3	161	4.3		3.0	2.8	2.1		1.9 × 1.8	0.07	32.070		

第15表 (その5)

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第47図-141	3	162	3.9 × 3.8	2.0	1.9	2.0	1.9 × 1.7	0.02	32.060		
142	4	8	4.3 × 4.2	1.6	1.2	2.0	2.0 × 1.9	0.02	32.090		
143	4	7	4.0	2.1	2.0	2.1	2.1 × 1.6	0.03	32.100		
144	4	6	4.4 × 4.2	2.5	2.1	2.1	1.9 × 1.8	0.06	32.100		
145	4	155	3.9 × 3.8	2.3	2.1	2.0	1.9 × 1.7	0.05	32.075		
146	4	163	4.1	2.4	2.3	2.0	2.0 × 1.8	0.06	32.060		
147	4	158	4.1 × 3.8+	1.9	1.8	2.0	1.9 × 1.8	0.04	32.075		
148	4	5	4.2 × 3.9+	2.7		2.0	1.9 × 1.7	0.06	32.090		
149	4	4	4.2 × 4.1	2.2		2.0	1.9 × 1.7	0.05	32.100		
150	4	67	4.2 × 4.0	2.1	1.9	2.0	1.8 × 1.7	0.04	32.030		
151	5	3	3.9 × 3.8	2.4	2.3	2.0	1.9 × 1.8	0.03	32.100		
152	5	83	4.7 × 4.4	3.7	3.4	2.0	2.0 × 1.9	0.10	32.120		
153	5	2	4.1 × 3.9	2.3		2.0	2.0 × 1.7	0.04	32.115		
154	5	169	5.0 × 4.9	3.8	3.6	2.0	1.9 × 1.6	0.13	32.085		
155	5	1	3.9 × 3.8	2.2	2.0	2.0	1.9 × 1.8	0.03	32.130		
156	6	105	4.6 × 4.4	2.9	2.0	1.7	1.6 × 1.4	0.08	32.150		
157	6	183	4.6 × 4.4	2.1	1.8	1.7	1.5 × 1.4	0.06	32.150		
158	6	182	4.5 × 4.4	2.6		1.6		0.08	32.160		
159	6	144	4.6	2.2	1.9	1.6		0.07	32.125		
160	6	143	4.3 × 4.2	1.2	0.7	1.6		0.02	32.125		
161	6	142	4.4 × 4.3	2.0	1.7	1.6		0.05	32.125		
162	6	103	4.5	2.5	2.2	1.6	1.6 × 1.5	0.07	32.150		
163	6	104	4.0 × 3.9	1.3	1.0	1.7	1.6	0.02	32.140		
164	6	154	4.1	2.8	2.6	2.0	1.8 × 1.7	0.06	32.130		
165	6	99	5.4 × 5.3	2.5	2.0	1.8	1.7 × 1.5	0.10	32.170		
166	6	116	4.5 × 4.4	2.7	2.3	1.7	1.6	0.07	32.140		
167	6	107	4.0 × 3.8	2.7	2.4	1.8	1.8 × 1.7	0.05	32.155		
168	6	113	4.6 × 4.5	2.7	2.2	1.7	1.7 × 1.5	0.07	32.145		
169	6	114	4.4 × 4.3	3.0		2.0	1.9 × 1.7	0.07	32.145		
170	6	115	4.5	2.0	1.5	1.6		0.05	32.170		
171	6	117	4.5 × 4.3	2.0	1.1	1.7	1.6	0.04	32.160		
172	6	187	4.5	3.2	3.1	1.9	1.8	0.09	32.155		
173	6	184	4.5 × 4.4	2.0	1.6	1.6		0.05	32.160		
174	6	185	4.5	2.2	1.9	1.6	1.6 × 1.5	0.07	32.160		
175	6	186	4.5 × 4.4	2.5	2.2	1.6	1.6 × 1.5	0.06	32.160		
176	6	101	4.1 × 3.9	2.2	2.0	1.8		0.04	32.200		
177	6	109	4.2	2.8	2.6	1.9	1.8	0.06	32.170		
178	6	108	5.0 × 4.7	2.2	2.0	2.0	1.9 × 1.8	0.07	32.175		
179	6	110	4.5 × 4.3	2.8	2.2	1.7		0.08	32.175		
180	6	102	4.2	2.1	2.0	2.0	1.9 × 1.6	0.04	32.190		
181	6	100	4.0	1.6	1.2	1.6		0.03	32.190		
182	6	106	4.2	2.6	2.5	1.9	1.9 × 1.8	0.06	32.150		
183	—	98	4.5	3.0	2.8	1.8	1.7 × 1.6	0.09	32.345		
184	—	(5)	4.3	2.5	2.2	2.0	2.0 × 1.8	0.07		以下、(遺物番号) は、ふるい一括 出土品。	
185	—	(6)	4.1	3.1	2.8	2.0	2.0 × 1.8	0.07			
186	—	(7)	4.0	2.5		2.0	2.0 × 1.9	0.05			
187	—	(8)	4.0 × 3.9	2.4	2.3	2.0	1.9 × 1.8	0.05			
188	—	(9)	4.6	2.8	2.3	2.0	1.8 × 1.7	0.08			
189	—	(10)	4.1 × 3.9	1.4	1.2	1.8	1.8 × 1.7	0.02			
190	—	(11)	4.6 × 4.5	2.5	2.3	1.7	1.6 × 1.5	0.07			
191	—	(12)	4.4 × 4.3	2.7		2.0	1.9	0.07			
192	—	(13)	4.2 × 4.1	2.4	1.7	2.0	1.9	0.05			
193	—	(14)	4.3 × 4.2	2.6	1.6+	2.0	1.9	0.04			
194	—	(15)	4.1	1.8	1.5	2.0	1.9 × 1.6	0.04			
195	—	(16)	4.1 × 4.0	1.8	1.5	2.0	1.9 × 1.8	0.03			
196	—	(17)	3.9 × 3.8	2.2	1.9	2.0	2.0 × 1.8	0.03			
197	—	(18)	4.4 × 4.3	2.7	2.6	2.0	2.0 × 1.9	0.07			
198	—	(19)	4.0	2.5		2.1	2.0 × 1.8	0.05			
199	—	(20)	4.4 × 4.3	2.3		2.0	1.9 × 1.7	0.06			
200	—	(21)	4.0 × 3.8	1.8		1.9	1.9 × 1.6	0.04			
201	—	(22)	4.4 × 4.3	2.7	2.4	2.0	1.9 × 1.7	0.07			
202	—	(23)	4.3 × 4.2	1.8	1.1	2.0	2.0 × 1.9	0.03			
203	—	(24)	4.1	2.5	2.0	2.0	2.0 × 1.9	0.04			
204	—	(25)	4.2 × 4.1	2.7	2.5	1.9	1.8	0.05			
205	—	(26)	4.2 × 4.0	1.9	1.8	2.0	1.9 × 1.7	0.03		一部欠損	
206	—	(27)	4.2 × 4.1	1.8	1.5	2.0	1.9 × 1.5	0.03			
207	—	(28)	4.6 × 4.5	3.0	2.7	1.7		0.08			
208	—	(29)	4.6 × 4.5	2.6	2.5	1.7	1.7 × 1.5	0.07			
209	—	(30)	4.3 × 4.0	2.7		2.0	2.0 × 1.7	0.06			
210	—	(31)	4.0	2.4	2.3	2.0	2.0 × 1.7	0.05			

挿図No.	集中	遺物No.	計 測 値 (mm)						(g) 現存 重量	(m) 出 土 レベル	備 考
			径		高 さ		孔 径				
			最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値			
第47図-211	-	(32)	4.2 × 3.9		2.0	1.9	1.9	1.8	0.05		
212	-	(33)	3.6 × 3.5		2.6	2.5	2.0	1.9 × 1.6	0.03		
213	-	(34)	3.9 × 3.8		2.3	2.0	2.0	1.9 × 1.7	0.04		
214	-	(35)	4.0 × 3.8		2.3	2.2	2.0	1.9 × 1.8	0.04		
215	-	(36)	4.4		1.6	1.4	1.9	1.8 × 1.7	0.04		
216	-	(37)	4.5 × 4.1		2.1	2.0	1.6	1.6 × 1.5	0.06		
217	-	(38)	4.5 × 4.4		1.5	1.0	1.7 × 1.6	1.6	0.04		
218	-	(39)	4.2 × 4.1		2.3		2.0	2.0 × 1.7	0.05		
219	-	(40)	4.1		2.8	2.7	2.0	1.9 × 1.8	0.06		
220	-	(41)	4.3		3.1	2.9	2.0	1.9 × 1.7	0.07		
221	-	(42)	4.2 × 4.1		2.2	2.1	2.0	1.9 × 1.6	0.05		
222	-	(43)	3.9		2.3	2.2	2.0	1.9 × 1.8	0.04		
223	-	(44)	3.9		2.3	2.2	2.0	1.8	0.04		
224	-	(45)	4.6 × 4.4		2.4	2.1	1.7 × 1.6	1.6 × 1.5	0.07		
225	-	(46)	3.8 × 3.7		1.9	1.8	2.0	1.9 × 1.8	0.03		
226	-	(47)	4.6 × 4.5		3.3	2.7	2.1	2.0	0.08		
227	-	(48)	4.0 × 3.9		2.4	2.2	2.1	2.0	0.04		

(2) 鉄製品

剣 1 (第48図228、図版25、33、第16表) 全長52.3cm、刃部長42.3cm、茎長10.0cmを測る。

関に最も近い部分の身幅は3.1cmを測る。関付近には亀裂が入り、広がり気味になっている。厚み方向にも同様に膨張している。柄部は中央で幅が1.2cm、厚みは0.3cmを測る。柄部には2か所折れた部分があり、土圧によるものか折断部で大きくゆがんでいる。把木痕は見えない。

刃部一面に布の圧痕が認められる。布は平織と思われるが、上半部と下半部では布目の向きが異なっている。布目の単位は1mm～2mmである。反対側の面には布の痕跡は認められない。

剣 2 (第48図229、図版25、33、第16表) 全長36.3cm、刃部長24.9cm、茎長11.4cmを測る。

先端から10cm弱の部分は銹による膨張(特に厚み)が著しい。関付近の身幅は2.5cm、厚さ0.6cmを測る。関付近には銹化によって段が生じている。柄部では幅が1.3cm、厚みは0.3cmを測る。

剣 3 (第48図230、図版25、26、33、第16表) 茎尻の一部を欠損するが、現存全長37.8cm、刃部長31.0cm、現存茎長6.8cmを測る。

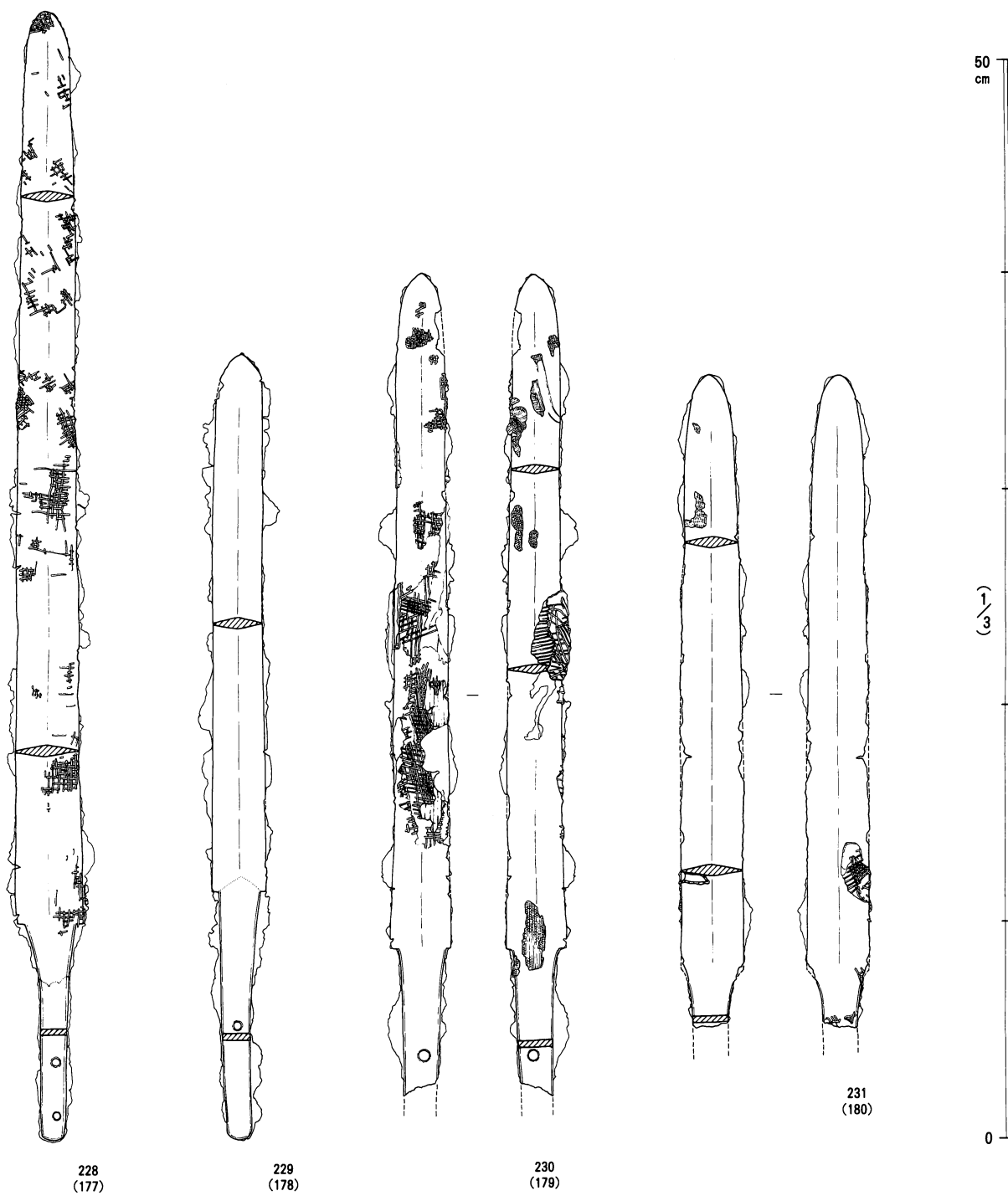
最も先端に近い断面では身幅2.3cm、厚さ0.4cm、剣身中央では幅2.6cm、厚さ0.5cm。柄部では茎幅が1.6cm、厚みは0.3cmである。目釘孔は関部から5cmほどの箇所位置し、孔径は0.5cmを測る。

剣身には布や木質が付着している。布は剣身に最も近い箇所に認められる。これは織り目の方向が異なるものが重なっており、どちらも一目が2mm程度の平織の布であることから、同じ布が二重になっていたものと考えられる。布の上には木質が残っている。木質は木目の幅や質感に違いがみられ、特に出土時の下面側と上面側では残っている木質の質感が異なるように観察される。下面側の木目の粗いものは棺材の一部の可能性もある。

剣 4 (第48図231、図版25、33、第16表) 現存全長30.2cm、刃部長27.5cm、現存茎長2.7cm(関部は復元)を測る。茎部を欠損する。

先端に近い断面では身幅2.5cm、厚さ0.5cm、関付近の断面では身幅2.8cm、厚さ0.5cmである。柄部では茎幅が1.6cm、厚みは0.3cmである。

先端に近い部分にはごく一部に木質が残っている。関部に近い箇所には布が残っており、折り返してあったことが確認できる。布は一目が1.5mmほどの平織の布と考えられる。



第48図 第3主体部出土遺物(4)

第16表 第3主体部出土鉄剣計測値 (cm)

挿図No.	遺物No.	全長	刃部長	茎長	関付近身幅/厚	茎中央部幅/厚
第48図-228	177	52.3	42.3	10.0	2.9 / 0.5	1.3 / 0.3
-229	178	36.3	24.9	11.4	2.6 / 0.6	1.3 / 0.3
-230	179	37.8+	31.0	6.8+	2.8 / 0.5	1.4 / 0.3
-231	180	30.2+	約 27.5	2.7+	2.8 / 0.5	1.6 / 0.3

注 身・茎とも厚さについては、錆ぶくれによる変形の影響が大きいため、計測位置に若干のばらつきがある。また他の部位に比して、錆化前との誤差も大きい。

4. その他の出土遺物

(1) 主体部出土の土器 (第49図1～4)

各主体部からは合わせて1,500点に及ぶ土器が出土している。その中で発掘時に主体部に伴う可能性があると考えられた土器が10点あり、このうち図示できたものが1から4である。1は大形の甕の底部でハケによる調整が認められる。2から4は壺の底部破片である。このように主体部内の土器はほとんどが小破片に限られ、時期を決定できないものが多い。図示した4点を含めてほとんどは埋土に混入して主体部に運ばれた可能性が高いと考えられる。

(2) 墳丘内出土遺物

鍬先 (第49図5、図版27、32) 墳丘の盛土上層から出土した。刃部と袋部上端の一部を欠損、全体に錆化が著しい。現存重量121.9g、復元刃部幅10.5cm、高さ4.8cm、袋部内側の計測値は幅9.2cm、厚み1.0cm～1.2cmを測る。

土製模造品 (第49図6、7、図版27) 直径3cm前後の土製の玉である。孔はない。表面は丁寧になでられているが、完全な球ではなくゆがんでいる。また、各々1か所に不整楕円形状に剥離した面があり、その面を下にして置くことができる。以上の形状から、供物であるだんごなどを表現した土製模造品と考えられる。共に盛土上層から出土しており、埋葬に先立って用いられた可能性が考えられる。

第48図 2 (No.302) 径 3.40×3.27cm 高さ 3.42cm 重さ 37.21g

第48図 3 (No.-) 径 3.26×2.89cm 高さ 2.89cm 重さ 36.53g

(3) 周溝内出土遺物

8は石製の管玉である。全長2.15cm、外径0.6cm、孔径0.3cm、重量1.3gを測る。石材は白斑のある黒色で蛇紋岩かと思われる。両面から穿孔されている。

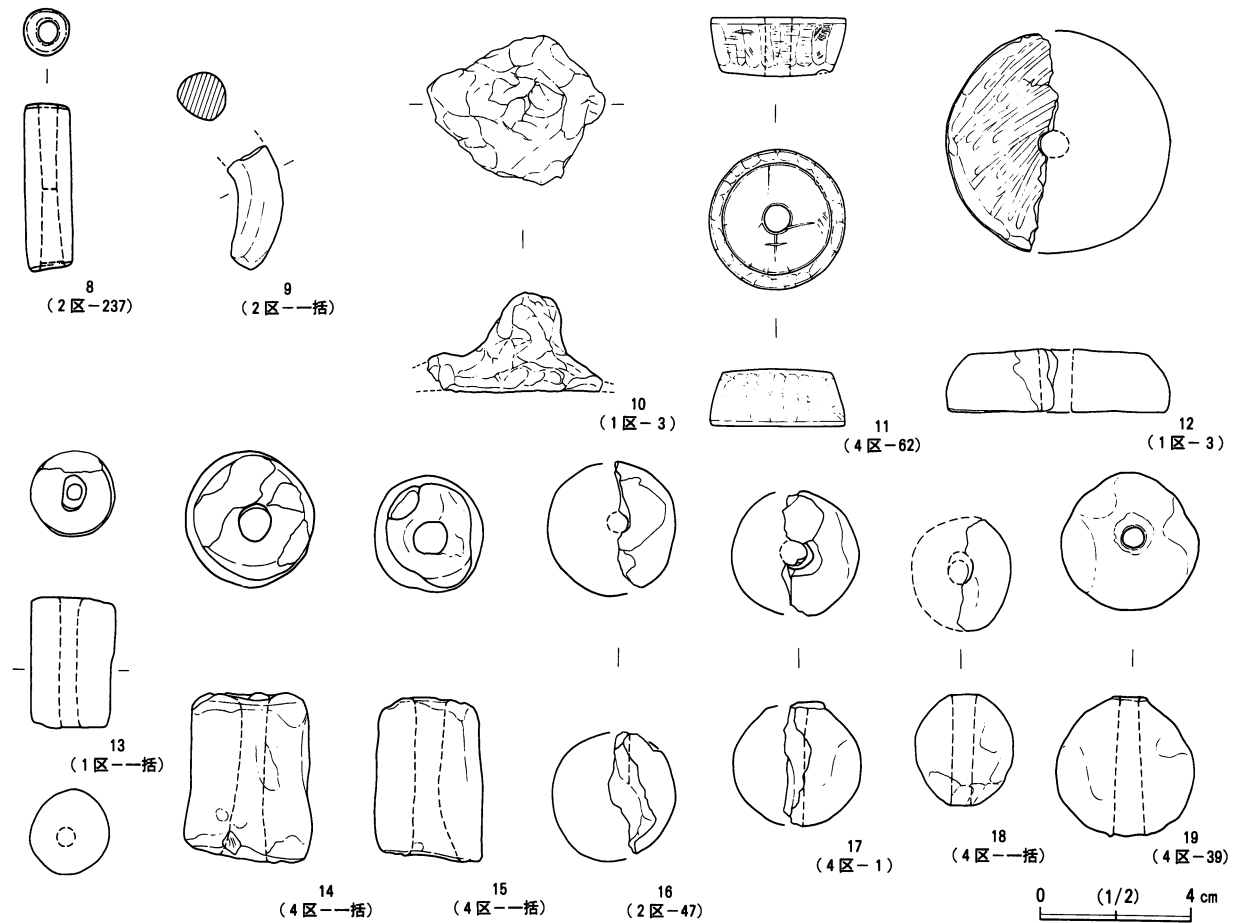
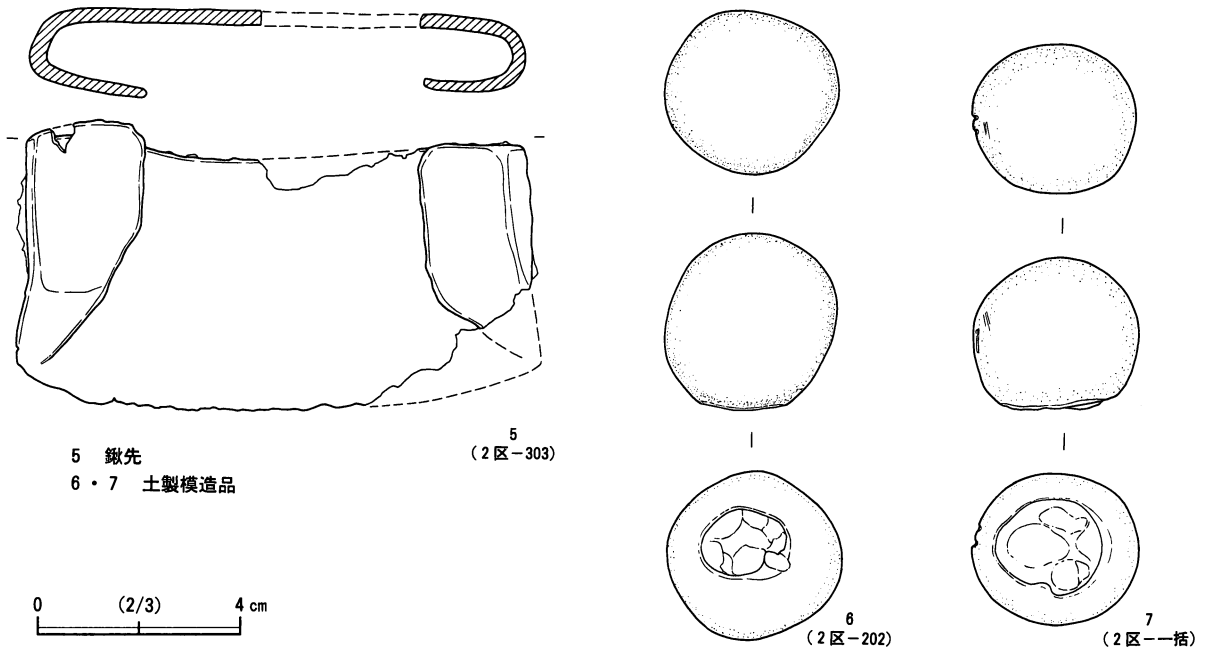
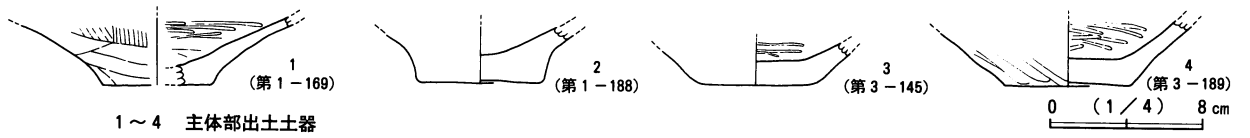
9は土製の勾玉であろう。10は鏡の土製模造品である。11と12は紡錘車である。11は蛇紋岩製で上面径3.6cm、下面径2.9cm、厚さ1.5cm、孔径0.7cmを測る。12は土製で6cmほどの外径が復元される。13から19は土玉であり管状と球状の二種類がある。

20から39は金属製品である。形状や出土状況、遺存状態などからみて、すべて新しい時期の所産と考えられる。

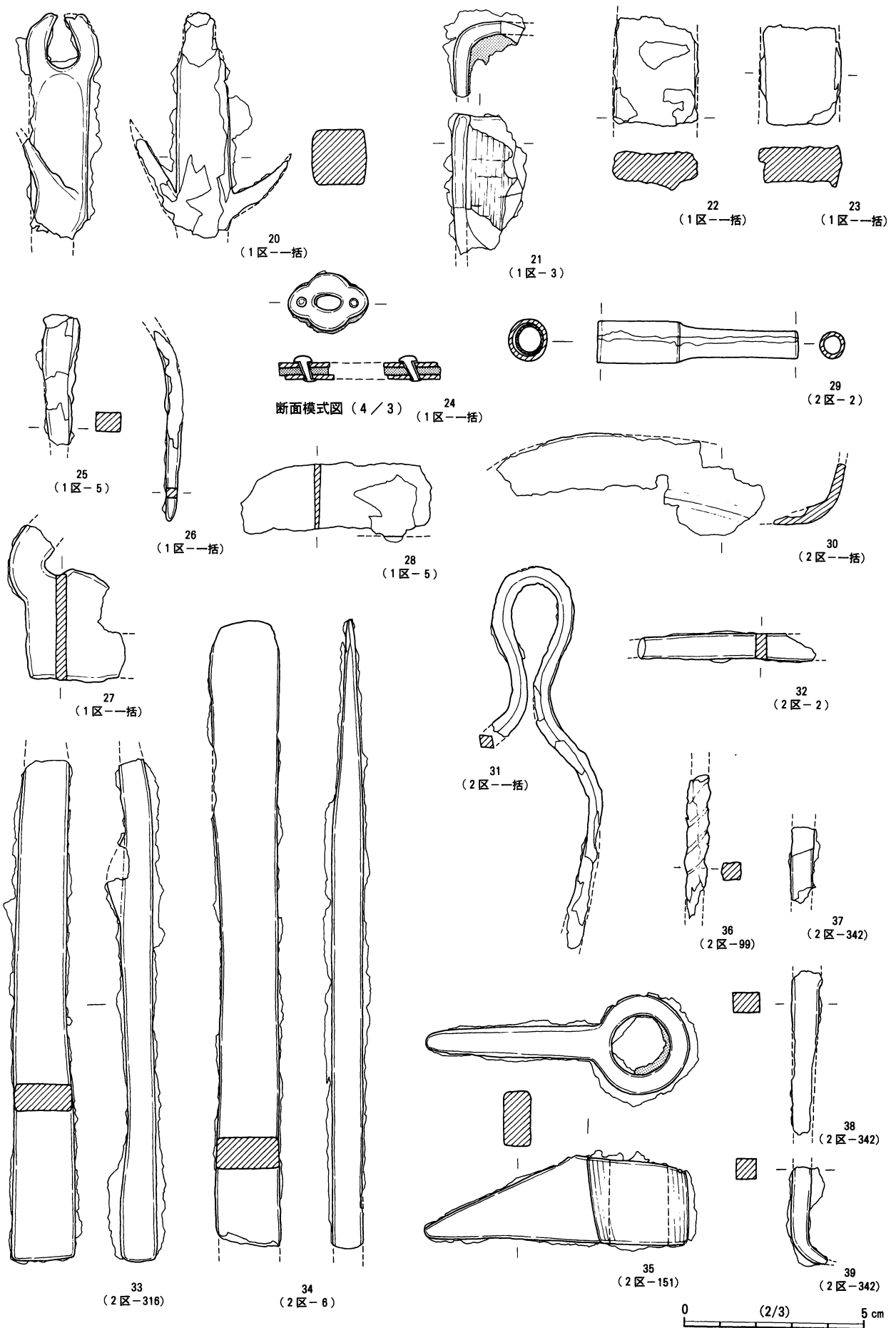
注1 国立歴史民俗博物館の西本豊弘氏にも観察していただき、骨であることは確定したが、人骨である確証は得られなかった。

2 草刈1号墳の出土遺物については、かつてその調査成果の一部を「房総考古学ライブラリー6--古墳時代2--」で公にしたことがある。その後X線写真等からの新しい所見があり、今回図の一部を変更しているが、本報告をもって最終的な成果とする。

3 この資料の観察にあたっては、国立歴史民俗博物館の永嶋正春氏から多くの御教示を賜った。木質や鉄錆に覆われた刃部の形状等、細部の構造は永嶋氏の調査により明らかにされたものである。



第49图 主体部出土土器、墳丘・周溝出土遺物(1)



第50图 填丘·周溝出土遺物(2)

第3章 ま と め

第1節 草刈1号墳の構築年代

草刈1号墳については、出土遺物に多種多様なものがあり、複雑な様相を呈している。以下、墳丘と主体部及び主な副葬品から草刈1号墳の築造年代を考えてみたい。

1. 墳丘と主体部

墳丘は、東側裾部を削平されている以外は比較的良好に旧状を残している。調査結果によると、墳丘径35m、見かけ上の高さ3.5mを測る比較的大形の円墳である。墳丘断面図で明らかなように、周囲の旧表土面を掘り下げて墳丘部を高くし、墳頂部は広い平坦面を形成している。このような墳丘構築法は、中期の大形円墳に共通して見られる様相である。

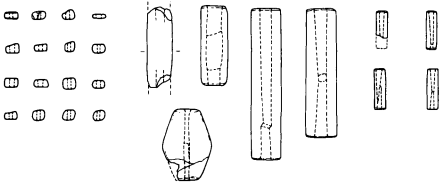
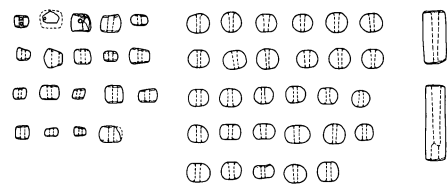
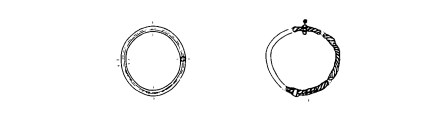
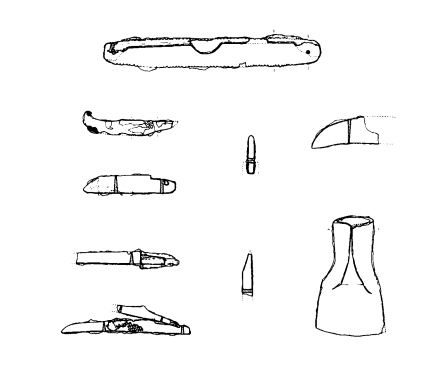
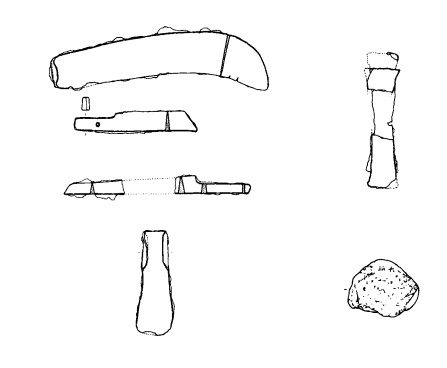
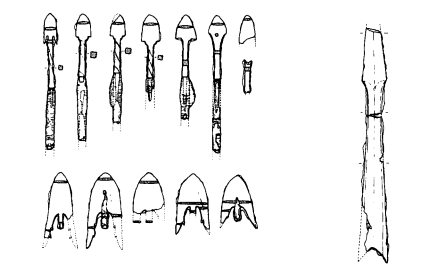
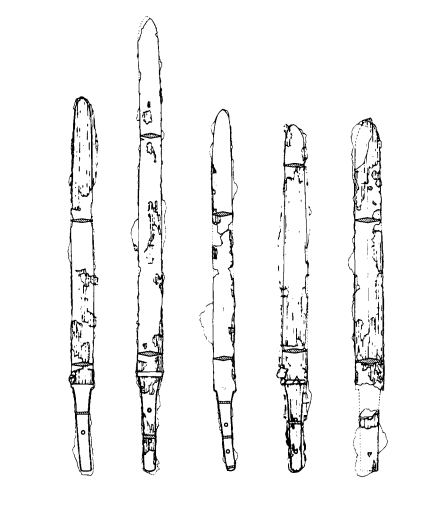
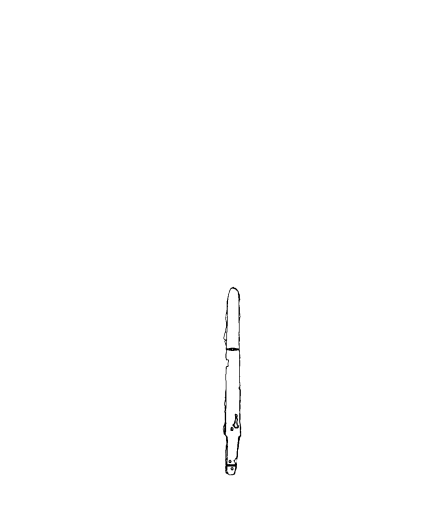
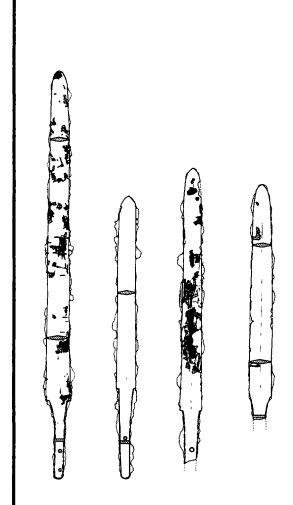
墳丘構築の過程で注目されるのが、盛土中から検出された鉄製の鍬先と2点の土製模造品である。主体部を設ける平坦面のやや下方に同一レベルで検出されている。墳丘構築時にたまたま紛れ込んだ可能性も否定できないが、土掘り具としての鍬先が当時貴重な農具であったことや土製の玉が穿孔されていない特殊なものである点を考えると、墳丘構築段階（主体部設置の平坦面形成段階）における祭祀行為が行われていた可能性も想定される。須恵器や土師器の高杯に団子状の土玉をのせて供献する例もあり、本墳から高杯が検出されていない状況下では、木製の容器の存在も考えられよう。土製模造品の一部が2点とも同様の剥離をして安定させるための平坦面を作り出していることも一つの根拠になろうか。

主体部は墳頂部に近い平坦面上に東西に3基並んで検出されたが、掘り方の重複関係から、第3主体部が先行し、後に第1・2主体部が設けられたようである。また、主体部設置付近の土層状況から、第3主体部を設置した後に封土で被覆し、第1・2主体部を設ける段階には、一旦墳頂部を広く掘り下げ、再度盛土をして2基の主体部を設置した可能性が強い。各主体部の位置を見ると、最初に掘り込まれた第3主体部は墳丘中心部より北東側にずれており、埋葬当初から本古墳の中心的な被葬者ではなかったことを示している。むしろ、後に掘り込まれた第1主体部が中心にあり、主体となる被葬者であろう。このことは、後述する副葬品の様相からも明らかである。

2. 副葬品

3基の主体部から検出された副葬品の組合せはそれぞれ特徴があり、興味深い様相を呈している。以下で、主な副葬品について種別ごとに説明する。

装身具 玉類の中で3基の主体部に共通して副葬されているのが滑石製の臼玉である。それぞれ200点前後で数量としてはほぼ同一である。この中では、最初の埋葬となる第3主体部で検出された臼玉が特徴的である。明確に分類することはできないが、臼玉の側面中央に最大径を有するいわゆる算盤玉状の形態を示すものが圧倒的に多い。臼玉では、算盤玉状を呈し、丁寧に作られるのが古い時期の特徴とされている。一方、第1・第2主体部では算盤玉状の形態が少なくなり、雑な作りが目立つようになる。この様相からすると、第3主体部から第1・第2主体部へとの変遷が窺える。臼玉の大きさをみても、第3主体部がほぼ均一化されているのに対して、第1・第2主体部にばらつきがみられる点もこの変遷を示している。これは、先述した各埋葬施設の掘り方の重複関係に一致している。

	第2主体部	第1主体部	第3主体部
滑石玉類	白玉 192点	白玉 195点	白玉 209点
玉類			
釧			
農工具・その他			
武器			
器			

玉類
2
3
0

釧
農工具
その他
20cm
1/8
0

剣
50cm
1/10
0

第51図 草刈1号墳の副葬品

銅釧については、断面形にやや違いがあるものの、大きさとしては同じ水系に属する千葉市上赤塚1号墳例ときわめて近似する¹⁾。

武器類 3基の主体部に共通して検出された武器は鉄剣のみである。全長の比較からすると、第2主体部が大形品(218)を除くとほぼ42cm～48cmの間に収まり、第3主体部が52cmの228以外は、30cm～38cmの間にあり、全体的に第3主体部の方が小さくなる傾向にある。一方、第1主体部の鉄剣は全長24cmと極端に小形である。この大きさに近似する例としては、村田川対岸に位置する新皇塚古墳の南榔から出土した短剣がある²⁾。また茨城県竜ヶ崎市桜山古墳出土の短剣は全長17.6cmとさらに小さいものである³⁾。これらはいずれも本古墳よりも古い時期の所産であり、さらに、第1主体部より先行する第3主体部には小形の鉄剣が含まれていないことから、鉄剣模造品となる可能性が強い。

鉄鏃は第2主体部西端からまとまって検出されている。大きく平根式と短頸式の2種に分類できるが、それぞれのタイプごとに意図的に分けて埋納しているようである。短頸式の鉄鏃は、身関の下端に方形の突起を有するタイプが主体である。このタイプは中期前半の古墳に比較的多くみられるが、身の形態や茎の長さなどばらつきが認められることから、定型化する前段階の様相を示しているようである。一方、平根式の鉄鏃には、重挟りが二段のもの一段のもの2種類がある。それぞれ身の形態や重挟りの位置がやや異なっており、前者同様定型化する以前の一群であろう。

農工具類 第1主体部と第2主体部で検出されたが、第2主体部の方が良好なセットを示している。この中で蕨手刀子と鋸が注目される。

蕨手刀子は中期古墳を中心に副葬されるが、当該地域では初見の例である。把の断面が通常長方形を呈するのに対し、本例は楕円形となる点で差違が認められる。しかも、把先端部の巻きが弱い。類似するタイプの例は管見では不明であるが、蕨手刀子の範疇に含められるものと考えられる。

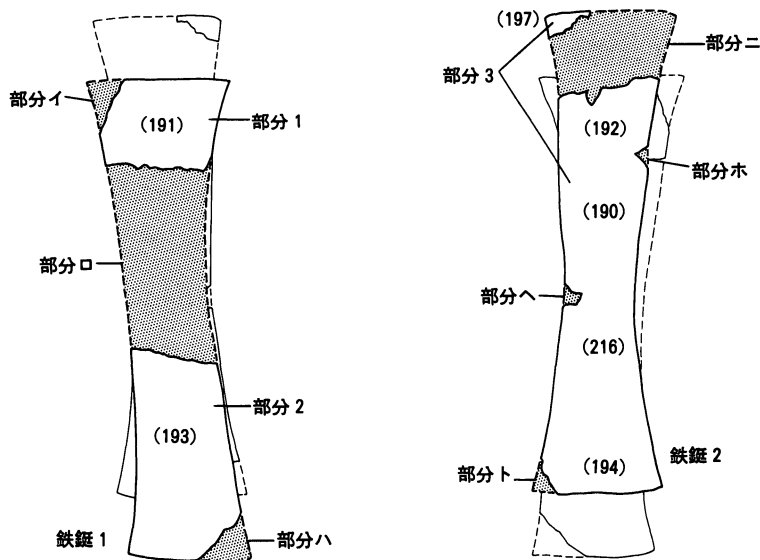
鋸は長方形を呈し、両端に目釘孔を有する両歯のタイプである。4世紀前半から古墳の副葬品として認められる古い時期のタイプに含まれる。本例については伊藤氏により既に紹介されており、その中で形状と着柄法からI類D型に分類している⁴⁾。着柄法は類例の少ないものであるが、両歯のI類が4世紀後半から5世紀前半を中心に確認されている現状は、本墳の年代を考える上で重要である。また、西日本に出土例が多いが、東国の当該期の例は、4世紀後半から末頃の築造とされる静岡県松林山古墳⁵⁾や山梨県大丸山古墳⁶⁾に見られるように、地域を代表する主要な古墳である点も注目しておきたい。

鉄錠 本古墳の副葬品の中で注目されるものに第1主体部から2枚検出された鉄錠がある。破損と錆化が認められたが、形状と重量が重要な要素となるため、数量的に復元してみた。

〈鉄錠の形状及び重量復元の方法〉

- ①形の復元/現存部を基に、図上で、左右及び上下が対称になるように欠損部を補い平面形を復元した。
- ②表面積の計算方法/現存部と欠損復元部に分けて、各表面積を出した。計測は、実測図上でプランメーター(PLANIX5000)を用いて行い、各部分5回計測したうち、中間の3計測値の平均をとった。
- ③重量の復元の条件/①で復元した平面形を基にし、厚さ1mm平均の平滑な鉄板とみなして、以下の作業を進めた。
- ④重量復元の方法/2枚分の表面積の遺存度と現存重量の比から、2枚分の重量を復元する。次に鉄錠1、鉄錠2の復元表面積の比に応じて各重量を割り出す。

復元の過程



第52図 鉄鋌復元模式図

現存部の表面積 $4,439\text{mm}^2$ (= 〈部分 1〉 662mm^2 + 〈部分 2〉 $1,300\text{mm}^2$ + 〈部分 3〉 $2,477\text{mm}^2$)

欠損部復元表面積 $1,910\text{mm}^2$ (= 〈部分イ〉 60mm^2 + 〈部分ロ〉 $1,133\text{mm}^2$ + 〈部分ハ〉 73mm^2 + 〈部分ニ〉 595mm^2 + 〈部分ホ〉 10mm^2 + 〈部分ヘ〉 13mm^2 + 〈部分ト〉 26mm^2)

復元された 2 枚の表面積の合計 $4,439 + 1,910 = 6,439\text{mm}^2$

表面積の残存率 $4,439/6,439 = 0.699$

2 枚の重量の復元値 (現存部重量 ÷ 残存率) $28.29 \div 0.699 = 40.462\text{g}$

平均重量復元値 $40.462/2 = 20.231\text{g}$

したがって、

鉄鋌 1 (復元表面積) $3,228\text{mm}^2$ (復元重量) 20.57g

鉄鋌 2 (復元表面積) $3,121\text{mm}^2$ (復元重量) 19.89g となった。

この結果から得られた重量は 1 枚 20g 前後であり、大量に副葬されていた奈良市の大和 6 号墳の小形鉄鋌の平均重量 20.8g にほぼ相当することが想定された。千葉県内の鉄鋌の出土例は、本古墳の付近に所在する千葉市南二重堀遺跡の 24 号竪穴住居跡である⁷⁾。本例より大形であり、分析結果から舶載品の可能性が強いものとされている。本例は錆のため地金がほとんど残っておらず判断はできないが、いずれにしても近接した地域で検出されたことには重要な意味があろう。草刈遺跡や近接する鎌取遺跡では古墳時代中期の小鍛冶遺構が確認されていることから、鉄素材としての性格が当然考えられるが、1 ないし 2 枚という極めて少ない枚数が示す意味は別の状況を考えてみる必要があるかもしれない。

以上のような様相から、草刈 1 号墳の構築された年代を考えてみよう。まず、中期古墳の大きな特徴である石製模造品が臼玉以外には認められないことが挙げられる。これは農工具類などの石製模造品埋納が普及する前段階を表しているとともに滑石製の勾玉も原形を忠実に表現しており、古い様相と考えられる。また、特徴的な形態を示す鉄鏃は前述したように中期前半でも古いタイプである。このような状況から、

本古墳の構築年代は、古墳時代中期前半でも比較的古い段階と想定され、実年代では4世紀末ころとなろうか。主体部の設置順序は、掘り方の切り合いから、第3主体部が最初に掘り込まれ、後に第1・第2主体部がほぼ同時に構築されたことは明かであり、白玉のタイプから後の埋葬施設が5世紀段階に入る可能性もある。そして、副葬品の内容及び墳丘内における位置関係から、第1・第2主体部が本古墳の中心的な埋葬施設となる。

第2節 草刈1号墳の位置付け

前節で示した草刈1号墳の年代観を基に、村田川水系の主要な大形円墳との関係を考えてみたい。本古墳が立地する草刈遺跡には、前期から後期にかけての多くの古墳が調査されている。そのほとんどが整理されていない状況であり、その進展によって本古墳の位置はさらに明らかになってくると思われる。ここでは現段階で把握できる様相を呈示することとする。

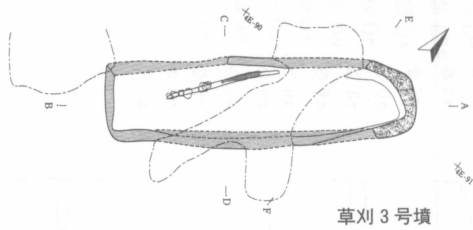
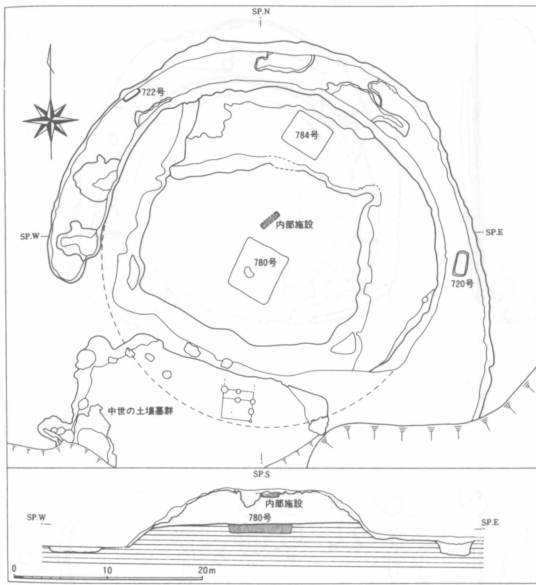
草刈遺跡の範囲の中に含めることができる草刈六之台遺跡にある草刈3号墳は、墳丘径35mの円墳であるが、埋葬施設は長さ2.4mと大形円墳としては小さく、副葬品も直刀一振りと少ない。周溝から出土した土器群や直刀の形態から古墳時代前期中頃の構築時期が想定されているが、周溝内の滑石製腕飾の出土状況を墳頂部からの流れ込みと考え、中期前半に墳頂部に新たな埋葬施設を設けた可能性が高いとしている⁸⁾。

1号墳との前後関係は、比較する材料が少ないため明らかではないが、3号墳の滑石製腕飾と極めて近いタイプの例が千葉市七廻塚古墳で確認されている⁹⁾。この古墳は、墳丘径54m、高さ8.8mの大形円墳で、2基の埋葬施設から、鉄製の武器や農工具のほかに滑石製の立花や刀子などの模造品が出土している。草刈1号墳が、滑石製模造品を本格的に副葬する前段階の所産であることが正しいとすれば、七廻塚古墳は一段階新しい築造時期が考えられ、滑石製腕飾の類似性から導き出される3号墳の再利用時期も1号墳より新しくなる。ただし、3号墳の構築時期が1号墳よりも古い年代となることは、遺物の様相はもちろん、3号墳が草刈遺跡の中でもより村田川に近い突出した舌状台地の先端部に立地をしていることから類推されよう。

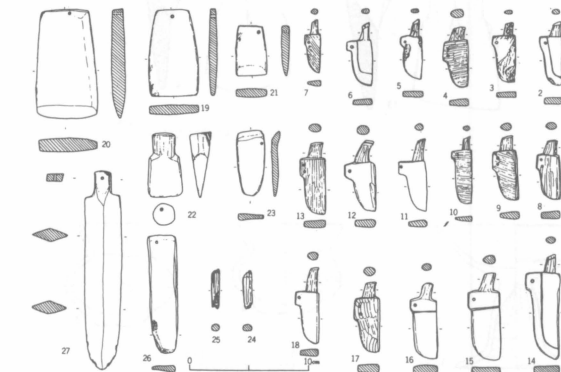
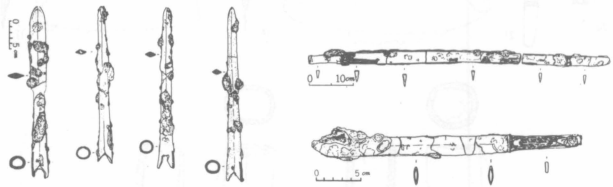
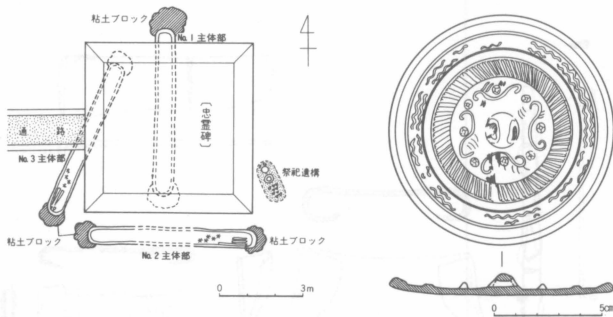
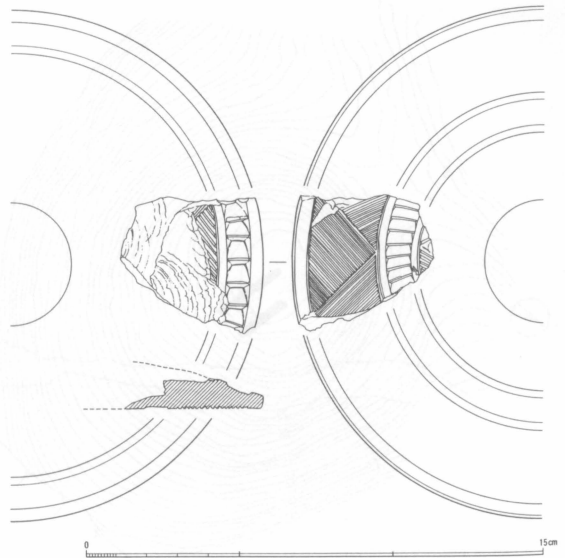
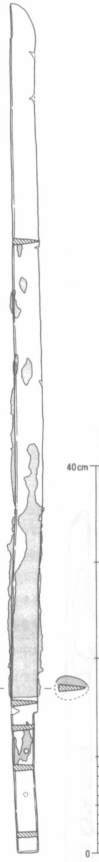
同水系の大形円墳としては墳丘径31mを測る千葉市上赤塚1号墳がある。墳頂部の2基の埋葬施設から鉄製の武器や農工具のほかに滑石製の石枕、立花及び各種の模造品が出土している。滑石製模造品の本格的副葬という点では同様の時期を想定できるが、詳しくみるとやや時期差が認められる。報文では立花の形態から上赤塚1号墳が七廻塚古墳より先行する時期であるとしているが、伴出する土師器に比較資料がなかったため明確ではなかった。ところが、滑石製腕飾の存在からほぼ同時期であろうとされる草刈3号墳の再利用時期を示す周溝の上層から出土した土師器は上赤塚例より新しい様相があり、ここからは、上赤塚1号墳が七廻塚古墳の前段階に位置する可能性が強い。

以上の点から、草刈3号墳（構築時期）→草刈1号墳→上赤塚1号墳→七廻塚古墳・草刈3号墳（再利用時期）という変遷が窺えそうである。

一方、村田川を挟んだ対岸には市原市大厩浅間様古墳が調査されている¹⁰⁾。正式な報告書が刊行されていないが、墳丘径43mほどの大形円墳である。墳頂部に木棺直葬の埋葬施設が3基検出されており、その内の中心的な施設は全長10.7mにも及ぶ。珠文鏡や石釧、玉類が中心であり、先述の大形円墳とは若干様相が異なってくる。築造時期については明確ではないが、副葬品及び墳丘斜面から出土した底部穿孔の

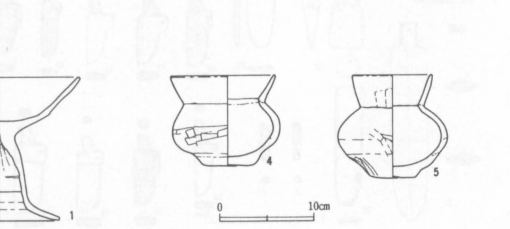
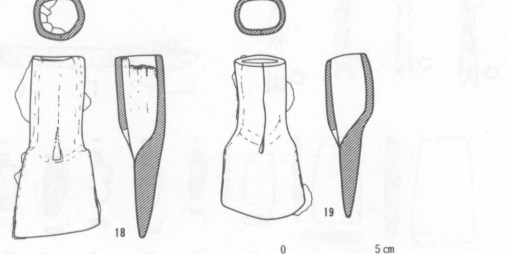
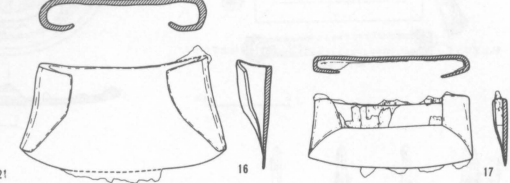
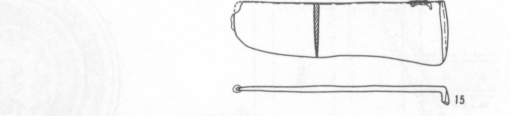
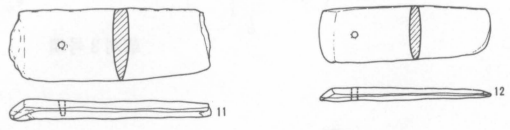
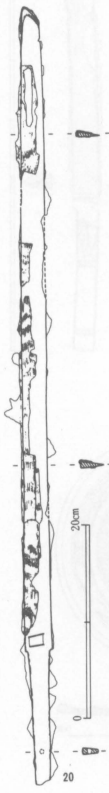
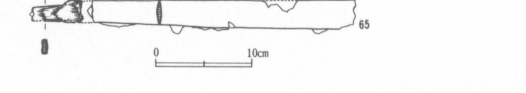
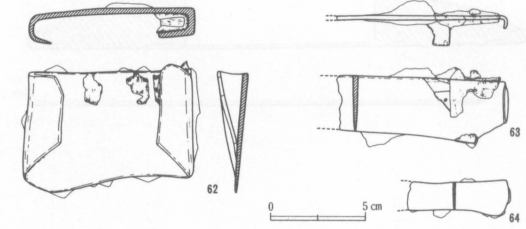
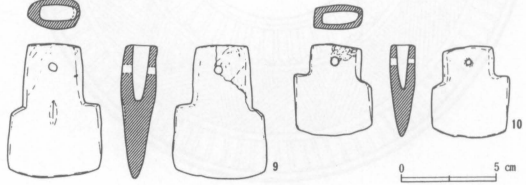
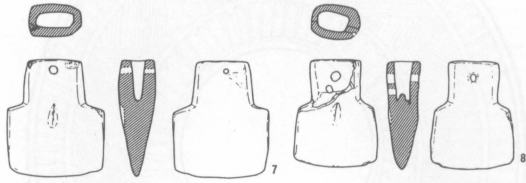
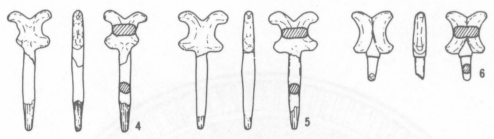
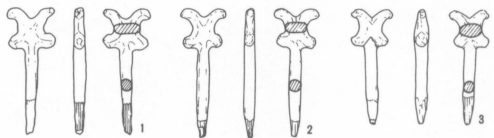
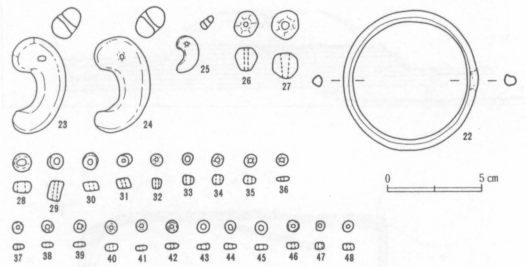
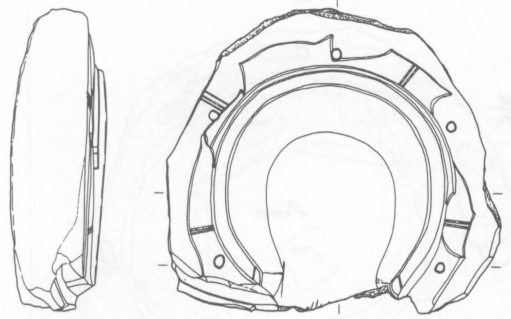


草刈 3号墳

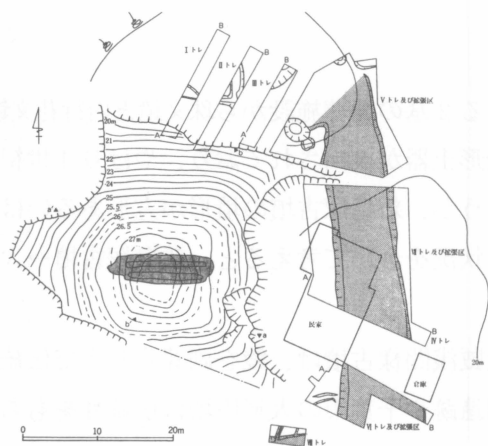


七廻塚古墳

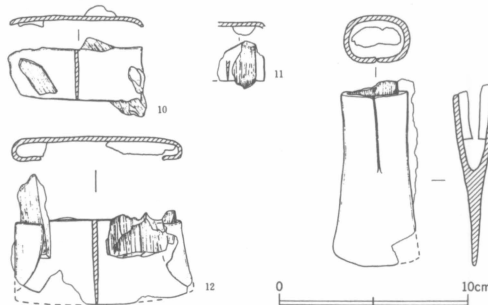
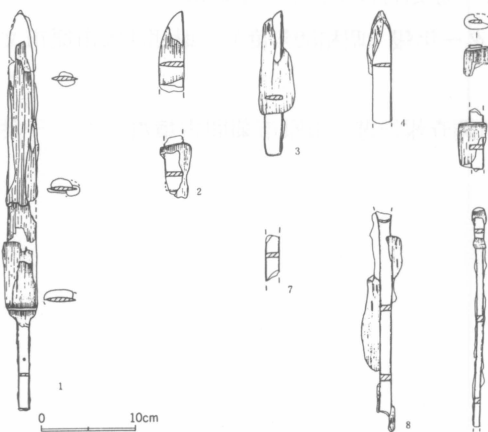
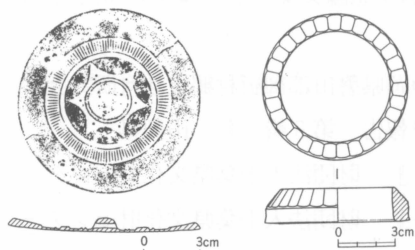
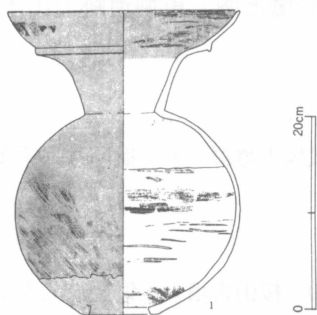
第53図 草刈 3号墳と七廻塚古墳 (報文から転載)



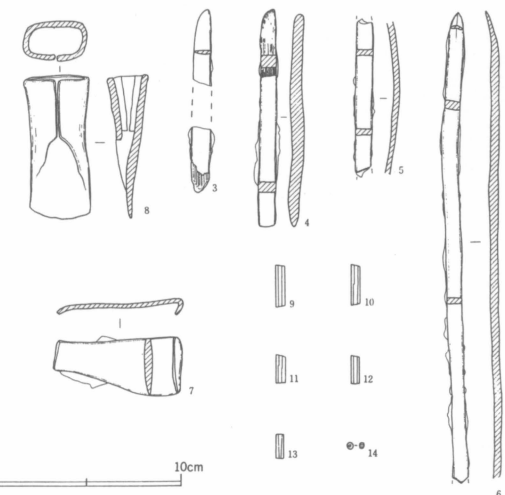
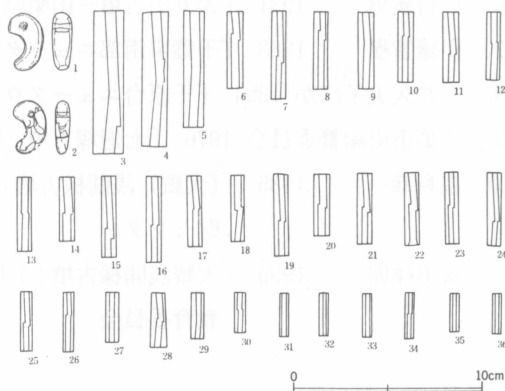
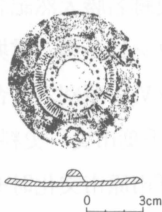
第54図 上赤塚1号墳 (報文から転載)



菊間新皇塚古墳



大厩浅間様古墳



第55図 菊間新皇塚古墳と大厩浅間様古墳 (報文から転載)

壺形土器から4世紀後半段階と考えられている。

同じ市原市の新皇塚古墳では、墳頂部の良好な粘土槨内にある2基の埋葬施設から珠文鏡と内行花文鏡、石釧や鉄製農工具などが検出された。周溝内から底部穿孔の壺形土器が検出されており、やはり4世紀後半の築造年代が想定されている。かなり近い時期の築造であろうが、新皇塚古墳の墳形が方形あるいは前方後方形を呈しており、草刈遺跡の方形墳から円墳へ移行する状況を含めて考えると、新皇塚古墳→大厩浅間様古墳という流れを想定できそうである。

このようにみえてくると、村田川を境にして南岸に所在する大厩浅間様古墳は、鏡を副葬する点で伝統的な前期古墳の流れを窺うことができるが、北岸に位置する草刈遺跡や千葉市の大形円墳は伝統性をもちながらも特殊な滑石製腕飾や石枕・立花及び滑石製模造品に代表されるように新たな展開をする地域として捉えることも可能であろう。このような観点から考えると、草刈1号墳と南二重堀遺跡で出土した鉄鋌のもつ意味が明らかになってくるのかもしれない。

- 注1 栗田則久 1982 『千葉東南部ニュータウン13-上赤塚1号墳・狐塚古墳群-』 財団法人千葉県文化財センター
- 2 斎木勝ほか 1974 『市原市菊間遺跡』 財団法人千葉県都市公社
- 3 小泉光正 1990 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書20 桜山古墳』 財団法人茨城県教育財団
- 4 伊藤 実 1993 「日本古代の鋸」『考古論集-潮見 浩先生退官記念論文集-』 潮見浩先生退官記念事業会
- 5 後藤守一ほか 1939 『静岡県磐田郡松林山古墳発掘調査報告』 静岡県磐田郡御厨村郷土教育研究会
- 6 仁科義男 1931 『大丸山古墳-山梨県史跡名勝天然記念物調査報告 第5輯-』 山梨県
- 7 伊藤智樹 1983 『千葉東南部ニュータウン12-南二重堀遺跡-』 財団法人千葉県文化財センター
- 8 白井久美子ほか 1994 『千原台ニュータウンVI-草刈六之台遺跡-』 財団法人千葉県文化財センター
- 9 千葉市史編纂委員会 1976 「七廻塚古墳」『千葉市史 史料編1 原始古代中世』 千葉市
- 10 浅利幸一 1985 「(大厩)浅間様古墳」『市原市文化財センター年報 昭和59年度』 財団法人市原市文化財センター
- 永沼律朗 1995 「大厩浅間様古墳」『千葉県重要古墳群測量調査報告書-市原市菊間古墳群-』 千葉県教育委員会

写真図版





1 村田川の川べりからみた草刈1号墳の立地（南から）



2 調査前近景（北西から）



3 表土除去後近景（北西から）



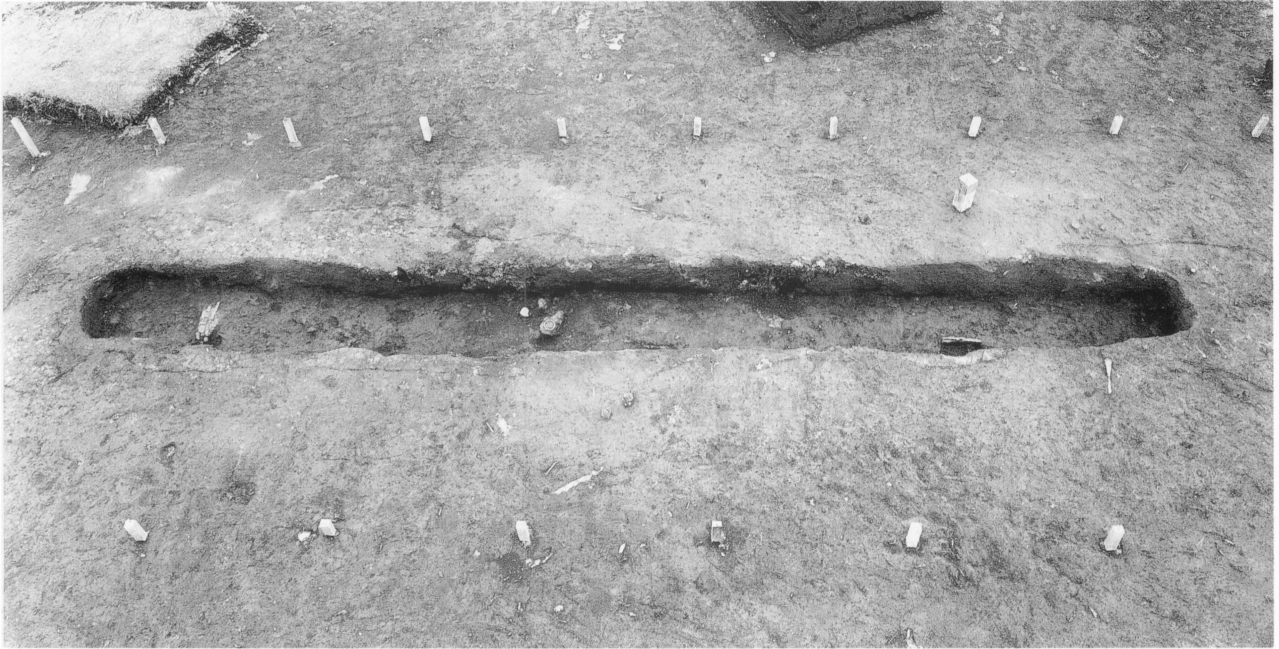
1 第1主体部 粘土範囲検出状況（北西から）



2 第1主体部 発掘状況（南東から）



3 第1主体部 発掘状況（東から）



1 第1主体部 遺物出土状況 全景（北東から）



2 第1主体部 遺物出土状況 集中1（南西から）



3 第1主体部 遺物出土状況 集中3（南西から）



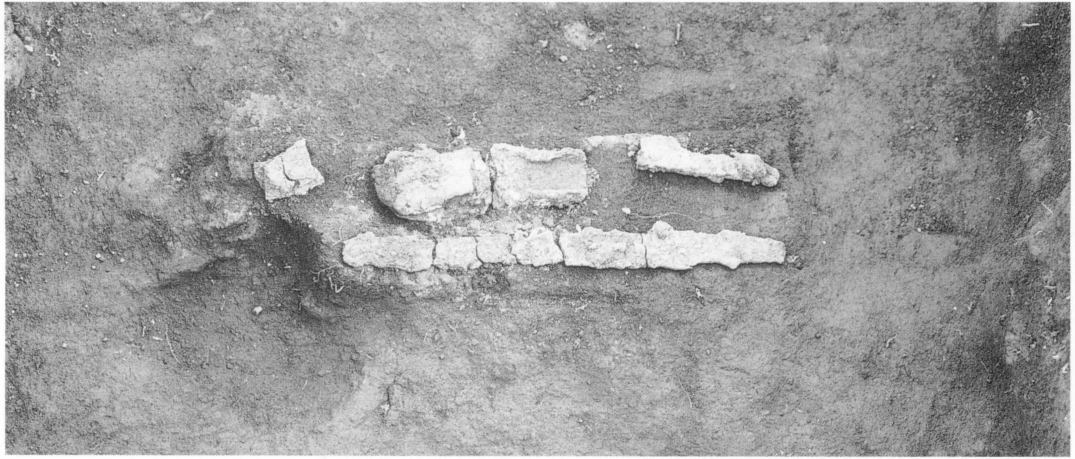
1 第1主体部 遺物出土状況 集中3～集中5 (北東から)



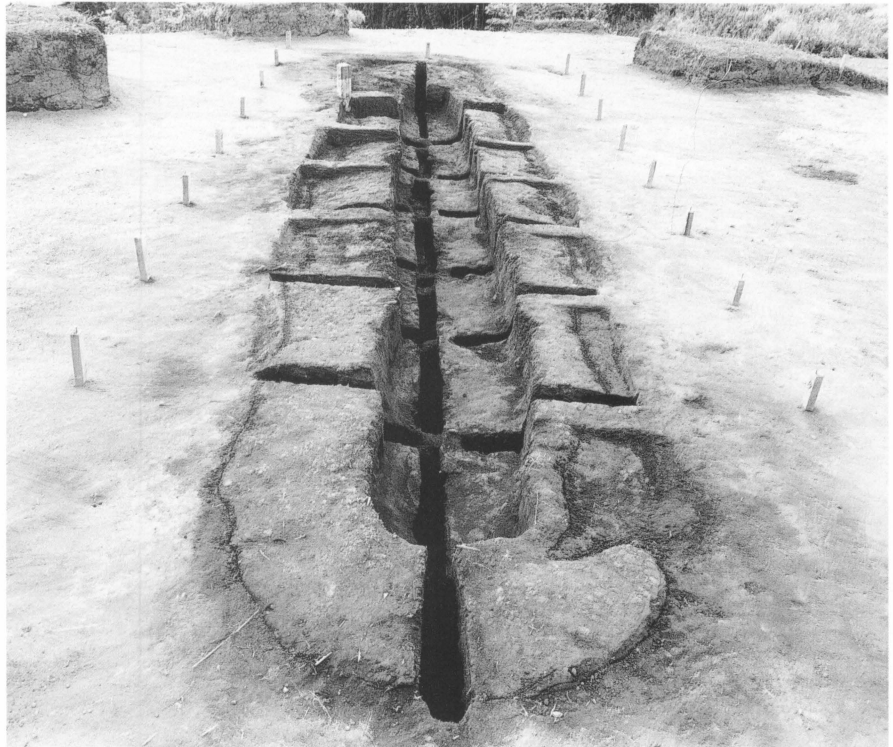
2 第1主体部 遺物出土状況 集中5 (北西から)



3 第1主体部 遺物出土状況 集中5 (北西から)



1 第1主体部 遺物出土状況 集中6 (北西から)



2 第1主体部 埋葬施設の構造 (南東から)



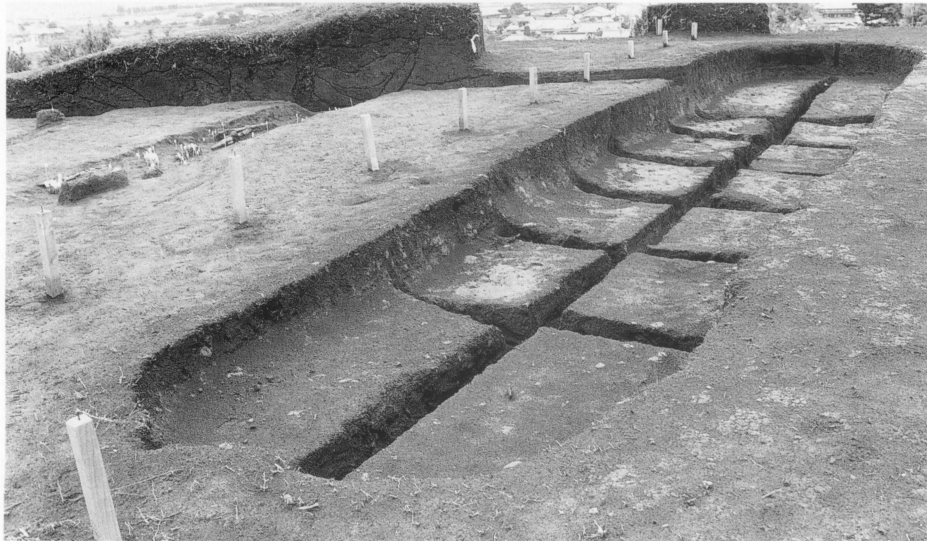
3 第1主体部 埋葬施設の構造 (北西から)



1 第1主体部 埋葬施設の構造 北西部分（南西から）



2 第1主体部 埋葬施設の構造（北西から）



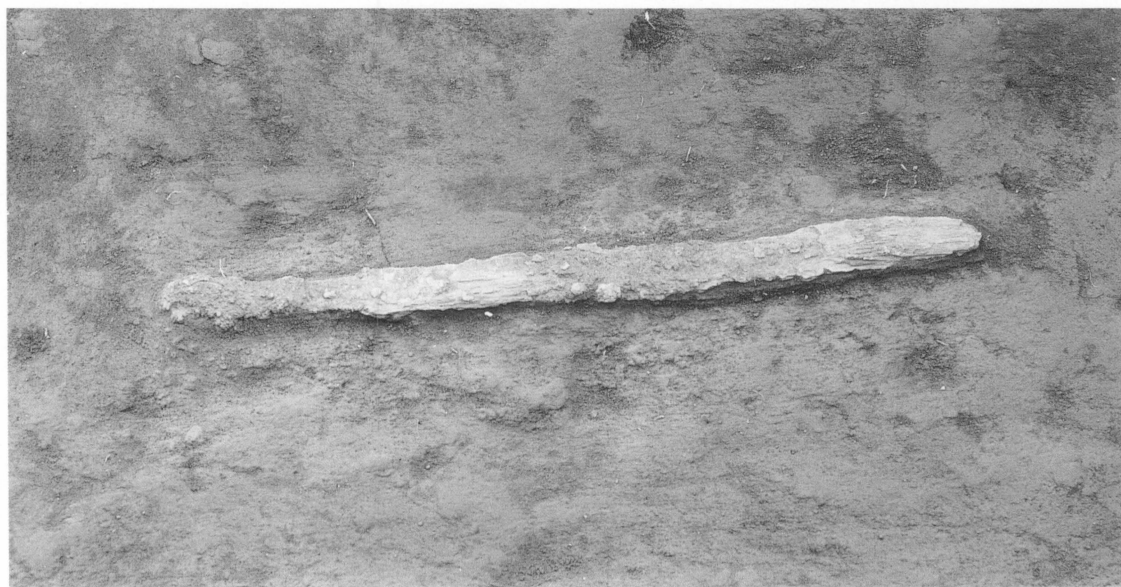
3 第1主体部 埋葬施設の構造（東から）



1 第2主体部 発掘状況（南東から）



2 第2主体部 遺物出土状況 全景（北東から）



3 第2主体部 遺物出土状況 集中1（北東から）



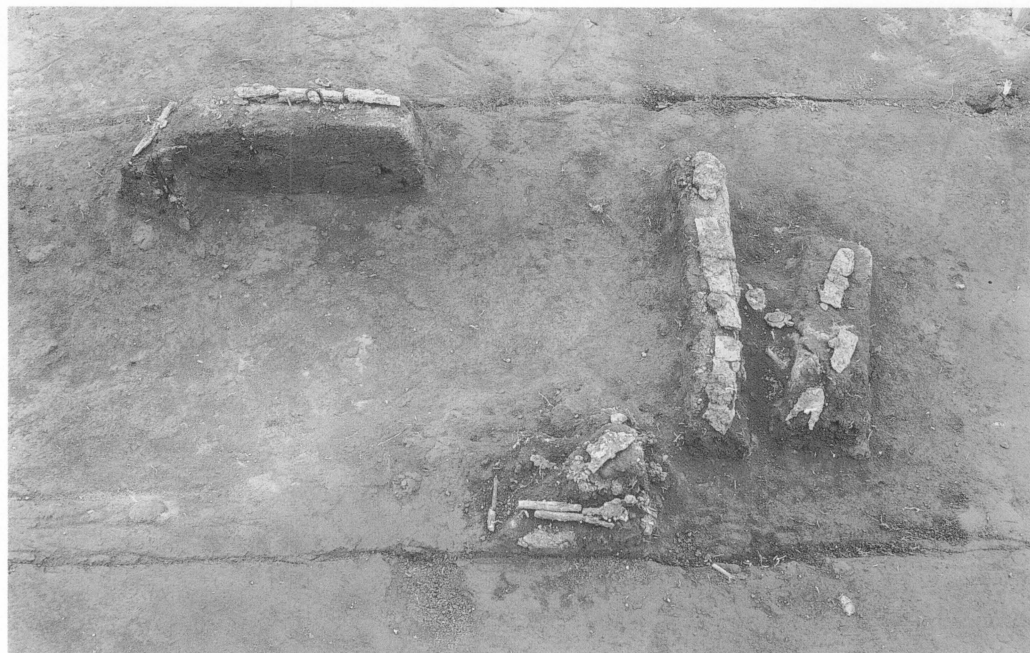
1 第2主体部 遺物出土状況 集中3～集中5 (北東から)



2 第2主体部 遺物出土状況 集中5 (北東から)



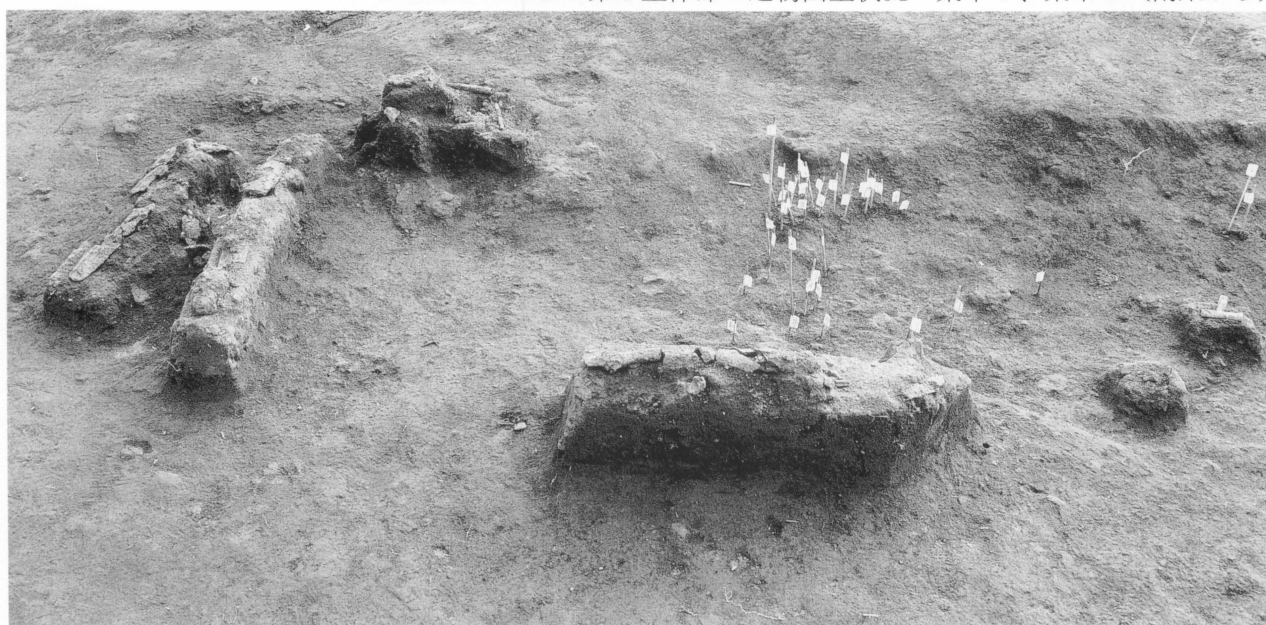
3 第2主体部 遺物出土状況 集中6 (北東から)



1 第2主体部 遺物出土状況 集中8、集中9 (南西から)



2 第2主体部 遺物出土状況 集中8、集中9 (南東から)



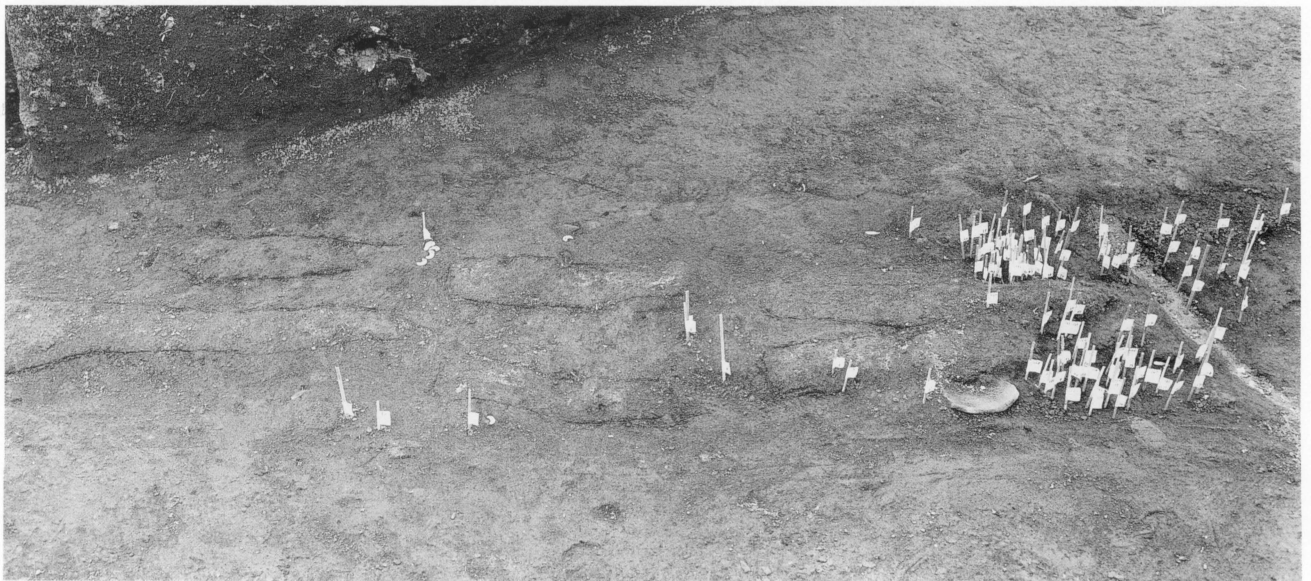
3 第2主体部 遺物出土状況 集中7～集中9 (北東から)



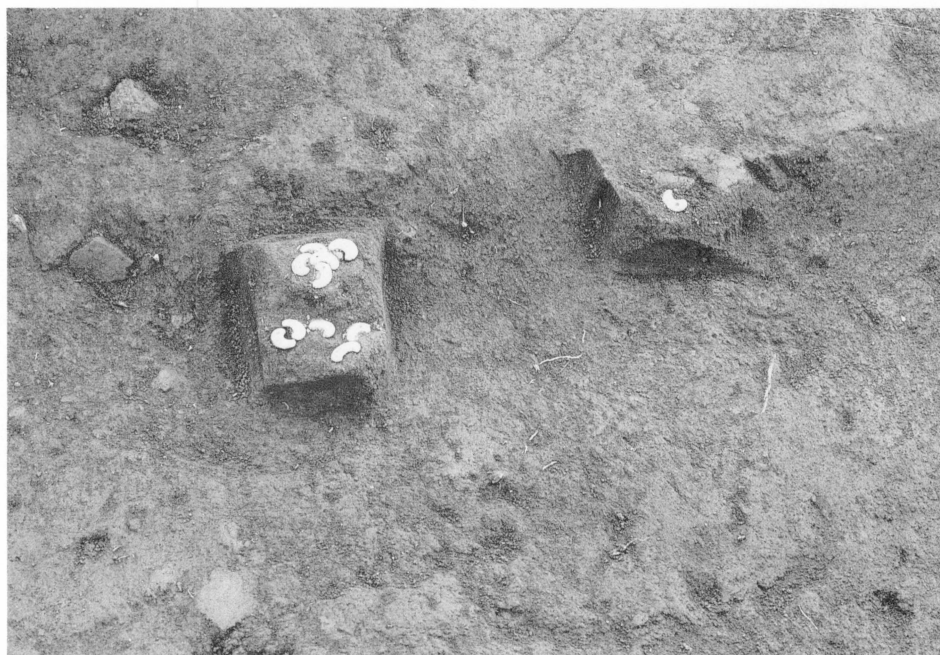
1 第3主体部 発掘状況（東から）



2 第3主体部 発掘状況 東部分（西から）



3 第3主体部 遺物出土状況 集中3～集中5（北東から）



1 第3主体部 遺物出土状況 集中5 (北東から)

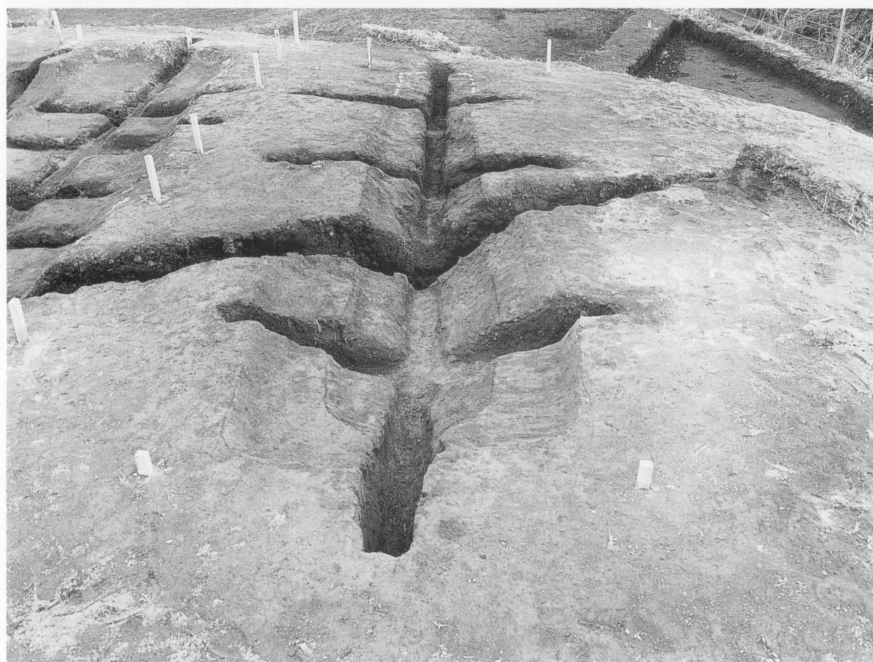


2 第3主体部 遺物出土状況 全景 (南東から)

3 第3主体部 遺物出土状況 全景 (北西から)



1 埋葬施設の配置 手前から第3・1・2主体部（北東から）



2 第2主体部 埋葬施設の構造（北西から）



3 第3主体部 埋葬施設の構造（北西から）



1 発掘調査後 全景（東から）



2 発掘調査後 全景（北東から）



3 周溝 北東部分（西から）



1 周溝 北部分 (南西から)



2 周溝 南東部分 (西から)



3 周溝 (北から)



1 周溝 東西土層断面 東部分 (南から)



2 周溝 南西-北東土層断面 北東部分 (南東から)



3 墳丘盛土 土層断面 (南東から)



1 墳丘盛土 東西土層断面 東部分（南から）



2 墳丘盛土 南北土層断面（東から）



3 墳丘盛土 南北土層断面 中央部分（東から）



1 墳丘盛土 北西-南東土層断面 北西部分 (南西から)



2 墳丘盛土 南西-北東土層断面 北東部分 (南東から)



3 墳丘盛土 北西-南東土層断面 南東部分 (南西から)



1 墳丘盛土 南北土層断面 南部分（東から）



2 墳丘盛土 南北土層断面 北部分（東から）



3 墳丘盛土 南西-北東土層断面 南西部分（南東から）



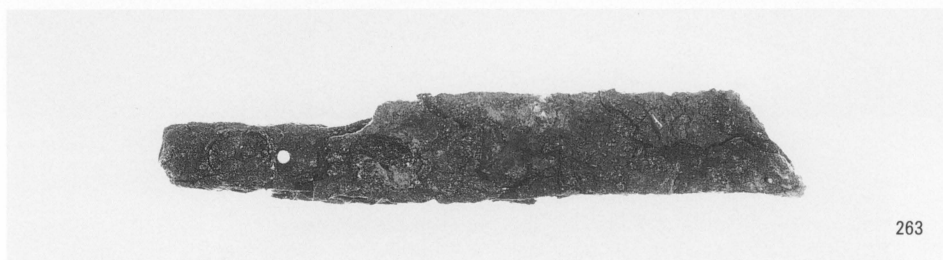
1 墳丘盛土 東西土層断面 西部分 (南から)



2 墳丘下の遺構 (北から)



3 墳丘下の遺構 (北東から)



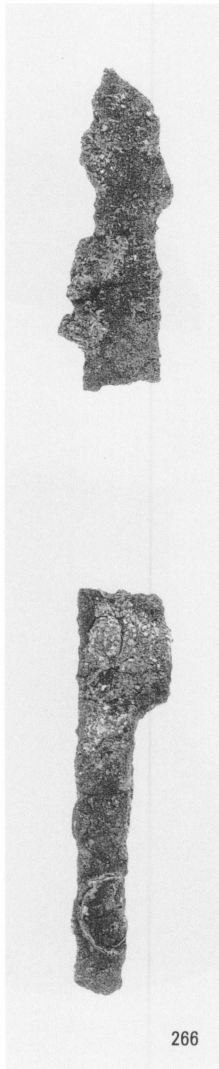
第1主体部出土遺物



264



265



266



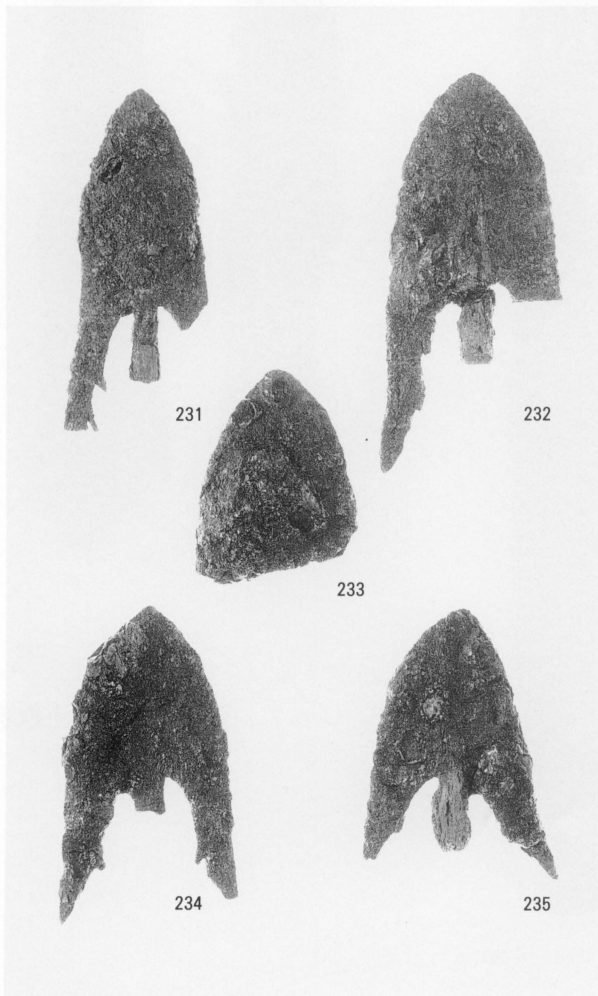
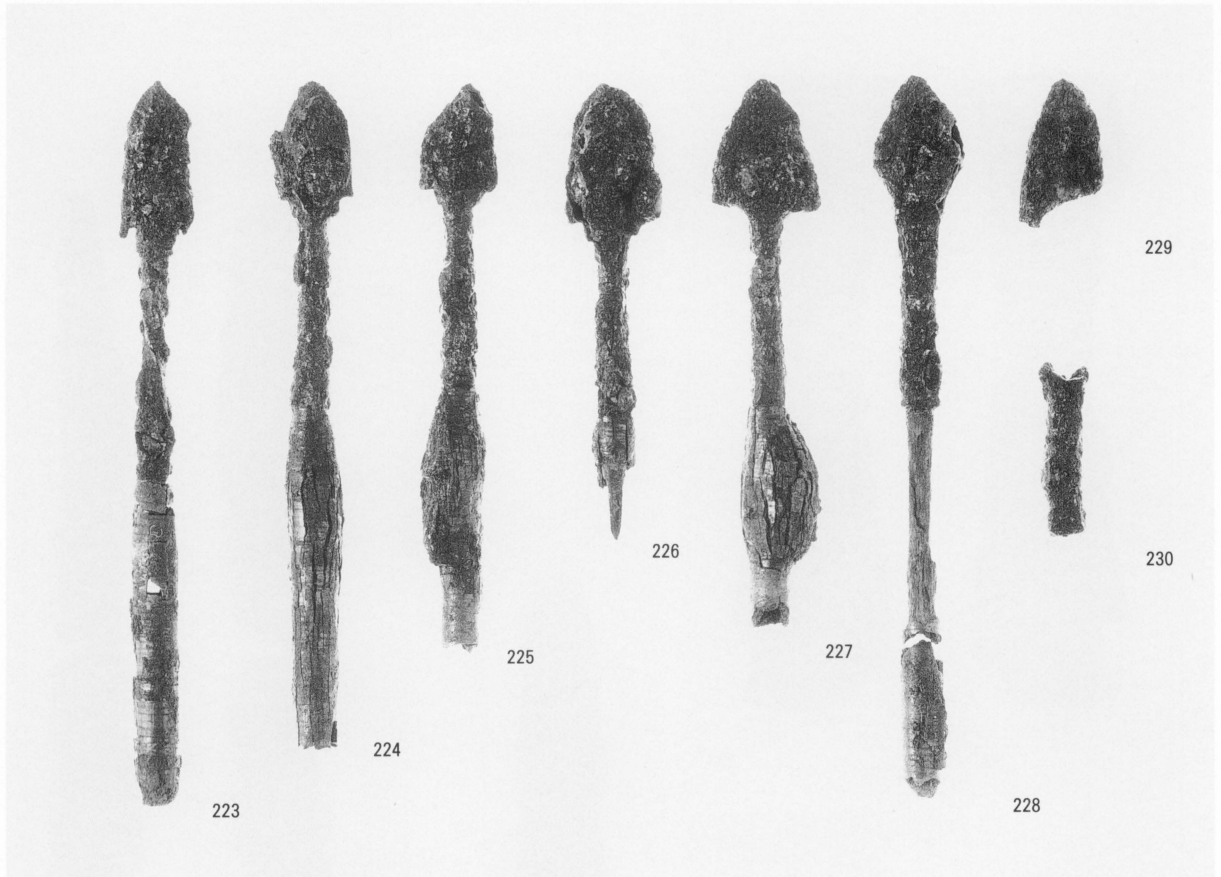
267



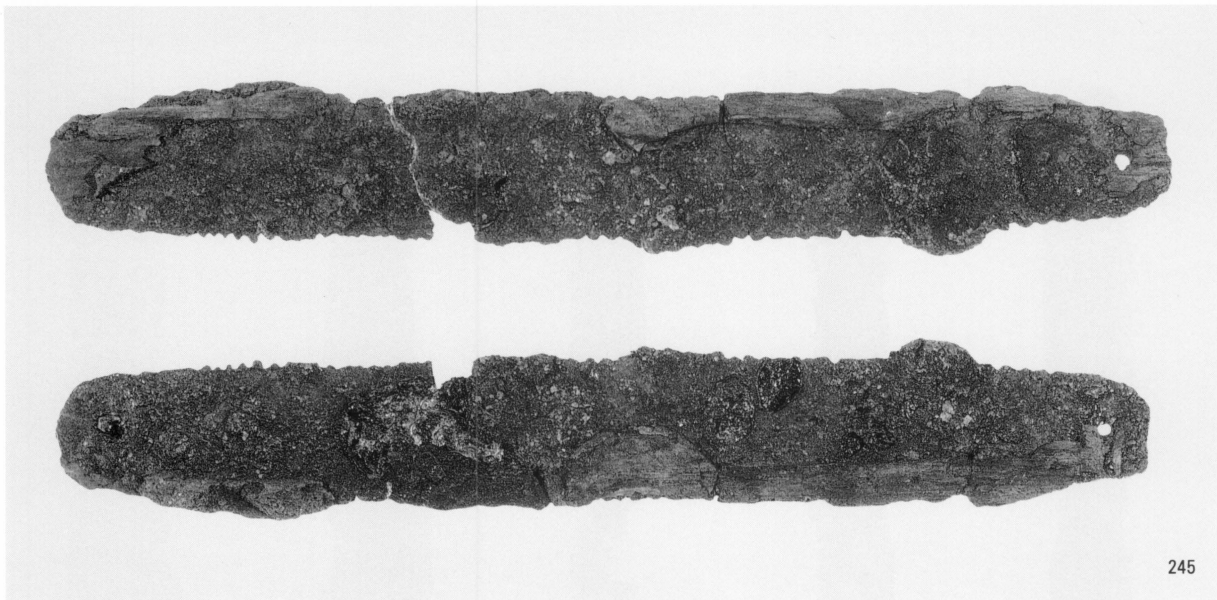
222

第2 主体部出土鉄矛

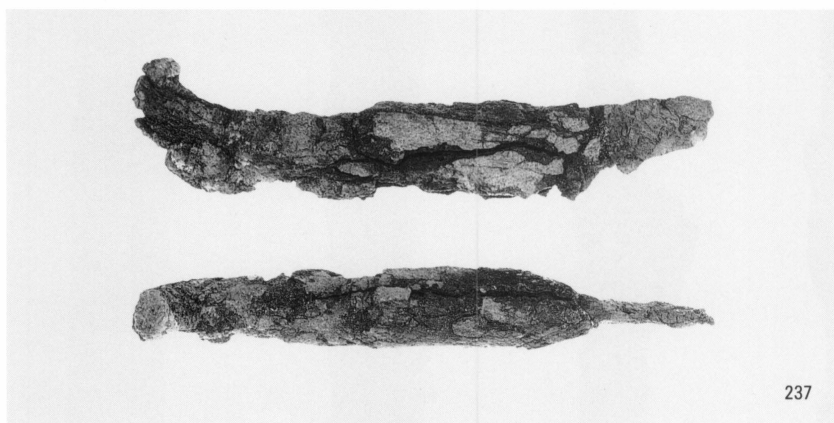
第1 主体部（東部）出土鉄製品



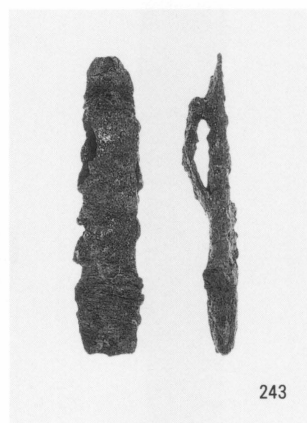
第2 主体部出土鉄製品



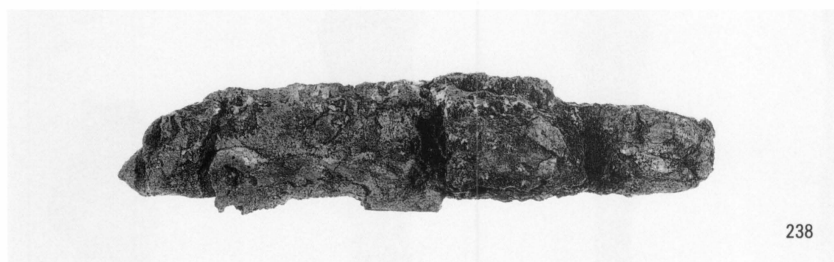
245



237



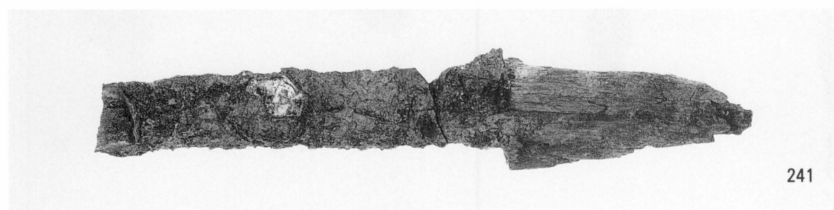
243



238



244



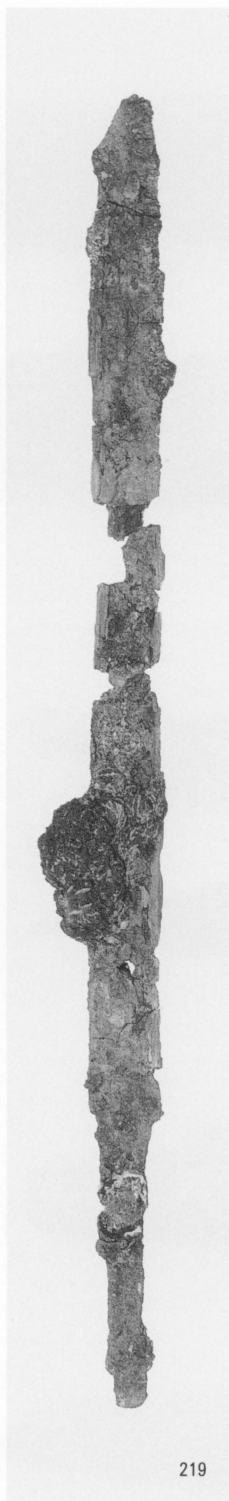
241



239

240

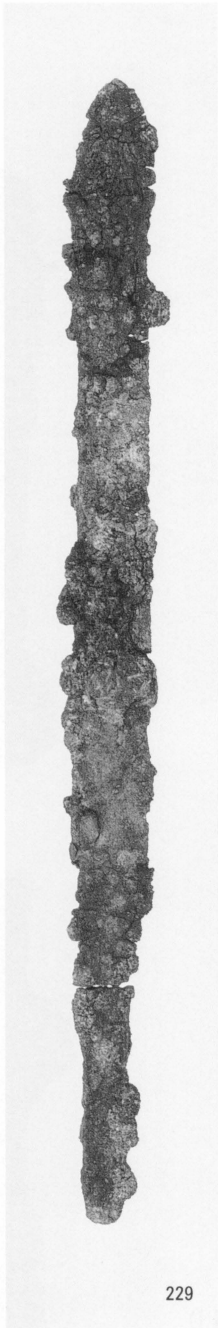
第2主体部出土鉄製品



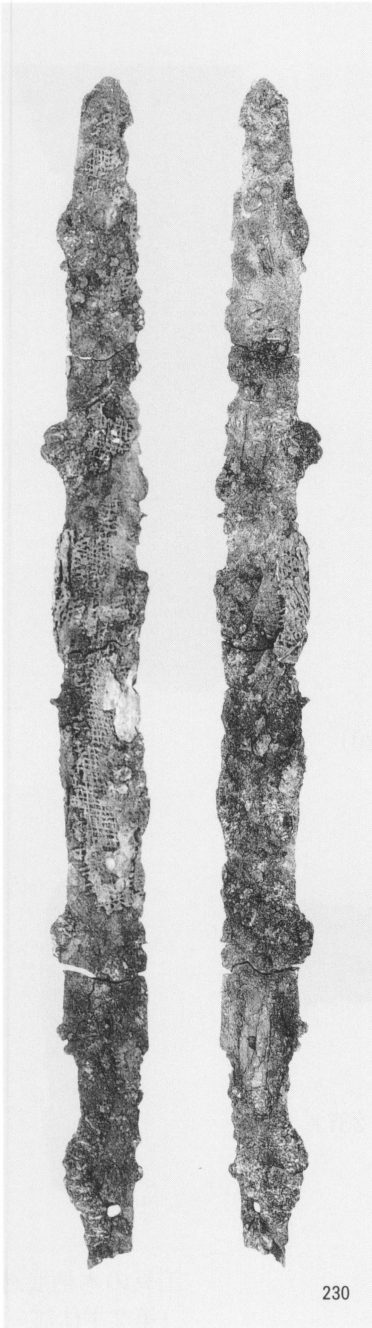
第2 主体部出土鉄剣



228



229



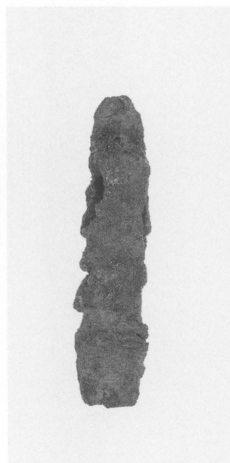
230



231

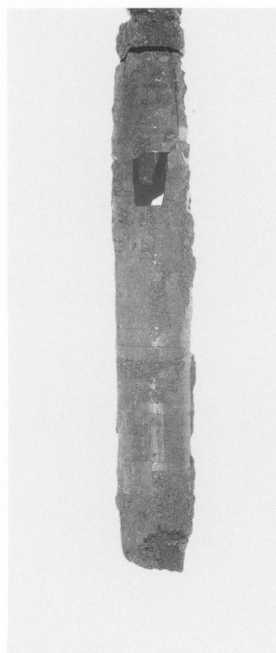


鉄剣装具の痕跡 (第2主体部-220)



蕨手刀子の付着物 (第2主体部-237)

工具の木柄痕跡
(第2主体部-243)



鉄鍬口巻部分
(第2主体部-223)



軽石の磨滅面 (第1主体部-259)



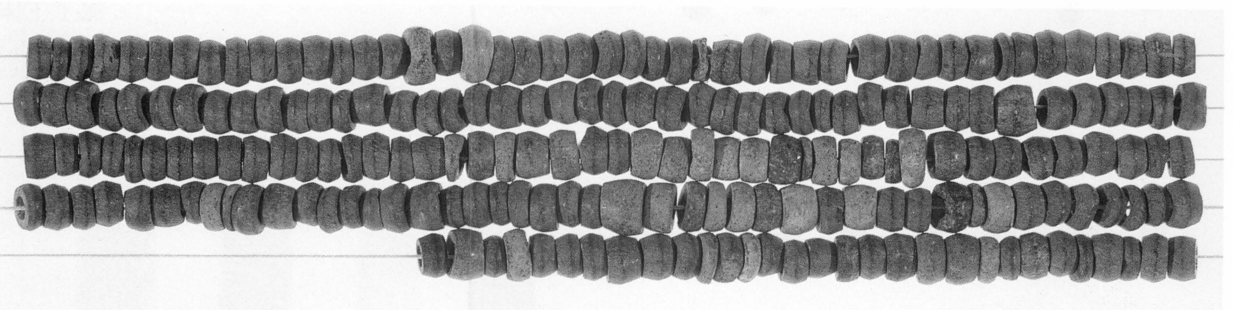
鉄剣に付着した布
(第3主体部-230)



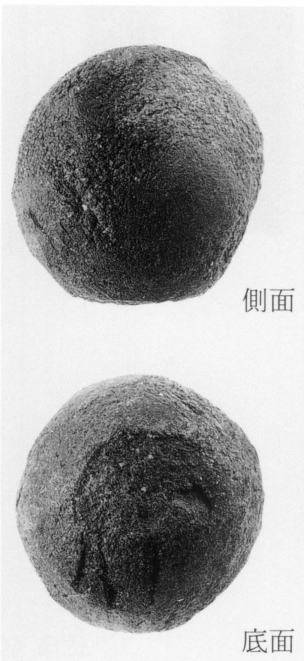
第1 主体部滑石製白玉



第2 主体部滑石製白玉



第3 主体部滑石製白玉



2区-302

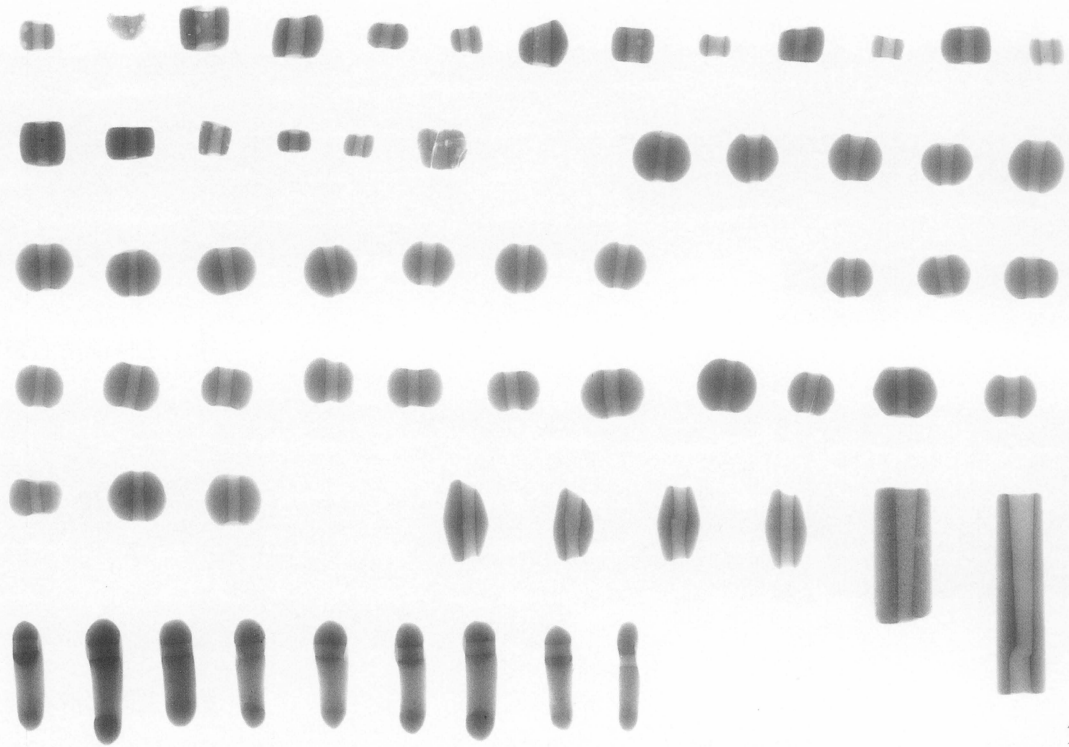


2区一括

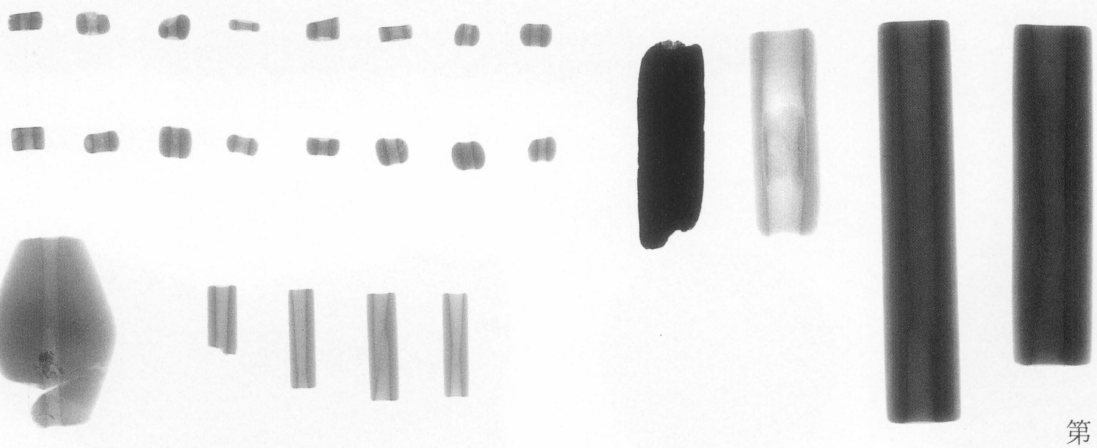


2区-303

墳丘盛土内上層出土の土製模造品と鋏先



第1主体部



第2主体部



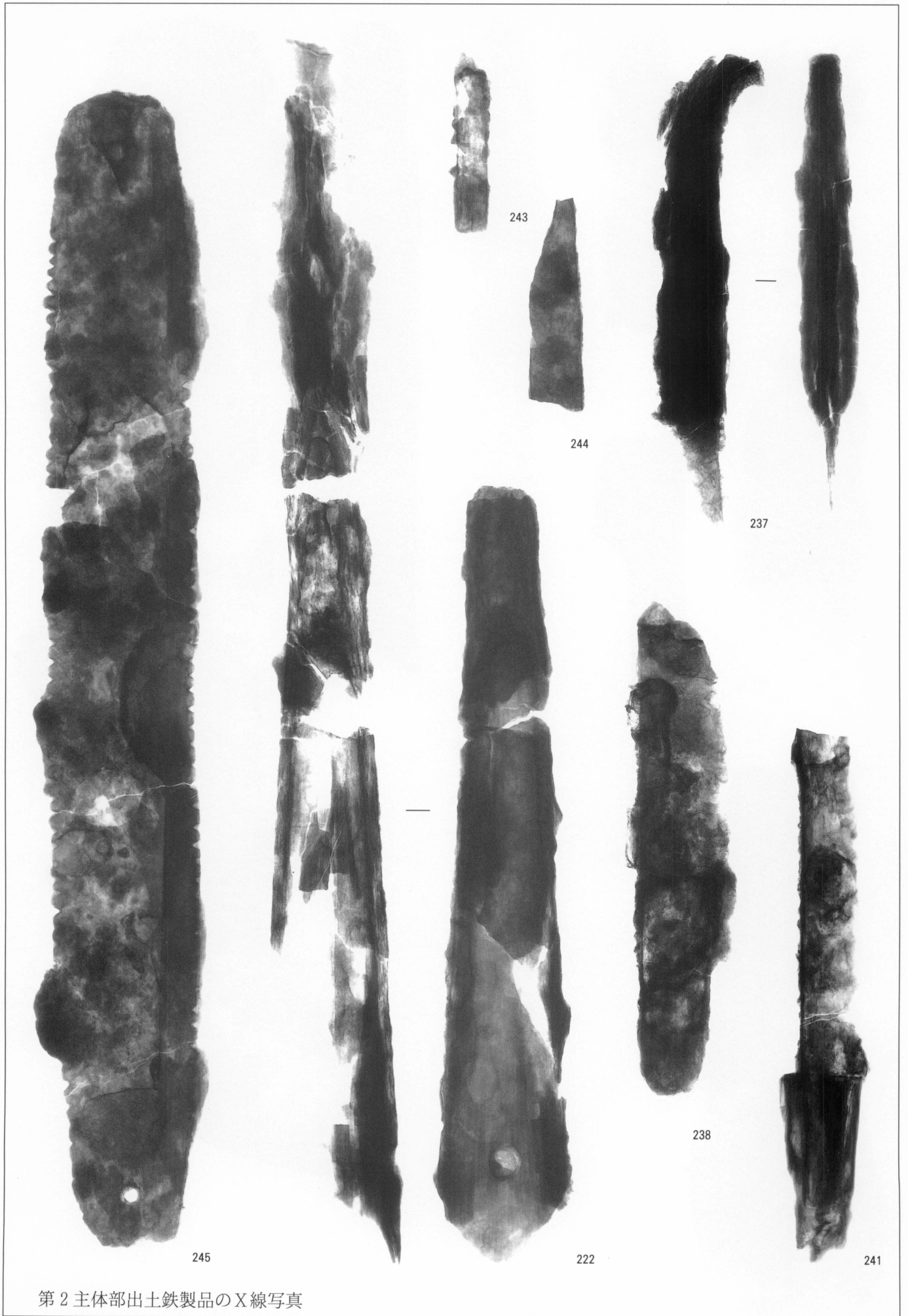
第3主体部



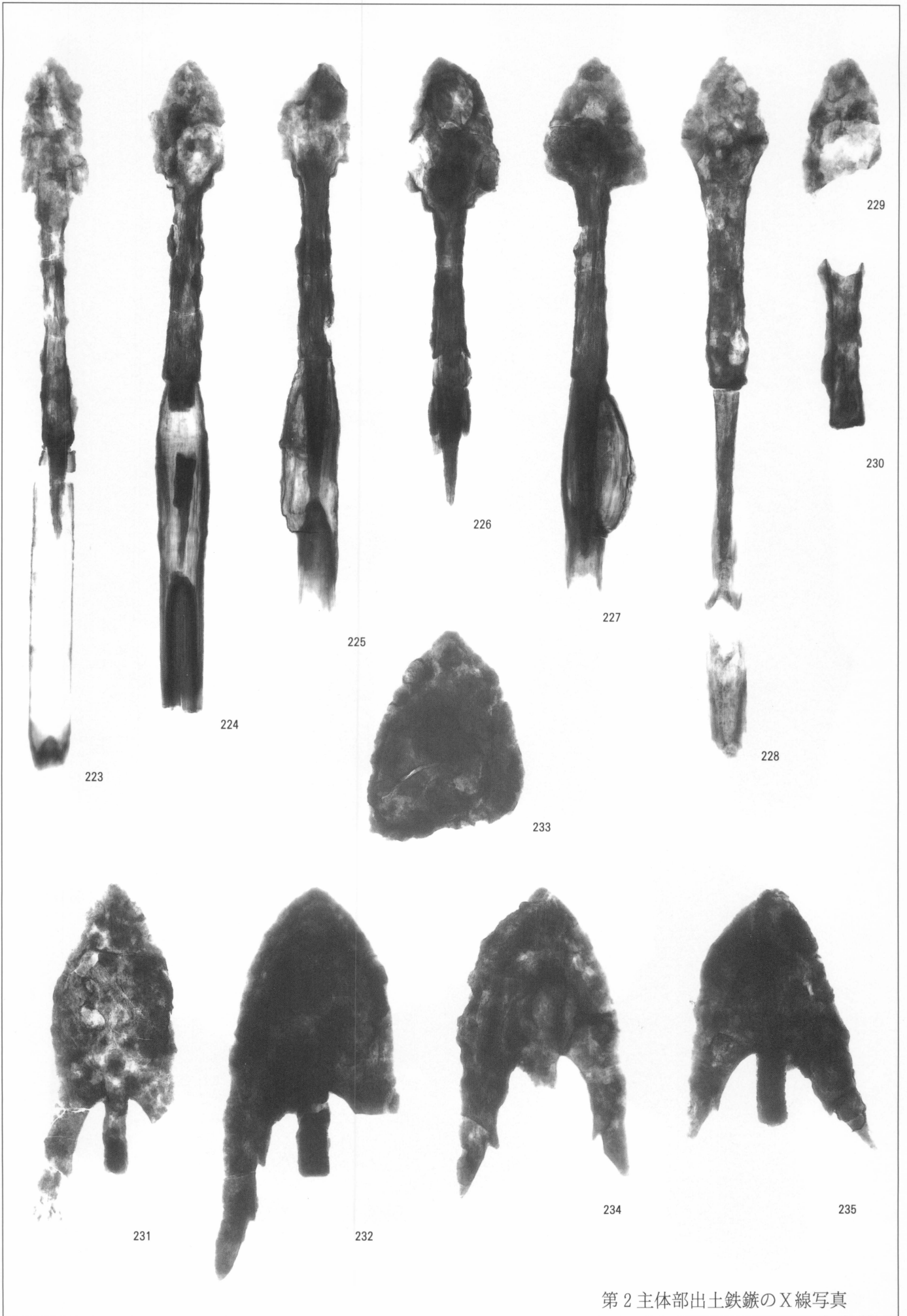
周溝(2区)
237



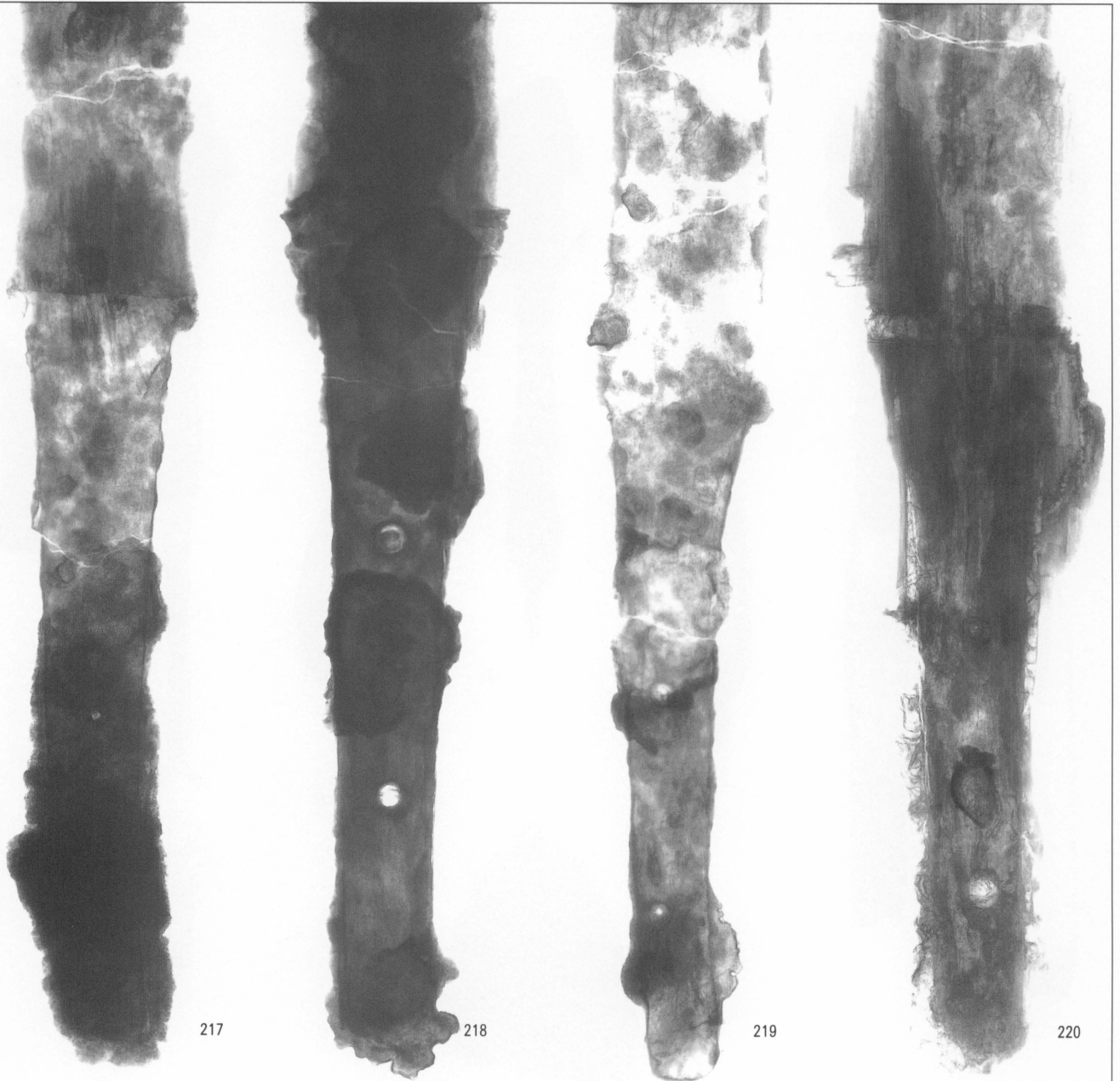
第1 主体部出土鉄製品のX線写真



第2 主体部出土鉄製品のX線写真



第2主体部出土鉄鏃のX線写真



217

218

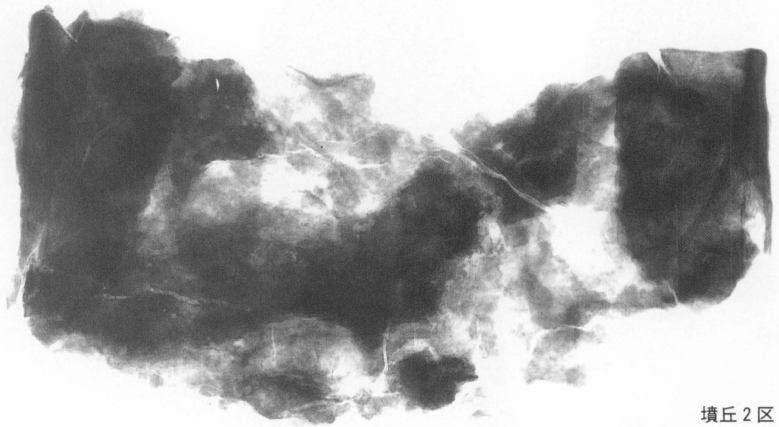
219

220

第2主体部
217~221 (部分)

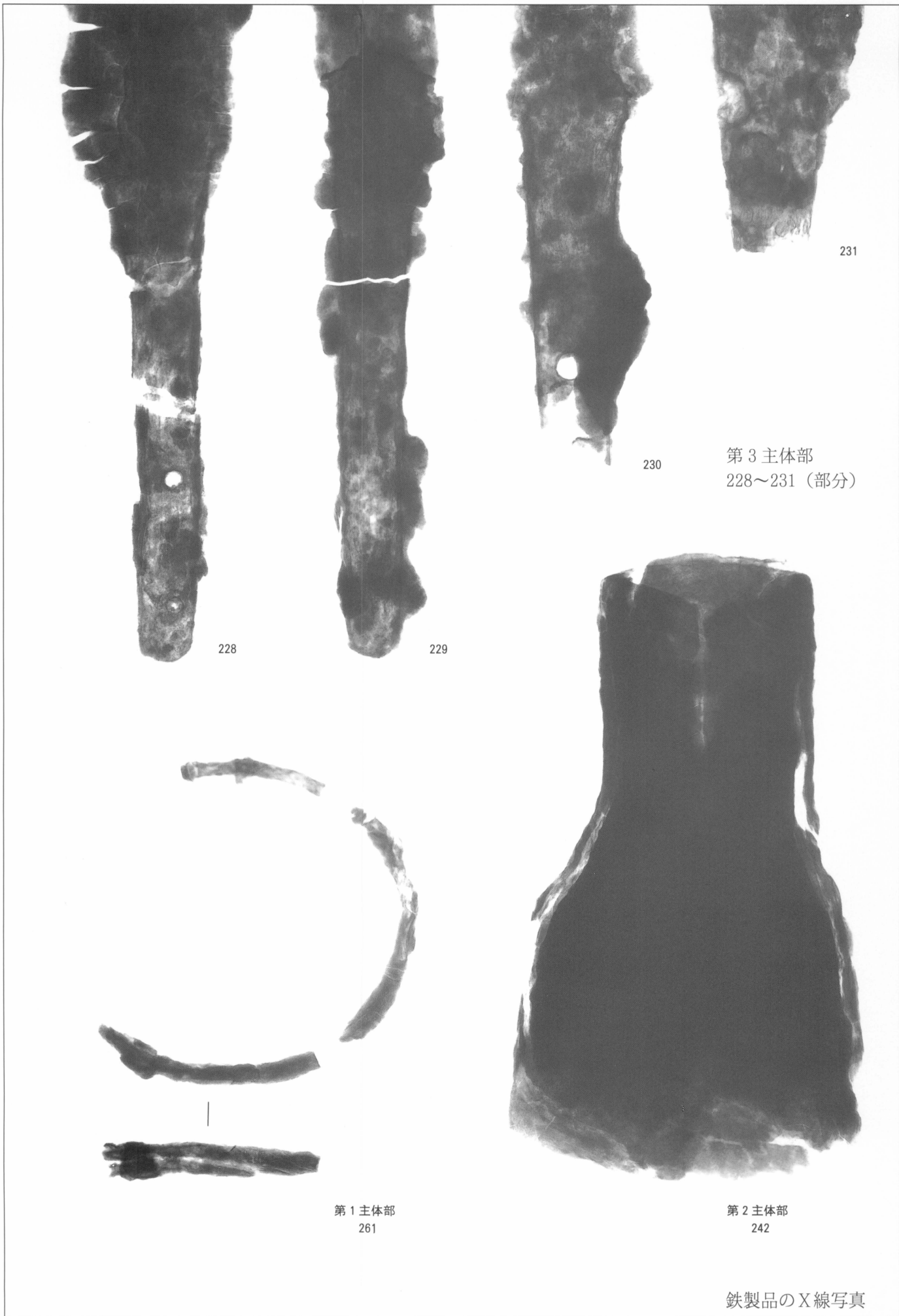


221



墳丘2区
303

鉄製品のX線写真



第3主体部
228~231 (部分)

第1主体部
261

第2主体部
242

報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゅうたうん7
書名	千原台ニュータウン7
副書名	草刈1号墳
巻次	7
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第295集
編著者名	田井知二
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL 043-422-8811
発行年月日	西暦1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		町村	遺跡番号					
くさかりいちごうふん 草刈1号墳	いちほらしくさかりあぎてんじん 市原市草刈字天神 だい 台1070ほか	219	028	35度 31分 50秒	140度 10分 00秒	19840401～ 19860331	古墳1基 (2,500㎡)	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
草刈1号墳	古墳	古墳	円墳	第1主体部 鉄鋌、剣、銅釧、 鉄釧、ガラス玉、 メノウ製丸玉、滑 石製玉類、管玉、 鎌、刀子、軽石 第2主体部 剣、矛、鉄鏃、ガ ラス玉、琥珀玉、 管玉、滑石製白玉、 鎌、斧、刀子、鋸、 鑿、きさげ状鉄器 第3主体部 剣、滑石製玉類	3基の主体部から 検出した600点以上に 及ぶ豊富な遺物は、 この地域の標準的な 資料となり得る。特 に2枚の鉄鋌と鋸は 千葉県では類例も少 なく特筆に値する。

千葉県文化財センター調査報告第295集

千原台ニュータウン7

—草刈1号墳—

平成9年3月31日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 住 宅 ・ 都 市 整 備 公 団
首 都 圏 都 市 開 発 本 部
東京都新宿区新宿4-3-17

財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 正文社
千葉市中央区都町2-5-5
